					実谷 アリイン 导攻	
科目名	マナー&ホスピタリ	リティ	教員名	河﨑 峰子		
Subject	Manner & Hospita	lity		/F] MD		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	マナー・ホスピタリティの基礎を学び、グローバル社会を見据え、日本人・外国人共に対応できる人材になるため、知識だけではなく、学んだことを行動に移せる実践力を培っていきます。日常生活の中からホスピタリティ溢れる事例を探し、気づきができるように習慣づけ、またマナーを通したコミュニケーションカの大切さを認識します。そして美歳学において、マナーとホスピタリティを通して美しく歳を重ねることも意識します。					
授業の目標	授業を通して、己を知り、他者を理解することで、真のマナーとホスピタリティを追求し、 大人になる礎を習得します。その為に、ビジネスマナーの基礎を学び、コミュニケーション 力向上のため、信頼関係構築の5つのポイント(挨拶・身だしなみ・表情・言葉遣い・態度) を掘り下げ理解し、社会人基礎力向上を目標とします。					
時間外学習 (予習・復習)	知識を習得しているかの確認の為の小テストを数回授業内で実施しますので、各授業のポイントを毎回自宅で復習して下さい。予習は次回使用予定のプリントを配布しますので、事前にプリントを読み込んでください。また課題レポート提出を求める際は、自宅にて作成し、メール等で送付してもらいます。その際メールの送付の仕方を復習し、実践してもらいます。各回の予習復習は概ね 60 分~90 分を見込みますが、時間に捉われ過ぎず、理解を深めることを重視して下さい。					
	教科書	なし				
#L 5.1 - 20 1 1 1	教材	プリントを適宜配	布。			
教科書・教材 ・ ・ ・	使用設備・備品	目設備・備品 CD, DVD、ビデオ再生機				
	参考文献	必要に応じて提示	します。			
評価方法	授業参加意欲 20%、レポート 15%、筆記試験 65%の比率で評価します。 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあ ります。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション マナ ーとホスピタリティとは何 かを学ぶ。	15 回で何を学んでいくかを理解 する。	次回の授業で使用するプリント(挨 拶と表情)を事前に読み、大まかな 流れを掴む。(60 分)			
第2回	信頼関係の基本 5 原則(挨 拶と表情を学ぶ)	第一印象の大切さを理解し、良い 挨拶を理解する。	「身だしなみ・言葉遣い」のプリントを事前に読み予習し、授業のポイントを復習する。			
第3回	信頼関係の基本 5 原則(身だしなみ・言葉遣いを学ぶ)		「言葉遣い」のプリントを事前に読 み予習し、授業のポイントを復習す る。			
第4回	信頼関係の基本 5 原則 (言 葉遣いを学ぶ)	敬語を理解する。	「クッション言葉」のプリントを事 前に読み予習し、授業のポイントを 復習する。			
第5回	信頼関係の基本 5 原則(クッション言葉を学ぶ)	クッション言葉を学び、コミュニ ケーション力を向上する。	「態度や立ち居振る舞い」のプリントを事前に読み、授業のポイントを 復習する。			
第6回	信頼関係の基本 5 原則(態 度や立ち居振る舞いを学 ぶ)	立ち姿、座り方、物の授受、指し 示し、案内ができるようになる。	再度「立ち居振る舞い」のプリント を事前に読み予習し、授業のポイン トを復習する。			
第7回	信頼関係の基本 5 原則 (立 ち居振る舞いを深く学ぶ)		「名刺の扱い方・紹介のマナー」の プリントを事前に読み予習し、授業 のポイントを復習する。			
第8回	信頼感の伝わるビジネス動作でコミュニケーションカを培う。	名刺の扱い方、紹介のマナーを理 解し、実践してみる。	「訪問来客の応対」のプリントを事 前に読み予習し、授業のポイントを 復習する。			
第9回	信頼感の伝わるビジネス動作で会社内での対応を学ぶ。	お茶の出し方、訪問来客の応対の マナーを理解し、実践する。	「席次・国旗」のプリントを事前に 読み予習し、授業のポイントを復習 する。			
第10回	信頼感の伝わるビジネス動作としてグローバルな知識を得、ビジネスの常識に触れる。	席次、国旗等について理解する。	「社内文書・社外文書・メール」の プリントを事前に読み予習し、授業 のポイントを復習する。			
第11回	文書について学ぶ	社内文書・社外文書・メールにつ いて理解する。	文書を作成し、添付してメールす る。(60分以上)			
第12回	基本的マナーとして食事の 仕方を学ぶ	洋食・和食のいただき方を知る。	文書の復習を再度行い、実践できる ようにする。はし遣いを実際の食事 の際に確認する。			
第13回	基本的マナーとして日本文 化を学ぶ	通過儀礼と日本のしきたりにつ いて理解する。	日本のしきたりを自分でも調べ、授 業の内容をより深く理解する。(60 分以上)			
第14回	基本的マナーとして冠婚葬 祭の知識を得る	結婚・葬儀・贈答等について理解 する。	冠婚葬祭の経験を自分なりに纏め てみる。祝儀袋・不祝儀袋を実際自 宅でも包んでみる。(60分以上)			
第15回	まとめ	15回の振り返り。大人としてマナーを習得する必要性を理解する。	15 回の授業の復習を行う。(60 分以 上)			

科目名	接客・接遇法		# B 5	\+++ +\+¬		
Subject	Service and Re	ception	教員名	遠藤 麻美子		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主火光 羽花用	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーションカ	
主な学習効果 	0	0	0	0	0	
科目の概要	美容を通して人と関わる仕事をしていく上で大切な接客・接遇法について学んでいきます。 お客様の立場にたって考え、お客様のニーズに応えること、その思いを表現する方法・伝え 方を考えていきます。プロとして仕事をしていくために必要であり、年齢や性別の違うお客様・職場の先輩・同僚と接する際に必要不可欠なコミュニケーション力を、演習を通して身 につけていきます。そして、いくつになっても美しくありたいという全ての人の思いに寄り 添い、どう接していったらよいかを考えていきます。また異文化圏の方々にも対応できる実 践力を身につけます。					
授業の目標	日々の生活の中で、学習した内容を実行できるよう身近な事例を多く取り上げることで意識 が高まり、コミュニケーション力を高めることができるようになります。グローバル社会の 一員として、またサービス業を担う一人として、誰とでも良好なコミュニケーションをとる ことができ、ニーズに合った接客・接遇を実践するための知識・技術を習得できます。					
時間外学習 (予習・復習)	毎授業テーマがあり、次回の授業内容のプリントを予習のために配布します。プリントの内容をよく読み、わからない語句などは調べておき、授業で質問できるよう自学習しておいて下さい。復習に関しては、授業で学習した重要なところをノートにまとめ、理解を深めて下さい。日常の中で感じたコミュニケーション力が活かせた事例、うまく発揮できなかった事例をメモしておくようにして下さい。各回の予習復習時間の目安としては 60~90 分です。					
	教科書	なし				
数 到	教材	なし				
教科書・教材	使用設備・備品	月設備・備品 DVD再生等AV機器				
	参考文献	参考文献 必要に応じて提示します。				
評価方法	授業参加意欲20%、レポート15%、筆記試験65%の比率で評価します 授業内容の性質上、特に授業態度は重視します。				で評価します。	
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げ、マナーに反する行為は退出を命ずることがあ ります。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション 接客・接遇とは何かを学ぶ。	授業の進め方を理解し、この授 業の全体像を把握する。	次回の「人間の欲求」のプリントを 読み、わからないことは事前に調べ ておく。(60分以上)			
第2回	人間の欲求について学ぶ。	人間の欲求にはどんなものが あるか、サロンに来るお客様は 何を求めているかを理解する。	授業で習ったポイントを復習し、自 分に照らし合わせて考える。次回の 「顧客満足」のプリントを読んで予 習しておく。			
第3回	顧客満足について学ぶ。	CS, ES, CDを理解し、お 客様が何に満足されるかを確 認する。	授業で習ったポイントを復習し、それぞれについて理解する。次回の「接客言葉遣い」のプリントを読んで予習しておく。			
第4回	サロンでの接客言葉遣いを学 ぶ。	サロンでの接客に相応しい言 葉遣いを理解し、使えるように する。	授業で習った言葉遣いを繰り返し 声に出して習得する。次回の「接客 敬語」のプリントを読んで予習して おく。			
第5回	サロンでの接客敬語を学ぶ。	敬語を使えるかどうか、ロール	授業で習った敬語を繰り返し声に 出して習得する。次回の「接客応対」 のプリントを読んで予習しておく。			
第6回	サロンでの接客応対を学ぶ。	サロンでの接客応対に必須の 礼、挨拶、姿勢を確認する。	授業で習ったポイントを復習し、鏡 の前で確認する。次回の「電話応対」 のプリントを読んで予習しておく。			
第7回	サロンでの電話応対を学ぶ。	電話応対を事例で学び、正しい言葉遣いでやりとりできるかロールプレイで確認する。	授業で習ったポイントを復習し、声 に出して確認しておく。次回の「お 客様の心理」のプリントを読んで予 習しておく。			
第8回	お客様の心理を考える。	ームにつながる場合の心理を	グループワークで話し合った内容 をまとめる。次回の「6つのお客様 心理」のプリントを読んでおく。			
第9回	6つのお客様心理について学 ぶ。	分が何をするべきか判断でき	授業で習ったポイントを復習し、次 回の「クレーム応対」のプリントを 読んで予習しておく。			
第10回	クレーム応対を学ぶ。	どう対応するかをグループで	グループワークで話し合った内容 をまとめる。次回の「プロの5意識」 のプリントを読んでおく。			
第11回	プロの5意識を学ぶ。	美容のプロとして仕事をして いくために、プロの5意識を理 解する。	授業で習ったポイントを復習し、プロとはどのような人か考えておく。			
第12回	プロとはどのような人かを考 える。	プロとはどのような人か、自分 はどうなりたいかを確認する。	自分がなりたいと思うプロとはど のような人かまとめてみる。次回の プリントを読んでおく。			
第13回	異文化圏の方に対する接客を 学ぶ。	異文化圏の方への接客を演習 し確認する。	授業で習ったポイントを復習し、次 回の「異文化圏の方に対する接客」 のプリントを読んで予習しておく。			
第14回	異文化圏の方への接客の際の 注意点		グループワークで話し合った内容 をまとめる。これまでに配布された プリント・ノートを復習しておく。			
第15回	まとめ	1 4回の授業を振り返り、理解 度を確かめる。	これまでに配布されたプリント・ノ ートを復習し、各自ノートにまとめ る。			

	1				天台ノッイン寺の	
科目名	色彩と造形		教員名	栗本 佳典		
Subject	Color and Format	ive Art				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	Δ	Δ	
科目の概要	美容をはじめデザインの現場から普段の生活の場まで、様々な状況で必要とされる色彩や造形の役割や表現方法について学びます。 色彩では、色の分類から配色、カラーイメージなどについて学習内容の解説を行った後、実際にカラーチップやポスターカラーを使って演習を行い課題を提出します。 造形では、さまざまなモチーフのデッサンや立体物の課題を作成し提出します。					
授業の目標	演習などを通して色彩や造形の基礎をしっかりと身につけるとともに、色や形に対する認識 力や発想力、イメージ力を養う。さらに、幅広い色彩感覚・造形感覚を身につけ、美容をは じめ、さまざまなな場面で必要となる色や形に対する判断力や表現力を高める。 また、課題提出時に学生と教員で相互評価を行うことにより、自己を振り返る機会を得る。					
時間外学習 (予習・復習)	月に一回程度、展覧会などを見に行き、作品における色彩や構造、画面構成を探ってください。また、ファッション雑誌や身の回りのデザインされたものなどを観察して、常に色や形を意識して感覚を磨いてください。					
	教科書	なし				
*/L 1 \	教材	なし				
教科書・教材 	使用設備・備品	1 1回のみデッサ	ン室使用			
	参考文献	なし				
評価方法	提出課題の理解度および完成度80%、授業態度20%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	なし					
本科目履修と 関連する資格	資格名	資格名 色彩検定 (A. F. T)				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション	美容をはじめ、デザインなどに おいて必要となる色彩や造形 の意義を知る。				
第2回	色彩の基礎用語とカラーシス テム	三属性や補色、カラーシステム など、色彩の基礎用語について 理解を深める。				
第3回	色名	色名の成立について理解を深めるとともに、オリジナルの色名を考え発想力を高める。				
第4回	色彩のトーン	明度、彩度から生まれるトーン 分類の表示方法を理解する。	TONE チャート使用			
第5回	配色技法	配色の効果や調和を利用でき る力を身につける。	カラーカード使用			
第6回	カラーウォッチングおよび色 彩再現	様々な物の色を観察し作ることで、色作成の力を高める。	ポスターカラー使用			
第7回	色彩とイメージワード	イメージ作りに必要となる、色 の表現力を身につける。	色鉛筆使用			
第8回	年齢による色認識と日本の色 彩文化	年齢と色認識との関係、および 日本文化における色の特徴を 知る。				
第9回	手のクロッキー	形の中にある構造を捉え描写 する力を身につける。				
第10回	マンガのヘアスタイル模写	さまざまなヘアスタイルをシ ンプルに表現する力を身につ ける。				
第11回	石膏像クロッキー	人物の形やバランスを短時間 で捉える力を養う。	デッサン室使用			
第12回	三面図と想定デッサン	異なる方向から客観的に立体 物を捉え描写する力を養う。				
第13回	立体と回転図形	立体物を表現する力を養うと ともに、立体に対する想像力を 高める。				
第14回	紙の立体作成および立体描写	シンプルなものからさまざま な形を生み出す力を身につけ る。				
第15回	まとめ	色彩構成を作成して総合的な 表現力を高めるとともに自己 の作品を解説する力を養う。				

	_						·
科目名	日本文化(茶道)			教員名	流區	京孝	
Subject	Traditional Art	(Tea Ceremony)		秋貝石	/刊 /苏	. 小子	
開講年次	1	開講時期	â		単	位	1
必修/選択	必修	授業形態	j	寅習	時	間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表	現力	主体的]行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0		0	()	0
科目の概要	社会で活躍するためには、専門的な知識や技術の習得のみならず、洗練された接客マナーが求められます。各回とも講義と実技(点前の稽古)呈茶を組み入れ、裏千家茶道の盆略点前を学習し、最後には自分で点てられるようにします。尚、呈茶には、毎回季節を感じるお菓子とお茶を頂きます。						
授業の目標	「道・学・実」を三位一体で学ぶことを通し、美の裏方としての人間形成が図れる。中でも「和敬静寂」を学ぶことを通して、精神面の成長が図れる。 東京オリンピック開催を控え、おもてなしの心を学ぶとともに、お茶の正しい点て方と頂き 方を習得できる。						
時間外学習 (予習・復習)	裏千家の盆略点前を学習するうえで、各回の復習は非常に重要なものとなります。お茶の正 しい頂き方、帛紗捌きの予習復習等、毎回1時間程度の学習が必要です。授業以上を望んで いる学生には部活動として無料で本校茶室愛治庵において指導しています。						
	教科書	『茶の湯で学ぶ美	三 河原	京字 著	(株)	淡交社	
	教材	帛紗セット					
教科書・教材	使用設備・備品	盆略点前に必要な	道具、和	D室、愛治 庸	Ē		
	参考文献	月刊誌『淡交』『 ーン先生の対談』			休の茶』	『15 代鵬	雲斎大宗匠とジェ
評価方法	筆記試験(50%)実技試験(15%)受講態度(35%)の総合評価						
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
履修上の注意	名札、腰紐、白いソックス、髪を束ねるゴムの用意。						
本科目履修と 関連する資格	資格名	茶道裏千家許状 [時間外学習を受請		 Eで希望者に	こは『中	級』の許	状取得可 。

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	講義 入門の心得、教材の配 布、許状説明 実技 お菓子お茶の頂き方、 点て方、自服	お菓子とお茶の頂き方を覚え ることができる。	日本のマナーを覚える。 お茶の正しい頂き方の復習
第2回	と意味	茶道と関係ある禅語を理解できるようになる。① 「喫茶去」の読み方と意味を覚える。	禅語「喫茶去」の読み方と意味。 床の拝見、お辞儀の仕方、歩き方の 復習
第3回	お茶室の勉強と感想文を書 く、呈茶	茶室の由来、名前、特徴を覚え る。	本物の茶室を見て、触れ、日本人で あることを再確認する。和室での正 しいお茶の頂き方を復習
第4回	講義 季節を感じるとは 実技 割稽古(1) 帛紗の扱 い、帛紗さばき	季節の移り変わりを知り、日本 の四季を実感でき。①	帛紗の扱い、帛紗捌きの復習正しい お茶の頂き方の復習
第5回			正しいお茶の頂き方、帛紗の扱い、 帛紗捌きの復習
第6回	講義 炉、風炉、立礼について 実技 割稽古(2)茶巾のたたみ方、茶碗の拭き方、茶 筅通し 、自服		正しいお茶の頂き方、帛紗の扱い、 帛紗捌きの復習
第7回	講義 お客様に好かれる方 法、接客マナー 実技 割稽古(3) 棗、茶巾に ついて	理想とする美容師観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。①	帛紗捌き、棗と茶杓の清め方を復習
第8回	とは、和敬静寂、歴代家元	理想とする美容師観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。② 千利休の精神を理解で きる。	分略占前の復習
第9回	講義 茶室における髪型、着付け、メイク 実技 盆略点前(2)、友達に点てる	理想とする美容師観を養える。 プロの自覚を持てるようになる。③	
第10回	講義 「利休遺偈」の読み方 と意味 実技 盆略点前(3)、友達に 点てる	「利休遺偈」の読み方と意味を 覚える。 千利休の精神を理解できる。	盆略点前の復習
第11回	読み方と意味、歴代家元(2)	「歳月不待人」の読み方と意味を覚える。 茶道と関係のある禅語を理解できるようになる。②	盆略点前の復習
第12回	講義 ビデオ『茶の湯自在』 実技 自服	ビデオを使いお茶事を学べる。 ビデオを通し、お茶事のお客ぶ りを体感できる。	お茶事の流れの復習
第13回	お茶会に招かれたお客様の勉 強、呈茶	お茶会に招かれた時のマナー を覚え、礼法におけるお客とし ての心構えを学ぶことで接客 力向上が図れる。	和室でのマナー、正しいお茶の頂き 方の復習
第14回	講義 利休七則、歴代家元 (3)、茶の湯英会話、茶の用 語抄 実技 盆略点前(5)、 友達に点てる	海外で活躍する場合を考え、英語による茶会を実践し習得できる。	利休七則を覚える 盆略点前の復習
第15回	講義 禅語「一期一会」の読 み方と意味、総復習 実技 帛紗捌き、棗、茶杓の 清め方、友達に点てる	茶道と関係のある禅語を理解 できるようになる。③	「一期一会」の読み方と意味を覚える。 正しいお茶の頂き方、帛紗捌き、棗・ 茶杓の清め方の予習

科目名	日本文化(華道)		** = 2	₩ 10 mm		
Subject	Traditional Arrangement)	Art (Flower	教員名	松﨑 光瞳		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
工也」日初末	0	0	0	0	0	
科目の概要	人間と自然に於ける共存の正しい在り方を華道という造形芸術で学び、それを再構築することにより日本の伝統文化を継承する。					
授業の目標	一般教養としての日本の華道史、及び生活芸術としての華道を学び、その華道の精神と技術の習得を通して美意識を高めることができる。それと共に、自然との共生を大切にする華道精神を理解することで、人間同士の共生を改めて考え、コミュニケーション能力やホスピタリティー精神の必要性を実感できるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業で学ぶ	構成図や構成表のイ	复習、花芸作品の評	写構成を行う		
	教科書	花芸 安達流 演	習ノート 「水」、	補足のプリント配	布	
 教科書・教材	教材	演習ノート、筆記	道具、色鉛筆、タス	オル、ノリ		
教科書・教材 	使用設備・備品	花器、花鋏、剣山	、花盆、花巾、色纸	沿筆		
	参考文献	花芸安達流安達瞳	子著書全書			
評価方法	平常点20%、毎回の課題点30%、試験50%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	なし					
本科目履修と 関連する資格	資格名	花芸 安達流 入	会「水」の終了証			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション 花寄せ	華道の授業に臨む心構えを学び、同時に初めて花芸作品の制作ができる	持ち帰り用の花材の手入れと配布 プリントの見直し			
第2回	花芸作品を制作するにあたっ てのプロセスの大切さを学ぶ	結果を出すことの大切さと同時にそのプロセスの大切さを 理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第3回	その季節の行事に合わせ、歴 史や文化を学び、花芸作品を 制作する	日本古来の文化や風習を学ぶ ことで、伝承美を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第4回	花芸作品を制作するために必 要な構成図を理解する	正面図と平面図の必要性と見 方を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第5回	花材の自然な姿を尊重し作品 を生けることを学ぶ	人と自然との共生を理解でき る	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第6回	花芸作品の美的バランスを学 ぶ	造形空間について、日本と西洋 の美的感覚の違いや、具体的な バランスを学べる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第7回	安達流の構成三原則の一つ、〈 五態〉を学ぶ	生態学、形態学から、その形状 に合った態を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第8回	安達流の構成三原則の一つ、〈 文法〉を学ぶ	花芸作品を作成するにあたり、 花材に役を定めることを理解 できる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第9回	花道史と花ばさみの扱いを学 ぶ	華道の歴史を歴史的背景と共 に理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第10回	植物の生態について学ぶ	植物の生理現象である水揚げ の仕組みなどを学び、植物の管 理法を理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第11回	文法の授業で学んだ〈主要三格〉の力関係の比率を学ぶ	主要三格の力関係〈コンポジション〉における美的バランスを 理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第12回	花材と花器のバランスを学ぶ	前回までの授業で学んだ花材間のバランスに加え、花器との全体のバランスを学び会得できる	演習ノートの復習と持ち帰った花			
第13回	安達流の構成三原則の一つ、〈 原型〉を学ぶ	〈原型〉を理解することで、論理的に花芸作品の美的バランスを理解できるようになる	演習ノートの復習と持ち帰った花 材で再演習			
第14回	複数人で花芸作品を制作する< 連花の演習>	〈連歌〉の心を受け〈連花〉を生けることで、共同作業の美的効果を学べる				
第15回	授業の総復習と花束制作	華道の授業で会得した美的感 覚、論理的演習法、自然や人、 社会との共生のありかたを再 考し、理解できる	演習ノートの復習と持ち帰った花			

					大石/ / 1 / 可久
科目名	ゼミナール I		数 吕夕	ガミ扣坐	
Subject	Seminar I		教員名	ゼミ担当	
開講年次	1	開講時期	通年	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	0	0	0
科目の概要	髪・顔・装い・精神美・健康美という建学の精神の理解の下に、キャリア支援教育を実施する。具体的には、一人の人間として、大人として、あるいは社会人としてのマナーやホスピタリティーを学びながら自己分析をし、自分自身の将来像を思い描き、方向性を定めていく。そして、それを具現化するために必要な課題を明確化する。				
授業の目標	自己分析をとおして自己を理解し、社会人としての良識やコミュニケーション力を身に付ける。 美容業界をはじめ様々な業界の研究をしながら方向性を定め、その業界で活躍するための準備をする。 履歴書やエントリーシート作成、面接技法等のスキルを高めていく。 これらは、進学・留学志望者においても、将来的な就職を見据え、同様に行っていく。				
時間外学習 (予習・復習)	ポートフォリオの作成や業界研究 就職活動に向けての動きは授業内では収まりません。 時間外でも業界研究、自己分析などは常に行うこと。 単位取得の目的以外に1週間では、120分程度の分析は必要です。				
	教科書	本学ゼミテキスト			
******	教材	本学ゼミテキスト			
料料書・教材 ・ ・ ・	使用設備・備品	業界研究用PC他			
	参考文献				
評価方法	授業や課題への取組み姿勢等				
	なお、出席数が不	足の場合は評価対象	 象とはしません。		
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			
	1	ļ.			

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	15 回分の内容を把握し、その 意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業の全体 像を把握する。	自己紹介		
第2回	アイスブレーク	仲間を理解し、伝えたいことを 表現する力をつける	ゼミの仲間との関係構築		
第3回	就職活動の全体像を把握する	短大生活における就職活動の 流れについて知る	就活についての現実を知る		
第4回	履歴書とは何か	履歴書の必要性を学ぶ	履歴書の一部を		
第5回	ポートフォリオとは何か	普段の授業や学外の体験をポートフォリオにしてみる。	自分の強みをみつけ、記録に残すこ との重要性を知る		
第6回	業界研究①	業界の種類や違いを知る			
第7回	業界研究②	自分が「好き」な企業、ブラン ドについて考え「志望」に変え る	将来行きたい企業・店舗・ブランド について考える		
第8回	業界研究③	現場調査の方法について学ぶ	調査対象の選択や 準備の方法について知る		
第9回	業界研究④	現場調査発表 他の人の体験からも学ぶ			
第10回	履歴書の書き方①	文章の書き方を学ぶ	趣味特技を書いてみる		
第11回	履歴書の書き方②	自分史年表を作り、見えていな い自分を知る。	自分史年表を作成してみる		
第12回	履歴書の書き方③	自分の強みをみつけ、知る。	今までの人生経験を整理し、自分の 長所や特徴をつかむ		
第13回	履歴書の書き方④	自己PRを考え書くことが出 来るようになる。	自己PRを書いてみる		
第14回	面接の基本	口頭発表の方法を学ぶ	人前で発表する		
第15回	夏休みの過ごし方	夏休みの目標と計画を自ら立 てることの重要性を知る。	外部講師によるセミナー		

	授業計画							
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考					
第16回	15 回分の内容を把握し、その 意味を理解する	オリエンテーション ゼミの位置づけと授業全体像 の再確認						
第17回	マナー	人の話の聞き方のマナーを学 ぶ						
第18回	インターンシップ報告会	仲間のインターンシップの体 験を共有する	就職への意識を高める					
第19回	業界研究⑤	OB・OGの話を聴き業界を知る	進路を考える機会を作る					
第20回	業界研究⑥	学内の先輩達の話を聴き業界 を知る	進路を考える機会を作る					
第21回	ES・履歴書の書き方「志望 動機」	進路を意識して文章を書くこ とが出来るようになる。	志望動機を書く					
第22回	履歴書のブラッシュアップ	先生から受けたアドバイスを 元に自己表現力を高める。	志望動機を完成させる履歴書の完 成					
第23回	進路別講座(マイナビ登録 他)	就職活動の準備としてマイナ ビに登録する	就職への意識を高める					
第24回	就職活動での身だしなみ	就職活動の身だしなみを学ぶ	就職活動のマナーを知る					
第25回	面接対策①	発声トレーニングと色々な言 葉の表現の方法を学ぶ	人前で話す					
第26回	面接対策②	面接の基本を学ぶ	面接の種類と方法を知る					
第27回	面接対策③	模擬面接を行うことで自分の 良いところ悪いところを知る。						
第28回	面接対策④	グループディスカッションの ポイントを知る。	面接練習を行う (グループディスカッション)					
第29回	春休みの過ごし方	春休みの目標と計画を立てる	外部講師によるセミナー					
第30回	春休みの過ごし方	企業のピックアップをし、研究 する	「足を動かす」ことを主題に、考え る					

					天台/ 717 守久	
科目名	ゼミナールⅡ		教員名	ゼミ担当		
Subject	Seminar II		双 貝石	ビス担ヨ		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	ゼミナール I を踏まえ、学生各々が目指す将来像をより具現化するための具体的な支援を行う。 履歴書やエントリーシート作成、面接技法習得等の支援を行い、進学・留学志望の学生には それらに加え、受験対策や準備等も行う。					
授業の目標	各々が将来目標を達成するためには何が必要で何が大切かを考え理解し、主体性を以って行動できるようにする。 就職先でのマナーを学ぶことによって幅広い年代への顧客対応力を身につける。					
時間外学習 (予習・復習)	業界研究、自己分析、面接練習とその振り返り等					
	教科書	本学ゼミテキスト				
#11 = +V.11	教材 本学ゼミテキスト					
教科書・教材 ・ ・	使用設備・備品	使用設備・備品 業界研究用PC他				
	参考文献					
評価方法	授業や課題への取組み姿勢等					
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
履修上の注意	なし					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
-	•					

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	15回の内容を把握し、その 意味を理解する、就活の流れ を確認する	オリエンテーション 春休みの成果を踏まえ、スケジ ュールを立てる	具体的に何をするべきかを確認す る				
第2回	履歴書・ESの書き方復習	趣味特技の分野について自己 分析し、自分を深く知る	自己分析をし、趣味特技を書き上げ る				
第3回	履歴書・ESの書き方復習	自分史年表を確認しながら、自 己を深く知る	自分史年表を見ながら自己 PR を作 成する				
第4回	履歴書・ESの書き方復習	企業を知り、それに対応した志 望動機を作成することが出来 る	15に主分析をイエニト 完空間機を作りす				
第5回	ポートフォリオの確認	ポートフォリオを自分で見直 し、完成度を高める	個別にチェックする				
第6回	面接対策	模擬個人面接を通し応答方法 等を習得する	繰り返し練習				
第7回	面接対策	模擬個人面接を通し応答方法 等を習得する	繰り返し練習				
第8回	面接対策	模擬グループ面接を行い質問 事項に対する答え方などを習 得する					
第9回	面接対策	グループディスカッションに 備え、聞き方や答え方などを習 得する					
第10回	就職活動直前マナー	企業研究をし、企業に対して必 要な準備を整える	就職活動に合わせて 最終確認する				
第11回	マナーを学ぶ	企業、サロンへの手紙の書き方 を習得する	就職活動に合わせて 最終確認する				
第12回	マナーを学ぶ	企業、サロンでの電話のかけ方 を習得する	就職活動に合わせて 最終確認する				
第13回	マナーを学ぶ	社会人としての敬語の使い方 を習得する	就職活動に合わせて 最終確認する				
第14回	マナーを学ぶ	各企業、サロンに見合った身だ しなみを研究し、認識する	就職活動に合わせて 最終確認する				
第15回	夏休みの過ごし方	夏休みの目標と計画を立てる	個別面談も含める				

情報リテラシー I Information Lite 1	eracy I	教員名	小林 秀明		
	eracy I		ነ ነ የሞ እም ነፃነ		
1			· 		
	開講時期	前期	単位	1	
選択必修	授業形態	演習	時間	30	
知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
0	0	Δ	Δ	_	
本講義では、コンピュータ入門、情報倫理及び電子メールを含めたインターネットの基本的な利用、ワープロソフトの基本的操作とレポート作成などの活用を演習を通じて習得する。また、プレゼンテーションソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作と活用を習得する。演習形式で行うため、出席や課題等の提出は必須になる。					
1) コンピュータの概要,情報倫理,電子メールの書き方を理解する 2) Microsoft Windows 及び Office を中心としたアプリケーションの基本操作を習得できる 3) レポートやビジネス文書作成の手順の理解,関連する情報活用術の習得,PC/アプリケーション操作スキルの実践ができる					
次回の講義内容の確認及び講義資料に目を通しておくこと. (20 分程度) 本講義は演習形式である為,各回の講義で実施した内容を十分理解し、操作方法等の習得の ために復習を行うこと. (30 分程度) また,タイピングスピードも演習に影響するため,各自練習をすること. (20 分程度)					
教科書	講義資料(Web 配7	有)			
教材	USBメモリ				
使用設備・備品	PC				
参考文献 情報リテラシー Windows10 対応 FOM 出版					
PC 演習室での講義, ほぼ毎週の演習課題を実施するため, 出席を前提としています. 課題, 小テスト, 期末試験, その他総合的に評価します. 【評価項目】 平常点 (10%) 課題(50%) , 試験(40%)					
資料配布及び課題提出は、Web サイトを利用します. その他、状況に応じて WEB ベースのアプリケーションを使用する場合もあります. 講義に関係のない私語、飲食は厳禁.個人の携帯端末の電源は OFF (通信を OFF にする).					
資格名	Microsoft Office	Specialist(MOS),	日商検定(3級),	P検3級	
	選 知	選択必修 授業形態 思考力・判断力	選択必修 授業形態 演習 知識・技能 思考力・判断力 表現力 ②	選択必修 授業形態 演習 時間 知識・技能 思考カ・判断力 表現力 主体的行動力 ②	

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション 講義の概要説明 ファイル・フォルダー タイピング練習	講義概要を理解する ファイルとフォルダーの基本 操作を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第2回	コンピュータ入門 5 大装置と周辺機器 インターネットの仕組み ネット検索と情報収集	コンピュータ, インターネット の仕組みを理解する ネット検索や情報収集ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前				
第3回	ファイル管理の基本 情報倫理・著作権 電子メール	情報倫理・著作権が理解できる 電子メールの書き方を習得で きる	13/101/1) 黄素食料1 ロを用して集削				
第4回	Word(1) 基本操作 基本的な文書作成	Word の基本操作を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第5回	Word (2) 表の作成と図の挿入	表の作成を習得できる 図の挿入ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第6回	Word (3) 文書印刷 表現カアップ	文書印刷ができる 表現力をアップする機能を習 得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第7回	Word (4) 長文レポート編集 レポート作成	レポートの作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第8回	Word (5) ビジネス文書の書き方 Word まとめ	ビジネス文書を作成できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第9回	PowerPoint (1) 基本操作 図形の挿入	基本操作を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第10回	PowerPoint (2) 表作成 グラフ作成	表、グラフ作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第11回	Excel (1) 基本操作 データ入力	基本操作を習得する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第12回	Excel (2) 表作成 表編集 表印刷	表の作成を習得できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第13回	Excel (3) グラフ作成 データベース操作	グラフを作成できる データベースを操作できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第14回	Excel (4) 複数シート操作 簡単な計算	複数シートを操作できる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第15回	Excel (5) 基礎的な関数 Excel まとめ	基礎的な関数を使える	総復習する 総合課題を実施する				

科目名	情報リテラシーⅡ		#1 E <i>Q</i>	小林 秀明		
Subject	Information Lit	eracy II	教員名	小杯 芳明		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	Δ	Δ	_	
科目の概要	本講義では、情報リテラシーIで習得した基礎知識や技術をさらに発展させた内容を行う、ワープロソフトの高度な操作とレポート・報告書の作成を演習を通じて習得する。また、プレゼンテーションソフトの応用的操作、表計算ソフトの高度な操作と活用を習得する。また、情報の表現の理解や計算方法の習得、画像や音声・動画加工方法を学習する。演習形式で行うため、出席や課題等の提出は必須になる。					
授業の目標	1) Microsoft Windows 及び Office を中心としたアプリケーションの応用操作を習得する 2) レポートやビジネス文書作成の手順の理解、総合的な情報活用術の習得、PC/アプリケーション操作スキルの実践ができる 3) 情報の表現の理解、計算方法を習得する 4) 画像や音声・動画加工ができる					
時間外学習 (予習・復習)	本講義は演習形式 ために復習を行う	次回の講義内容の確認及び講義資料に目を通しておくこと. (20 分程度) 本講義は演習形式である為,各回の講義で実施した内容を十分理解し,操作方法等の習得の ために復習を行うこと. (30 分程度) また,タイピングスピードも演習に影響するため,各自練習をすること. (20 分程度)				
	教科書	講義資料(Web 配布	布)			
*/_ ** */_ +/_	教材	USB メモリ				
教科書・教材 	使用設備・備品	PC				
	参考文献	情報リテラシー	Windows10 対応 F			
評価方法	PC 演習室での講義,ほぼ毎週の演習課題を実施するため,出席を前提としています. 課題,小テスト,期末試験,その他総合的に評価します. 【評価項目】 平常点(10%)課題(50%) ,試験(40%)					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	資料配布及び課題提出は、Web サイトを利用します。 その他、状況に応じて WEB ベースのアプリケーションを使用する場合もあります。 講義に関係のない私語、飲食は厳禁、個人の携帯端末の電源は OFF (通信を OFF にする)。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	Microsoft Office	Specialist(MOS),	日商検定(3級)	P 検準 2 級	

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション 情報リテラシー I (Word) の 総復習 タイピング練習	講義概要の理解する Word 基本操作の習得する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第2回	Word(1) 基本操作 基本的な文書作成	基本的な文書作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第3回	Word (2) 長文レポート編集 文書校閲	文書校閲ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第4回	Word (3) 数式入力 ビジネス文書総編集	数式入力ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第5回	Word (4) 情報の活用 Word まとめ		課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第6回	PowerPoint (1) デザイン 画面切替 アニメーション	デザインの変更, アニメーショ	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第7回	PowerPoint(2) ストーリー構成 スライドショー	PowerPoint を用いたプレゼン	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第8回	Excel (1) 基本操作の復習 基礎的な関数 表示形式	基本操作を理解する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第9回	Excel (2) 高度な関数 条件付き書式	高度な関数が使える	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第10回	Excel (3) 高度なグラフ作成	高度なグラフ作成ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第11回	Excel (4) ピボットテーブル 応用関数	ピボットテーブルが使える	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第12回	Excel (5) Excel まとめ		課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第13回	情報の表現・計算	情報の表現を理解する	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第14回	画像・音声・動画加工	情報の加工ができる	課題をこなして復習する 次回の講義資料に目を通して事前 に実施内容を理解する タイピング練習をする				
第15回	フォトレタッチソフト 総まとめ	フォトレタッチソフトが使え る	総復習する 総合課題を実施する				

科目名	心理学		教員名	五十嵐 靖博			
Subject	Psychology		教 貝石	五十風・明時			
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1		
必修/選択	選択必修	授業形態	講義	時間	30		
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ		
	0	0	0	0	0		
科目の概要	自分や他者を理解し美容に適用するには、人間に共通する心のメカニズムと個々の人の個性を作り上げている心的特性を理解する必要がある。本科目では美容にかかわる様々な現象と、日常生活の中で経験される思考や感情や行動を、心理学の諸理論をとおして説明する。 美容と心の関係を心理学的研究にもとづいて考察する。						
授業の目標	心理学の視点から美容やコミュニケーション、ホスピタリティに関する理解を深め、現場で使えるようになる。人間に共通する心のメカニズムを理解し、その性質を踏まえたうえで実生活で活用できる。心理学の知見を美齢学に適用できる。						
時間外学習 (予習・復習)	予め講義内容を整理する.授業後,分からない点を自分で確認できる						
	教科書	齊藤勇著『イラス	トレート心理学入	門(第2版)』 誠信	言書房 2010		
	教材	適宜,資料を配布	する				
教科書・教材 	使用設備・備品	用設備・備品 適宜, ビデオなど映像資料を使用する					
	参考文献	『ヒルガードの心	理学 (第 16 版)』	ブレーン出版 2	015		
評価方法	次の3点を総合的に評価する。平常点20%、ワーク20%、レポート50%、試験60%						
	なお、出席数が不	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	講義内容は難しくはないが、積極的に受講し理解しようとする姿勢が重要である。						
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし					
L	1	1					

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	心の諸概念、行動の意味、心 理学の研究法について学ぶ	心理学とは何かを説明できる。	予め心とは何かを考えておくこと。 授業後に自他の心観を心理学用語 を用いて説明する。
第2回	五感、視覚の重要性。目とカ メラ	知覚の基本的なメカニズムを 説明できる。	予習として眼の構造図を理解する。 復習として視覚が成立すつ過程を 自分で説明する。
第3回	錯視などの知覚現象と外見・ 美容	知覚と美容の関係を説明でき る。	予習として知覚のメカニズムを確認する。復習として美容におけ錯視の例を自分で考える。
第4回	パーソナリティの成り立ち	パーソナリティを理解する。	予め自分がパーソナリティをどう 考えているか、確認する。復習とし て自分のパーソナリティの成り立 ちを考える。
第5回	自他のパーソナリティをどの ようにして測定するか	パーソナリティ検査について 説明できる。	予習として今までに受けた心理検査について考える. 復習としてパーソナリティ検査の仕組みをふり返る。
第6回	小集団とそのメカニズム	社会的行動の基礎について説 明できる。	予習として日常生活の中で人間関係が自分に与える影響を考える。復習として集団カ学の用語を用いて事例を説明する。
第7回	服従と社会的役割		予め社会的役割とは何か自分で考える。復習として自分で事例をあげ 説明する。
第8回	ストレス, ストレッサー、汎 適応症候群	ストレスとは何か、説明でき る。	予習としてストレスの例を考える。 復習としてストレスの影響を身近な事例で説明する。
第9回	不安障害、心身症	ストレスと心の障害の関係を 説明できる。	予め不安が何をもたらすか。自分の 経験を振り返る。復習として自分が なりやすい心身の障害について考 える。
第10回	うつ病、統合失調症	うつ病や統合失調症について 説明できる。	うつ病と統合失調症に関する自分 の考えを予め振り返る。授業後、身 近な人が治療を受ける場合、どうす ればいいか考える。
第11回	エステの心理学	エステが心に及ぼす効果を説 明できる。	予めエステと心理学の関係を考える。復習として個々の施術と心への効果の関係を説明する。
第12回	魅力の心理学	自他の外見が認知や魅力にど う影響するか、説明できる。	予習として魅力とは何か、考える。 授業後、魅力的な人の具体例をあげ 心理学的に説明する。
第13回	美の社会的構成	1	予習として自分が美しいと思うものを明確にする。復習としてなぜそう思うのか、具体的に説明する。
第14回	心理学を活かす:美齢学へ向 けて		予習として美齢学とは何か、調べる。授業後、自分の生活と心理学の 関係を具体例をあげて考える。
第15回	まとめ	定期試験に向けて、講義内容を ふりかえり、確認する	予め講義内容を整理する。授業後、 分からない点を自分で確認できる。

Cross-cultural U	nderstanding	教員名	遠藤 麻美子			
2						
I	開講時期	後期	単位	1		
選択必修	授業形態	講義	時間	30		
知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ		
0	0	Δ	0	0		
価値観が多様化し、国際化が進む現代だからこそ、他国の文化・生活様式・価値観を理解し受け入れることが重要です。併せて他国の文化と比較しながら、自国の文化についても理解を深めていきます。医学の進歩に伴い、世界的に高齢化が進んでいる中、他国での高齢者に対する取り組みなどにも着目して、さまざまな視点から他国の文化との比較しながら授業を展開していきます。						
他国の文化(衣食住、宗教など)を学習し、自国の文化と比較しながら理解を深めることができます。異文化間のコミュニケーションに必要不可欠な文化・価値観の違いを理解できるようになります。国際人として相手を認め、受け入れて、その気持ちを行動にうつせるコミュニケーション論も学習し、身につけることが目標です。						
毎授業テーマがあり、次回の授業内容のプリントを予習のために配布します。プリントの内容をよく読み、わからない語句などは調べておき、授業で質問できるよう自学習しておいて下さい。海外のニュースや他国のことをとりあげた番組などをみて知ったことはメモし授業内で共有できるようまとめて下さい。復習に関しては授業で学習した重要なところをノートにまためて下さい。						
教科書	なし					
 教材	なし					
使用設備・備品 DVD再生等AV機器						
参考文献	参考文献 必要に応じて提示します。					
授業参加意欲30%、レポート、グループ発表(併せて70%)の結果等を総合的に評価します。						
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
居眠り、飲食、携帯電話の使用、授業の妨げになる行為は退出を命ずることがあります。						
資格名	なし					
	知識 ⑥ がれて取て 毎容下内に 教 教 使 参 授ま な 居 の は でよっ 毎容下内に 教 教 使 参 授ま な 居 の まにケ 業よい共と 書 は かれて取て ですなー テく。有め がれて取て でみ外き下 備 献 加 出 、 でみ外き下 備 献 か 魚 食 のまにケ まいせい が、のるさ 品 3 が 、 のるさ にがすなす。 のまにケ にがすなす。 のまにケ にがすなす。 のまにケ にのまでで は は かんことい が、のるさ は な 数 食 の でんかん は かんことい に がすなす。 の で 不 携 は かんことい に かんこと	知識・技能 思考カ・判断カ ③	知識・技能 思考カ・判断カ 表現カ ②	知識・技能 思考力・判断力 表現力 主体的行動力 ⑥ ⑥ △ ○ ⑥ ⑥ △ ○ ⑥ ⑥ △ ○ ⑥ ⑥ △ ○ ⑥ ⑥ △ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ⑥ ○ ○ ○ ○		

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション 異文化理解とは何かを学ぶ。	授業の進め方を理解し、この授 業の全体像を把握する。	異文化理解について自分で調べ、まとめる。次回のオリジナル日本地図 作成のための予習をしておく。				
第2回	異文化と比較するために日本 について学ぶ。	く、名産、有名観光地なども書 き入れオリジナルの地図を作	授業で習ったポイントを復習し、地図を完成させる。次回のオリジナル世界地図作成のための予習をしておく。				
第3回	世界地理を学ぶ。	白地図を使い、国名だけでなく、名産、有名観光地なども書き入れオリジナルの地図を作成する。	授業で省つたホイントを復省し、地 図を完成させる 次回のプリントを				
第4回	世界地理を再確認し、大陸ごとに学ぶ。		授業で習ったポイントを復習し、確 認する。次回の「世界の衣文化」の プリントを読んで予習しておく。				
第5回	世界と日本の比較 衣について学ぶ。	世界の主な衣文化を学び、一般 教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確 認する。次回の「世界の食文化」の プリントを読んで予習しておく。				
第6回	世界と日本の比較 食について学ぶ。	世界の主な食文化を学び、一般 教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の住文化」の プリントを読んで予習しておく。				
第7回	世界と日本の比較 住について学ぶ。	世界の主な住文化を学び、一般 教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確 認する。次回の「世界の宗教」のプ リントを読んで予習しておく。				
第8回	世界と日本の比較 宗教について学ぶ。	世界の主な宗教を学び、一般教 養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確 認する。次回の「世界の福祉事情」 のプリントを読んで予習しておく。				
第9回	世界と日本の比較 福祉について学ぶ。	世界の福祉を学び、一般教養を身につける。	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の「世界の高齢者事情」のプリントを読んで予習しておく。				
第10回	世界と日本の比較 美齢学の観点から高齢者につ いて学ぶ。	世央小鸟殿孝について字八 一	授業で習ったポイントを復習し、確認する。次回の研修旅行の振り返りの準備をしておく。				
第11回	研修旅行で訪れたロンドン・ パリについて再確認する。		授業で再確認したポイントを復習 し、確認する。興味のある国を事前 に考え選んでおく。				
第12回	興味のある国を選び、日本や 他国と比較し理解を深める。		選んだ国の文化・日本や他国との違 いについて調べ、予習復習を行う。				
第13回	興味のある国を選び、日本や 他国と比較し理解を深める。	る。グループ発表の準備をす る。	選んだ国の文化・日本や他国との違いについて調べ、予習復習を行う。				
第14回	興味のある国を選び、日本や 他国と比較し理解を深める。	グループワークで理解を深め、	選んだ国の文化・日本や他国との違いをまとめ、復習する。これまでに配布されたプリント・ノートを復習しておく。				
第15回	まとめ	1 4回の授業を振り返り、理解 度を確かめる。	これまでに配布されたプリント・ノ ートを復習し、各自ノートにまとめ る。				

科目名	海外研修(ヨーロ	¢)			
Subject	のverseas Study(E		教員名	秋田 留美	
開講年次	1	開講時期		単位	1
必修/選択	必修	授業形態		ー ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	30
20197 2517					ホスピタリティ・
主な学習効果	知識・技能	│思考力・判断力 │ │	表現力 ————————————————————————————————————	主体的行動力	コミュニケーションカ
	©	0	Δ	0	©
科目の概要	する機会を得る。 等の見学研修や一	具体的には、ファ	ッション、美容、そ よるヘアデザイン、	それらの関連施設、 メイク等を中心と	: したショーを見学
授業の目標	海外の文化や習慣等に触れることによって、国際的な意識を高める。 また、コミュニケーション力の大切さを知るとともに、ファッションや美容に対する学習意 欲を高める。 世界を知ることで目指すべき目標を見つける。 また、世界を知らなければ国内でも1番に成れないことを知る。				
時間外学習 (予習・復習)	特段の時間外学習は必要ないが、説明会の内容を保護者に報告する。 帰国後は体験を報告するなどし、人に伝えることで体験を経験にする。				
	教科書				
*/L 1 \ - = +/L + 1	教材				
教科書・教材 	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	説明会への出席状況と、研修後のレポートも合わせて総合的に評価する。				
履修上の注意	有意義な研修とするためには、事前の説明会への参加のみならず、自らが意欲をもって事前に調査研究しておくことが望まれる。原則として集団行動をとるため、参加に当たっては特に自覚的参加とマナーを守ることが求められる。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	説明会① 海外研修の概要	海外研修に行く意義を理解す る。	資料を確認し、保護者に説明する。			
第2回	説明会② 海外研修に必要な手続きにつ いて	海外研修に行く為に必要な手 続きを理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。			
第3回	説明会③ 主な注意事項	イギリス、フランスでやっては いけないこと、注意すべきこと を理解する。	資料を確認し、保護者に説明する。			
第4回	説明会④ 詳細なスケジュールについて	スケジュールを把握し、詳細な 行動計画をたてられるように なる。	資料を確認し、保護者に説明する。			
第5回						
第6回						
第7回	ロンドンでの研修 市内見学 ビューティセミナー		ただの旅行にしないように自分なりにロンドンでの体験をまとめる。			
第8回						
第9回						
第10回						
第11回						
第12回	パリでの研修 市内見学		ただの旅行にしないように自分な			
第13回	ビューティショー ディナーショー	ン、風俗、習慣等を知る。	りにパリでの体験をまとめる。			
第14回						
第15回						

T-1 - 17						
科目名	英語コミュニケーション		教員名	英語チーム		
Subject	English Communic	ation				
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	©	0	
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.					
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer					
時間外学習 (予習・復習)	As required					
	教科書	Salon English				
*/LT-J == */L_1_1	教材	Note book, pen or pencil, dictionary (optional)				
教科書・教材 	使用設備・備品 As required					
	参考文献	As required				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	Class Introduction	motivation, importance	Course requirements, career and personallife, importance of positive communication				
第2回	ICOMP LIMENTS	Pair and group, small talk	Able to give and receive compliments, comfortable using small talk phrases				
第3回		telephone greetings, explaining business hours, availability, taking an					
第4回		appointment, ending	3) take client's name, telephone4) confirm appointment5) end the call				
第5回		appointment, first time	Basic understanding as to how to take an appointment over the				
第6回	Escorting Shampooing	take clients bag or coat, client wait, escort client to shampoo area, mock	checking for appointment checking for first time client				
第7回		shampoo, escort client, seat the client comfortably	take client's name /take client's bag and/or coat				
第8回	Beauty Business Documentary	Watch toreign documentary on	Understanding the beauty business in America and Europe, communication				
第9回		Original conversation asking the client what they	How to ask a client what they would like to do and ask pertinent questions to confirm				
第10回	What would you like to have done?	asking (5) related	that they understand what the client wants. students will learn how to carry on casual conversations in				
第11回		compliments, pair practice in real salon setting					
第12回	Small talk techniques		Students will be able to comfortably engage in small talk with clients				
第13回		Final presentation In pairs students begin to write dialog					
第14回	Final Presentation "The Total Salon Experience"	Pair practice in real salon	Students will present a complete presentation of the entire salon experience.				
第15回		Final presentation - in the salon					

					実谷アリイ ノ 导攻	
科目名	グローバルスタイリスト英語	——————————— 吾 I	<u></u>	苗語壬二/		
Subject	Global Stylist E	nglish I	教員名	英語チーム		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out various role-play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.					
授業の目標	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer					
時間外学習 (予習・復習)	As required					
	教科書					
#L *1	教材					
教科書・教材	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	Class Introduction		Course requirements, career and personallife, importance of positive communication			
第2回	1	Mocabulary and phracec Dair and	Able to give and receive compliments, comfortable using small talk phrases			
第3回	Stylist and intern	Students will create original dialogs bsed on	Students will practice useful dialogs for use in			
第4回	Role Play #1	real salon situations	international salon internships			
第5回	Stylist and intern Role Play #2	Students will create original dialogs bsed on	Students will practice useful dialogs for use in			
第6回	Kole Flay #2	real salon situations	international salon internships			
第7回	Stylist and intern	Students will create original dialogs bsed on	Students will practice useful dialogs for use in			
第8回	Role Play #3	real salon situations	international salon internships			
第9回	Appointments	telephone greetings, explaining	i) retepriorie greetings			
第10回	Business Hours	الما	2) Explain business hours 3) take client's name, telephone 4) confirm appointment 5) end the call			
第11回			Danie umdanakandina as ka kamba			
第12回	Salon Greetings Escorting	Salon greetings, appointment, first time customer, clients name, take clients bag or coat, client wait, escort client to	Basic understanding as to how to take an appointment over the telephone salon greetings			
第13回	Shampooing	shampoo area, mock shampoo, escort client, seat the client comfortably	checking for appointment checking for first time client take client name take client's bag and/or coat			
第14回						
第15回	Beauty Business Documentary		Understanding the beauty business in America and Europe, communication			

科目名	カ゛ローハ゛11.フカノ!!フし芋 部	 Б. П				
	グローバルスタイリスト英語		教員名	英語チーム		
Subject	Global Stylist E					
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	Summary-In this class we will focus on communication between an intern and stylist and an intern and client					
授業の目標	clients. Student	Aim- The aim of this course is to prepare students to interact with stylists and clients. Students will practice effective techniques to stay engaged, interested and positive when in a salon				
時間外学習 (予習・復習)	Original materia (Canada Styles)	l and Hair Salon	English			
	教科書					
WL 1/1	教材					
教科書・教材	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
	なの、山所数が17.たり場合は計1111対多Cはしません。 					
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	Introduction / Orientation	students will be briefed on course contents and schedules	
第2回			
第3回	Salon Communication #1	Meeting people	Students will be able to positivly approach people and initiate conversations
第4回			
第5回			Chudanta mill ha successive
第6回	Salon Communication #2	#2 Small Talk with clients initiate a	Students will be prepared to initiate and maintain common, everyday small talk conversations with clients
第7回			
第8回			
第9回	Salon Communication #2	In the salon	Students will be prepared to initiate and maintain general conversations with stylists in an international salon setting
第10回			
第11回	- Hair Salon English #1	Escorting the client	Students will learn 31 useful English phrases related to
第12回			greeting and escorting a client
第13回			
第14回	Hair Salon English #2	Reservations	Students will learn 42 useful English phrases related to taking telephone reservations
第15回			

グローバルスタイリスト英語 Global Stylist En 1		教員名	英語チーム		
	nglishⅢ		大品,一厶		
1	Global Stylist EnglishⅢ				
	開講時期	前期	単位	1	
選択必修	授業形態	演習	時間	30	
知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
0	0	0	0	0	
Summary - In this class, we will focus on daily conversations in various situations, learning how to manage small talks we would need to lead daily conversations. We will also develop vocabulary related to design and fashion, using a textbook specialized in such fields.					
Aim — The goal of this class is to develop general conversation skils of the students in daily situations as well as developing a variety of vocabulary, including specialized ones in design and fashion.					
As required					
教科書	Global 3				
 教材	Note book, pen or pencil, dictionary				
使用設備・備品	使用設備・備品 As required				
参考文献	As required				
ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習、テストなど 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
資格名	なし				
	知識・技能 O Summary - In this learning how to will also developed in daily situating pecialized ones Aim - The goal of in daily situating pecialized ones As required 教科書 教材 使用設献 ペアワ状、 ロー意称 ペカスカックの表数が不った。 なお、 出席数が不った。 なお、 出席数が不った。 なお、 はなお、 はなお、 はなお、 はないで、 なないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、 ないで、	知識・技能 思考力・判断力 O Summary - In this class, we will flearning how to manage small tal will also develop vocabulary respecialized in such fields. Aim - The goal of this class is to in daily situations as well as specialized ones in design and fast	知識・技能 思考カ・判断カ 表現カ O O ⑤ Summary - In this class, we will focus on daily corlearning how to manage small talks we would need will also develop vocabulary related to design specialized in such fields. Aim - The goal of this class is to develop general or in daily situations as well as developing a vaspecialized ones in design and fashion. As required 数科書 Global 3 数材 Note book, pen or pencil, diction 使用設備・備品 As required 参考文献 As required ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習、出席状況と参加意欲なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。	知識・技能 思考力・判断力 表現力 主体的行動力 O の ® Summary - In this class, we will focus on daily conversations in valearning how to manage small talks we would need to lead daily of will also develop vocabulary related to design and fashion, uspecialized in such fields. Aim - The goal of this class is to develop general conversation skill in daily situations as well as developing a variety of vocab specialized ones in design and fashion. As required 参科書 Global 3 教材 Note book, pen or pencil, dictionary 使用設備・備品 As required 参考文献 As required ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習、テストなど出席状況と参加意欲なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。	

	T	授業計画 	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	Class Introduction / Meeting People	Overall explanation, motivation, importance of positive communication, self-introduction.	Prepare for a short presentation of your self-introduction.
第2回	Clothes and Apparel	(1) Short self-introduction,(2) Able to describe outfits.Vocabulary of clothing.	Write a short essay about yourself.
第3回	Colors and Patterns	Able to talk about your favorite outfit.	Draw and describe your favorito outfit.
第4回	Materials	Learn how to describe materials.	Practice how to describe your favorite outfit.
第5回	Coordination	Able to describe coordination. Learn how to use prepositions. Ask for opinions.	Think about your favorite styles and how to explain them.
第6回	Styles and Trends	Able to ask others for opinions. Learn how to describe styles and trends.	
第7回	Review Test	Review Quiz	Review of the past classes.
第8回	Describing People	Learn vocabulary about body- parts. Able to describe how others look like.	Prepare to talk about your room.
第9回	Home Decorating	Able to talk about your room. Learn vocabulary describing locations.	Prepare to talk about your favorite places.
第10回	Shops and Cafes	Able to talk about your favorite shops, cafes and reasons you like them.	Write about your favorite things and
第11回	Sewing and cooking	Able to explain the way to make something, or recipes.	Write a recipe of your favorite food.
第12回	Daily Routines 1	Learn how to describe daily routines. Learn vocabulary to describe time and activities.	IStart nlanning vour tina
第13回	Daily Routines 2	Able to describe daily routines. Learn adverbs of frequency. Learn how to manage an effective presentation.	Practice presentation
第14回	Review Test & Presentation Rehearsal	Review Test & Presentation Rehearsal	Prepare for the final presentation.
第15回	Final Presentation "My Daily Life"		Watch others doing presentation and learn how they can manage effective presentation.

科目名	グローバルスタイリスト英語	ξIV				
Subject	Global Stylist E	nglish IV	教員名	英語チーム		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	Summary — In this class we will focus on positive communication. We will act out various role—play or real language situations based in a salon setting. All role-play activities will be done as pair work or directly with the teacher.					
授業の目標	skills and develo	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required					
	教科書					
*/L 5.1 - 3. */L 1.1	教材					
教科書・教材	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回					
第2回	What would you like to have done?	Original conversation asking the client what they would like to	How to ask a client what they would like to do and ask pertinent		
第3回		have done, asking (5) related questions, five (5) small talk phrases, and two (5) compliments, pair practice in	questions to confirm that they understand what the client wants. students will learn how to carry on casual conversations in English.		
第4回		real salon setting	students will learn how to give compliments		
第5回					
第6回					
第7回	Client small talk and compliments	Students will create original conversations	Students will be able to initiate and maintain normal, everyday conversations with clients		
第8回					
第9回	Salopn Image Creation	In preparation for final presentation students will	Students will be able to creat an original salon concept for use in		
第10回	Caropii Illiago Croacion	create an original salon image	final presentation		
第11回	liongon and Paris		Learn about traveling in Europe to prepare them for their school trip		
第12回		Final presentation			
第13回	Final Presentation "The Total Salon	In pairs students begin to write dialog Pair practice in real salon setting with both students	Students will present a complete presentation of the entire salon		
第14回	"The Total Salon Experience"	acting with both students acting out the role of the stylist and customer Final presentation - in the salon	experience.		
第15回		Saluii			

科目名	グローバルスタイリスト英語	ΕV			
Subject	Global Stylist E		教員名	英語チーム	
開講年次	1	開講時期		 単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態		—————————————————————————————————————	30
	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・
主な学習効果	0	0	©	©	コミュニケーションカ
科目の概要	Summary-In this class we will focus on communication between an intern and stylist and an intern and client				
授業の目標	Aim- The aim of this course is to prepare students to interact with stylists and clients. Students will practice effective techniques to stay engaged, interested and positive when in a salon				
時間外学習 (予習・復習)	Original material and Hair Salon English (Canada Styles)				
	教科書				
	 教材				
教科書・教材	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

		授業計画		
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考	
第1回	Salon English #3	Having the client wait	Students will learn 40 useful English phrases related to having the client wait and	
第2回			general small talk	
第3回	Salon English #4	Paying and Escorting	Students will learn 16 useful English phrases related to	
第4回			having the client pay and thanking the client	
第5回			Students will learn 26 useful	
第6回	Salon English #5	Counseling	English phrases related to hairstyles and asking the client what they would like to have done	
第7回				
第8回	Salon English #6	Shampoo	Students will learn 16 useful English phrases related to	
第9回			language needed for perfomring a shampoo	
第10回			Students will learn 32 useful	
第11回	Salon English #7	Haircutting	English phrases related to haircutting and asking client how they would like their hair cut	
第12回			541	
第13回			Students will learn 40 useful	
第14回	Salon English #8	Hair coloring and Perming	English phrases related to haircoloring and perming and asking client how they would like their hair colored and	
第15回			permed	

科目名	グローバルスタイリスト英語	₹VI				
Subject	Global Stylist E	nglish V I	教員名	英語チーム		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out 278 key phrases that are commonly used in a hair salon.					
授業の目標	skills and develour focus will b	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required — at	least 60 minute	es per lesson			
	教科書					
	教材					
教科書・教材	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	Greeting and Escorting a	Studennts will practice 36 key phrases and vocabulary related to greeting and	Students will review the first 36 phrasees and check next 44		
第2回	CITEIL	escorting a client	phrases		
第3回			Students will review the first 20 phrasees and check next 24 phrases		
第4回	Taking reservations	Studennts will practice 44 key phrases and vocabulary related to taking reservations	Students will review the 44 phrasees and check the next 44		
第5回			phrases relating to waiting		
第6回			Students will review the first 20 phrasees and check next 24 phrases		
第7回	Having a client wait	Students will practice 44 key phrases and vocabulary related to having a client wait	Students will review the 44 phrasees and check the next 44		
第8回			phrases relating to paying and escorting a client		
第9回	Paying, giving change and	Students will practice 20 key phrases and vocabulary	Students will review the 20 phrasees and check next 24		
第10回	escorting	related to having a client	phrases		
第11回					
第12回	Counseling a client	Students will practice 20 key phrases and vocabulary related to counseling a client	Students will review all 20 phrases		
第13回					
第14回	Review first 124 phrases	Students will create and act out a role play based	Students will create a general		
第15回	·	on the first 5 units	outline of their role play		

	1			T	大石 ノ ケイマ 寺久	
科目名	グローバルスタイリスト英語	吾VII	教員名	英語チーム		
Subject	Global Stylist E	nglish VI	秋月石	7m / 4		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	Summary - In this class we will focus on positive communication. We will act out 278 key phrases that are commonly used in a hair salon.					
授業の目標	skills and devel Our focus will b	Aim - The goal of the class is to help students improve their English communication skills and develop a better understanding of how to communicate in a positive way. Our focus will be on the language typically used in a hair salon - communication between a hairstylist and customer				
時間外学習 (予習・復習)	As required - at	least 60 minute	es per lesson			
	教科書	Canada Styles -	Hair Salon Englis	sh		
	教材					
教科書・教材	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	ペアワーク、ロールプレイ、発表など、授業中の演習 出席状況と参加意欲 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	積極的に英語を学びたい人の参加を希望します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
	II.	ı				

		授業計画		
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考	
第1回	- Shampoo	Students will practice the 32 key phrases pertaining to shampoong	Students will review the 32 shampoo phrases and check the next 24 phrases dealing with	
第2回			haircutting	
第3回				
第4回	Haircutting	Students will practice the 32 key phrases pertaining to haircutting	Students will review the 32 shampoo phrases and check the next 24 phrases dealing with coloring and perming	
第5回				
第6回				
第7回	Color / Perm	Students will practice the 32 key phrases pertaining to coloring and perming	Students will review the 32 shampoo phrases and check the next 18 phrases dealing with handling client complaints	
第8回				
第9回	complaints	18 phrases dealing with	Students will review the 18 key phrases pertaining to handling client complaints	
第10回	- Marin Tagawa	hairstylist will perform a service (cut,color,perm) on a real client	video/audio of the actual	
第11回		Students will act out the communication styles in the model video	commnication that took place with the stylist and customer	
第12回	Lukaro satori & spa, beverty	hairstylist will perform a service (cut,color,perm) on a real client	video/audio of the actual	
第13回	Hills Kana Ishii	Students will act out the communication styles in the model video	commnication that took place with the stylist and customer	
第14回	_ Ganada Styles - Akemi	hairstylist will perform a service (cut,color,perm) on a real client	video/audio of the actual	
第15回	Yamashita	Students will act out the communication styles in the model video	commnication that took place with the stylist and customer	

科目名	日本事情 I				关石/ / 1 v 守久
Subject	Current Japanese	Tonics I	教員名	日本語チーム	
開講年次	1	開講時期	 前期	単位	(1)
	' 外国人留学生は必				
必修/選択 	修	授業形態 	演習 	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	0	0
科目の概要	本クラスでは、美容を学ぶ留学生が、大学の授業を受けるために必要な日本語(アカデミック・ジャパニーズ)を学習する。具体的には、以下の項目を中心に学んでいく。①講義の聞き方を学ぶ。②ノートの取り方を学ぶ。③文章の書き方を学ぶ。④発表の仕方を学ぶ。特に文章作成では、書き方の学習と並行して実際に短いレポートを書き、学習者相互にピアレスポンスをしながら仕上げていく。書き上げたレポートはクラス内で発表し、相互評価を行うことで、学生一人ひとりの自律性を高める。活動を通して、自分の考えを日本語で表現できることを目指す。				
授業の目標	「講義を聞き、重要な項目をメモすることができる」「文章の書き方を理解し、美容に関するレポートが書ける」「自分の言いたいことを、他者に簡潔に伝えることができる」				
時間外学習 (予習・復習)			しておくこと。また 予習 60 分。復習 60 ½		できるかぎり忘れな
	教科書	 なし			
	教材	 教師作成プリント(———————— 吏用		
教科書・教材	使用設備・備品	なし			
	参考文献	『聴解・発表ワーク	フブック』犬飼康弘	著、スリーエーネッ	ットワーク、2007 年
評価方法	平常点 30%、課題 20%、レポート 50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価につい て理解できる。					
第2回	講義の聞き方(1)スキルを 学ぶ。	一般的な講義の特徴について 理解できる。	復習 60 分、予習 60 分				
第3回	講義の聞き方(2)ノートテイキングを学ぶ。	ノートテイキングについて理 解できる。	復習 60 分、予習 60 分				
第4回	講義の聞き方(3)演習①	講義の聞き方の理解を深める られる。	復習 60 分、予習 60 分				
第5回	講義を聞く(4)演習② 文章の書き方(1)文体	講義の聞き方のスキルを上げることができる。文体について 理解できる。					
第6回	講義を聞く(5)演習③ 文章の書き方(2)句読点	講義の聞き方のスキルを上げることができる。句読点の打ち方を理解する。					
第7回	講義を聞く(6)発表 文章の書き方(3)段落	講義を聞き、その内容が発表できる。段落の書き方が理解できる。					
第8回	文章の書き方(4)段落相互	段落相互の書き方が理解でき る。	復習 60 分、予習 60 分				
第9回	レポート(1)動機文を書く。	自分とテーマの関係について 考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分				
第10回		自分とテーマの関係について 理解を深めることができる。	復習 60 分、予習 60 分				
第11回	レポート (3) 本論を書く。	クラスメイトと深い対話がで きる。	復習 60 分、予習 60 分				
第12回	レポート (4) 本論を仕上げる。	テーマについて、クリティカル に考えることができる。	復習 60 分、予習 60 分				
第13回	レポート (5) まとめを書く。	一貫した文章が書けるように なる。	復習 60 分、予習 60 分				
第14回	レポート (6) 全体を読み合 う。推敲する。	自分が書いた文章を客観的に 見ることができる。	復習 60 分、予習 60 分				
第15回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテー マが内省できる。	復習 60 分、予習 60 分				

					大台/ / 1 / 守久	
科目名	日本事情Ⅱ		#4 E &	口太訊エッ		
Subject	Current Japanese	Topics II	教員名	日本語チーム		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	(1)	
必修/選択	外国人留学生は必 修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
工场于自然未	0	0	Δ	0	0	
科目の概要	本クラスでは、相手に合わせた待遇コミュニケーションについて学ぶ。具体的には様々な場面における敬語表現を学び、学内やアルバイト先、就職活動における話し方、聞き方を学ぶ。その上で、敬語だけではなく、様々な場面の待遇表現も学び、相手に合わせた話し方聞き方を自分で選択できるようになることを目指す。					
授業の目標	(1) 敬語の基本が習得できる。(2) 様々な場面の待遇表現が習得できる。(3) 社会相手に合わせた話し方が習得できる。(4) ビジネス場面における話し方が理解できる。					
時間外学習 (予習・復習)		ついて確認し理解し しておくこと。各[できるかぎり忘れ	
	教科書	なし				
	 教材	教師作成				
教科書・教材	使用設備・備品	なし				
	参考文献	『日本語敬語トレ	ーニング』金子広	幸著アスク出版		
平常点 20%、期末テスト 50%、提出物 30%						
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	一人一人の主体的な態度を求める。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価につい て理解できる。尊敬語が使え る。				
第2回	訪問する	敬語全般について理解できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。			
第3回	簡単に挨拶する	尊敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。			
第4回	誘う	敬語を使って誘うことができ る。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第5回	お願いする	敬語を使ってお願いすること ができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。			
第6回	断る	敬語を使って断ることができ る	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。			
第7回	申し出る	敬語を使って申し出ることが できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第8回	おわびする	敬語を使ってお詫びができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第9回	意見を言う	敬語を使って自分の意見を言 うことができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第10回	予約を受ける	仕事先で、敬語を使って電話や 店頭で予約を受けることがで きる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第11回	サービスの敬語	仕事先で、敬語を使ってお客か ら注文を受けることができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。			
第12回	相談を受ける	仕事先で、敬語を使ってお客から相談を受け対応できる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第13回	面接を受ける	面接で、敬語が使える。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テス ト実施。			
第14回	電話の敬語	社内の者として敬語を使い、電 話対応ができる。	復習 50 分。予習 50 分。確認小テスト実施。			
第15回	まとめ	全体の振り返りができる	全体の復習 90 分。			

							大石ノナイママス
科目名	日本事情皿			教員名	 名	日本語チーム	
Subject	Current Japanese	Topics Ⅲ					
開講年次	2	開講時期	前	期		単位	-1
必修/選択	外国人留学生は必 修	授業形態	演	習		時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現	見力	主	体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	۷	7		0	0
科目の概要	本クラスでは、就職に必要なビジネス日本語を学習する。主に就職活動に必要な日本語を学 んでいく。また、就職後、日本で仕事ができるようになるための日本語も学習していく。授 業では、課題達成、問題発見開発能力、異文化理解能力を養うためのタスクをこなしながら、 日本語力の向上を目指す。						
授業の目標	1) エントリーシート等の就職のための提出書類を書くことができる。2) 面接で自己アピールができる。3) プレゼンテーションやディスカッションをすることができる。						
時間外学習 (予習・復習)	課題に取り組む時間が必要になる。予習 50 分。復習 50 分。						
	教科書	なし					
## *J. == 19 L.	教材	教師作成プリン	ト使用				
教科書・教材	使用設備・備品	なし					
	参考文献				ネス:	コミュニケー	ション』近藤彩他
著、アプリコット出版、2012 年 平常点 30%、課題 20%、レポート 50% 評価方法							
	足の場合は評価対	才象とはし					
履修上の注意	学生の主体的な参加を期待する。						
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし					
			-	_			

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション	授業の目標、内容、評価につい て理解できる。	予習として作文課題(90分)			
第2回	企業の求める人材を知る(1)企 業ガイダンスについて読み、 話す。	企業ガイダンスの語彙と表現 が理解できる。	復習 50 分、予習 50 分			
第3回	企業の求める人材を知る(2)企 業ガイダンス(説明会)の内 容を聞く。	企業ガイダンスを聞き、メモが 取れる。	復習 50 分、予習 50 分			
第4回	企業の求める人材を知る(3) 企業概要を読み、メモをす る。	企業について、自分で調べることができる。	復習 50 分、予習 50 分			
第5回	エントリーシートを書く(1)メ モする。	エントリーシートの内容を日 本語でメモできる。	復習 50 分、予習 50 分			
第6回	エントリーシートを書く(2)全体を書く	エントリーシートの内容を日 本語で記述できる。	復習 50 分、予習 50 分			
第7回	エントリーシートを書く(3)話 し合う	エントリーシートの内容を協 働で深められる。	復習 50 分、予習 50 分			
第8回	エントリーシートを書く (4) 発表する	エントリーシートに書いたことを他者に向けて分かりやすく話すことができる。	復習 50 分、予習 50 分			
第9回	E-mailの書き方、敬語表現を 学ぶ。	敬語を使って E-mail が書け る。	復習 50 分、予習 50 分			
第10回	自己アピールをする(1)自己 アピールを聞いて考える。	他者の自己アピールを聞き取 ることができる。	復習 50 分、予習 50 分			
第11回	自己アピールをする (2) 自己 アピール文を書く。	自己アピール文を日本語で書 くことができる。	復習 50 分、予習 50 分			
第12回	自己アピールをする (3)	自己アピールが話せる。自己評価ができる。	復習 50 分、予習 50 分			
第13回	自分の作品をプレゼンテーションする (1)	PPT でプレゼンテーションす る方法を学ぶ。	復習 50 分、予習 50 分			
第14回	自分の作品をプレゼンテーションする (2)	自分のプレゼンテーションが できるようになる。	復習 50 分、予習 50 分			
第15回	まとめ 相互評価	相互評価を通して、自分のテー マが内省できる。	復習 50 分、予習 50 分			

科目名	美容関係法規				关行
Subject		tions for Beauty	教員名	渡辺 演久	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	Δ	_
科目の概要	美容師になるためには、必要な関係法規・制度を理解し、国家試験に合格する必要がある。この講義では、社会における法の役割、衛生法規の概要、衛生行政の概要をまず理解し、美容師法の理解へとつなげる。美容師法では、美容師試験や免許と登録をはじめとして、美容師が必ず知っておかなければならない諸規定について学ぶ。そして、行政処分や罰則について理解し、美容師の社会的責任の重さを理解する。また美容師法以外の関連法規についても知識を深めるものとする。				
授業の目標	法制度の概要を理解したうえで、わが国の衛生行政の仕組み、美容師法・施行令・施行規則 について理解を深めるとともに、美容師法の諸規定を説明できるようになる。さらに、顧客 に対して責任を持って美容の業を行うという職業意識も身につける。				
時間外学習 (予習・復習)	シラバスを参照し、「関係法規・制度」の教科書の該当ページを読んでおく(予習 30 分)授業の板書を参考にしながら配布された練習問題をもう一度解答すること(復習 30 分)				
	教科書	『関係法規・制度	』日本理容美容教	育センター 2018	 年
	 教材	教員作成プリント			
教科書・教材 	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
平常点 10%、期末試験 90%評価方法					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	法制度の概要(1) (法の役割)	法の役割について説明できる よ う になる	教科書 8~10 頁を読んでおく (30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第2回	法制度の概要(2) (憲法・法律・命令・自治法 規)	憲法、法律、命令、自治法規に ついて説明できるようになる。	教科書 11~14 頁を読んでおく (30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第3回	衛生行政の概要	衛生行政の意義・役割について 説明できるようになる。	教科書 15~29 頁を読んでおく (30分)、問題プリントを復習する (30分)		
第4回	衛生行政の種類と行政機関 (保健所の役割と機構)	保健所について説明できるよ うになる	教科書 30~36 頁を読んでおく (30分)、問題プリントを復習する (30分)		
第5回	美容師法 (美容師法の目的と構成)	美容師法がなぜ存在するのか 説明できるようになる	教科書 38~41 頁を読んでおく (30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第6回	用語の定義	美容の業に必要な用語を説明 できるようになる	教科書 42~51 頁を読んでおく (30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第7回	美容師(1) (美容師試験、免許と登録)		教科書 52~75、83~87 頁を読んでおく (30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第8回	美容師(2) (管理美容師、美容師の義 務)	管理美容師と美容師の義務に ついて説明できるようになる。			
第9回	美容所(1) (美容所の開設)	美容所の開設手続について説 明できるようになる。	教科書 94~103 頁を読んでおく(30 分)、問題プリントを復習する(30 分)		
第10回	美容所(2) (開設者の衛生措置)	開設者の衛生措置について説 明できるようになる。	教科書 104~109 頁を読んでおく(30 分)、問題プリントを復習する(30 分)		
第11回	美容所外営業・立入検査		教科書 109~115 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する(30分)		
第12回	行政処分・罰則	行政処分と罰則について説明 できるようになる。	教科書 116~127 頁を読んでおく(30分)、問題プリントを復習する (30分)		
第13回	関連法規	美容師法に関連する法規について説明できるようになる。	教科書 130~138 頁を読んでおく(30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第14回	問題演習(1) (法の役割から管理美容師)		教科書 8~93 頁を読んでおく (30 分)、問題プリントを復習する (30 分)		
第15回	問題演習(2) (開設から関連法規)		教科書 94~138 頁を読んでおく(30 分)、問題プリントを復習する(30 分)		

科目名	美容衛生管理演習	I			
Subject	Beauty Sanitation		教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期	前期	 単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習		30
المنظر ال	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・
主な学習効果	©	0	Δ	Δ	コミュニケーションカ
科目の概要	公衆衛生・環境衛生・感染症など複合的な観点から美容師、美容所における衛生管理の重要性と必要性を学び、消毒実験などのをふまえ美容師が自分自身とお客様に安全な技術を、安心して施術できるようになるために必要な知識・技術学んで行く。				
授業の目標	美容師法における衛生管理技術と消毒技術、美容室においての衛生管理業務を行う上で必要な知識・技術を習得するしその重要性を理解する。 美容師国家試験(筆記)合格できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	授業内にて、次回講義までの予習用・復習用の課題テキストを配布 予習復習は概ね60分程度を想定しているが、内容によって90分以上かかる回もある。時間 では無く、内容の理解を念頭に学習すること。				
	教科書				
4/LT,1 == -11 1 1	教材				
教科書・教材	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	授業態度 20%、提出物 10%、期末試験 70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	選列・欠席は原則認めません。 授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いと します。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション 公衆衛 生の意義と必要性、歴史を知 ろう		衛生業背にまつわる専門用語をま とめたテキストを使用し、今後の授 業内容の理解度を高める。			
第2回	予防医学と母子保健の統計を 学び公衆衛生水準の基本を知 ろう	母子保健の推移統計や公衆衛 生水準の比率を知り、美容師と 公衆衛生の深い関わりを理解 する。	公衆衛生の専門用語と医学・保健の 統計に関係する数字の予復習テキ スト			
第3回	成人・高齢者保健といろんな 病気の死亡率を知ろう		成人・高齢者保健と死亡率・死亡理 由の病名と数字の予復習用テキス ト			
第4回	精神保健と福祉、医療介護、 介護保険制度とは?	精神保健、医療保険制度の現状 と基礎知識を理解する。	成人・高齢者保健と精神保健・介護 保健の制度と対象者の仕組みをま とめたテキストを使用			
第5回	栄養素とその働き、日々の栄 養摂取状況を知ろう。		栄養素の人体への影響と、病気の関係性の復習と環境の人体影響の予習テキストを使用			
第6回	環境衛生とは? 空気・水・光と健康の関係っ て?	人に影響をおよぼす各種環境 要因を学び、衣食住と健康を理 解する。	人体へ環境がおよぼす影響と要因 をまとめたテキストを使用			
第7回	ゴミ問題と衛生害虫、美容室 での衛生対策は	上下水道と廃棄物、美容師法に かかわりの深い害虫を知り、美 容所の環境衛生を理解する。	公衆衛生・衛生行政の総復習問題テ キストを使用			
第8回	感染症とは? 人と感染症の 歴史と各種病気の分類方法を 知る。	感染症発見の歴史と各病気の 重症度、法律上の分類を理解す る。	各敗炎症(1)分型と 海気(1)特徴を復			
第9回	美容師法に関係の深い感染症 とは?ウィルスや菌の違い	感染症の分類のより細かな分 け方と原因となる病原体の特 徴を理解する。	感染症学に必要な基礎用語、専門用 語を予復習テキストで理解する			
第10回	感染症の発生原因を知り予防 法を学ぼう!	感染症発生要因と人体の病状 の違いを学び、免疫と予防接種 の意味を理解する。	1年1年2数年90八分型#1日と54次を			
第11回	感染症予防と各感染症の感染 経路を学ぼう!	空気、飛沫・飲食物・血液感染 の違いを知り正しい知識を理 解する。	予防医学・免疫学、それにまつわる 各種感染経路の復習テキスト			
第12回		消毒の意義、消毒時の注意、理 学的・化学的消毒方法の違いを 理解する				
第13回	消毒薬の希釈法を学ぶ。	各種化学的消毒法を知り、その 薬液調整方法を習得する。	各消毒方法の特徴の復習と消毒薬 の希釈計算問題で計算式を覚える			
第14回	消毒実験!	薬液を実際に調合し美容器具 や手指を消毒をする。	実験レポート作成			
第15回	実験結果! 衛生管理技術まとめ	実験の結果を検証・反省し美容師法・美容所における消毒の重要性を理解する。	衛生技術と消毒法の総復習問題テ キストを使用			

科目名	美容衛生管理演習	П	教員名	相馬 勉	
Subject	Beauty Sanitatio	n PracticeII		7日前 72	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	Δ	_
科目の概要	美容業はいろいろな情報交換の場所であるため、地域の公衆衛生の維持と増進を図る必要がある。これらを行うための正確な情報や知識をより美容室に即した方法で学習していく。また、そこで得た事が美容師国家試験にもつながっていきます。				
授業の目標	美容器具や人頭に対して衛生上の正しい取り扱いを行えるようになると共に、美容室内での 環境衛生の目的でもある環境悪条件の除去や健康的な環境作りができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の科目で下記を行う 予習:次回行う課題の技術練習や情報収集を行う。30分 復習:授業内で板書したものをまとめ、学んだ技術を反復練習する。30分				
	教科書	「美容技術理論 1. 2」「衛生管理」日本理容美容教育センター編			
	教材	筆記用具、配布プ	リント		
教科書・教材 	使用設備・備品	美容実習室			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物 20%、期末試験(実技)70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	遅刻、欠席は原則認めません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション	授業の流れを知り、毎回の目標 を確認できるようになる。					
第2回	用具・衛生上の取り扱 (1) 用具別の使用方法での汚染を 学ぶ	どのような行動で用具が汚染 されるのかを知り、予防できる ようになる。					
第3回	用具・衛生上の取り扱(2) 美容用具の種類によっての適 切な使用方法を学ぶ	美容用具の種類によっての適 切な使用方法を説明できる。					
第4回	用具・衛生上の取り扱 (3) 衛生面での美容用具の取り扱 い方を遵守する方法を学ぶ	衛生面での美容用具の取り扱い方を遵守する方法を学ぶ。					
第5回	理容所・美容所における消毒 の原則を学ぶ	教室内の衛生を維持するため に必要な知識を説明できる。					
第6回		皮膚に接する器具類の消毒原 則を行うことができるように なる。					
第7回	理容・美容器具の消毒法(2) 消毒の前処理について学ぶ	消毒を行う前処理について説 明できるようになる。					
第8回	理容・美容器具の消毒法(3) 消毒方法の違いを学ぶ	各道具類による消毒方法の違いを知り、実践できるようになる。					
第9回	理容・美容器具の消毒法(4) その他の消毒方法を学ぶ	その他の物の消毒方法を説明 することができるようになる。					
第10回	理容所・美容所の消毒の現状 (1) 過去の検査報告を学ぶ	過去の検査報告を踏まえた上で、道具の汚染度を推測することができる。					
第11回	理容所・美容所の消毒の現状 (2) 消毒の原則を学ぶ	消毒する際に必要な心構えを 理解することができる。					
第12回	清潔保持と清掃を学ぶ	清掃道具の扱い方や不潔な場所を素早く発見できるようになる。					
第13回	清掃(整理整頓)を学ぶ	教室内は勿論、自身の使用道具 の清掃と整理整頓を行うこと ができる。					
第14回	振り返り、知識の確認を行う	今まで行ってきた授業内の衛 生知識を振り返り、知識を定着 することができる。					
第15回	まとめを行う	衛生面での美容用具の取り扱 い方を遵守できるようになる。					

	1		T	T	关行 7 1 2 守久
科目名	保健 I		教員名	坂口 佐代子	
Subject	Public Health I		70,0	<u> Ж</u> П [[1]]	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	Δ	Δ
科目の概要	美容師が毛髪、肌、爪の容貌を整えるために、その科学な基礎知識を持つことは必要不可欠である。うわべだけを整えるのは簡単であるが、その根本を整えるために知っておくべき知識を習得し真の美容を習得するために、皮膚の構造、皮膚の役割、皮膚の栄養、病気、感染症を学ぶ。また、皮膚と毛髪、爪の関係を知り総合的な美容とは何かを学ぶ。				
授業の目標	皮膚の構造を理解できるようになる。皮膚と毛髪、爪の関連性を理解できるようになる。皮膚の役割を理解できるようになる。皮膚の真の栄養とは何かを知ることによって自身の食生活、生活習慣を改めるきっかけを作ることができる。皮膚の状態によって健康状態を知ることができるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	最終的に皮膚の真の健康を理解できるように毎回授業内でわかりやすくその回のポイントを説明し、次回の授業開始時にそのポイントを明記したレポートを提出させる。レポートは開始時以外は受け取らない。レポート作成に毎回 50 分程度最終のレポートに 120 分程度想定しています。				
	教科書	美容保健 日本理	美容教育センター	—————————————————————————————————————	
	教材	必要に応じて配布			
教科書・教材	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	毎回小テストを行います。受講態度も評価します。真の皮膚の健康というタイトルでレポートを作成してもらい評価の対象にします。毎回のレポート 20%、態度 20%、テスト 60%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	特にありません				
本科目履修と 関連する資格	資格名				
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション。皮膚の 表面、皮膚の断面、表皮	学生がこの授業の目的を理解 している。皮膚の断面が理解で きている。	皮膚の構造を部位の名前を覚えな がら知る。			
第2回	表皮と真皮の境、真皮、皮下 組織、皮膚の部位差	表皮、真皮、皮下組織の構造を 理解している。	皮膚に中の構造の名前を覚える。			
第3回	毛、脂腺、汗腺、爪		毛の構造、役割、成長の段階を知り 覚える。			
第4回	皮膚の血管、皮膚のリンパ 管、皮膚の神経	皮膚の血管の名前、神経に関し て理解している。	皮膚に関係する血管の名前や神経 を理解し覚える。			
第5回	分泌、排泄、呼吸、貯蔵、免 疫解毒作用等、爪と毛の働き	皮膚の働きを理解している。	皮膚の働きを覚える。			
第6回	皮膚と全身状態、皮膚と精神 状態、皮膚と栄養、皮膚と体 内病変	皮膚の状態から健康面や精神 状態がわかるようになること を理解する。	皮膚の栄養について自分なりの考 えを確立できるようにする。			
第7回	皮膚附属器官とホルモン、皮 膚の保護と手入れ		皮膚、毛の真の美しさについて自分 なりの考えを確立させる。			
第8回	毛、爪の保護と手入れ、子ど もたちのおしゃれによる皮膚 トラブル	真にの皮膚の健康を知る。	自分や家族にとって、自分が親になったときに子どもの皮膚の健康に良くないことは何かを考える。			
第9回	皮膚の異常とその種類、皮膚 疾患の原因と治療法	皮膚の異常を知る。	皮膚の病気を覚える。漢字を読める ようにする。			
第10回	皮膚炎と湿疹、薬疹、蕁麻疹	皮膚炎の原因を理解する。	皮膚の病気を覚える。漢字を読める ようにする。			
第11回	温熱・寒冷による皮膚疾患、 角化異常による皮膚湿疹	皮膚に異常をもたらす原因を 知る。	熱傷の種類を理解し覚える。			
第12回		感染症から起こる皮膚疾患を 知る。	感染症とは何か、美容師として感染 症がどんな危険な事かを理解する。 感染症の種類を覚える。			
第13回	化膿菌、ウイルス、真菌、動物による皮膚疾患、感染症の 皮膚疾患の予防	歴紀年と文庫の疾患の関連を 理解する。	感染症とは何か、美容師として感染 症がどんな危険な事かを理解する。 感染症の種類を覚える。			
第14回	毛と爪の疾患、皮膚の腫瘍		毛の病気を知り覚える。爪の病気を 知り覚える。			
第15回	まとめ	1回から14回までの授業内容を総合的に理解する。	総合的に理解する。			

Subject Science of Healthy Hair	科目名	毛髪の健康科学				
開講年次 1 開講時期 前期 単位 1 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3			hv Hair	教員名	相馬 勉	
必修 / 選択				前期	<u> </u>	1
主な学習効果						
主 を	2127 2217					ホスピタリティ・
毛髪は皮膚の付属器官である。それ故に、毛髪を健康に維持するためには、単に毛髪のみならず、頭皮(表面およびその内部)の環境も非常に重要となる。ここでは、それらに関する科学的知識を、美容師としての必要性を理解しながら学習をらない。正しい診断をするためには、皮膚やその付属器官(毛髪等)における科学的必要不可欠となる。本接集においては、それらの知識を美容に関連付けながら学習しを深める。 「特間外学習(予習・復習) 「クマークを関する。 「大きない。」では、大きないでは、それらの知識を実容に関連付けながら学習と変深める。 「大きない。」では、大きないでは、それらの知識を実容に関連付けながら学習しを深める。 「おきない。」では、大きないでは、それらの知識を実容に関連付けながら学習しを深める。 「おきない。」では、大きないでは、それらの知識を実容に関連付けながら学習しまでは、大きないでは、それらの知識を実容に関連付けながら学習しまでは、大きないでは、それらの知識を実容に関連付けながら学習しまでは、大きないないでは、大きないないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、いきないではないでは、大きないでは、大きないでは、いきないではないないではないではないないではないではないではないないではないではない	主な学習効果					コミュニケーションカ
授業の目標 ならない。正しい診断をするためには、皮膚やその付属器官(毛髪等)における科学的 必要不可欠となる。本授業においては、それらの知識を美容に関連付けながら学習しを深める。 一般	科目の概要	毛髪は皮膚の付属器官である。それ故に、毛髪を健康に維持するためには、単に毛髪のケア				
時間外学習 (予習・復習) テキストは授業内容の約 80%を網羅する復習用課題と次回授業内容分の約 20%を含習用課題で構成する 予習には教科書以外に美容雑誌等を使用可 教科書	授業の目標	美容師は、お客様の頭皮や毛髪の状態を観察し、その方に適した方法で施術を行わなければならない。正しい診断をするためには、皮膚やその付属器官(毛髪等)における科学的知識が必要不可欠となる。本授業においては、それらの知識を美容に関連付けながら学習し、理解を深める。				
教科書・教材 使用設備・備品 参考文献 しんびよう、ヘアモード、marcel 等美容雑誌 授業態度、小テスト、期末試験 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる		テキストは授業内容の約 80%を網羅する復習用課題と次回授業内容分の約 20%を含んだ予 習用課題で構成する				
教科書・教材 使用設備・備品 参考文献 しんびよう、ヘアモード、marcel 等美容雑誌 授業態度、小テスト、期末試験 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる		教科書	美容保健			
使用設備・備品参考文献 しんびよう、ヘアモード、marcel等美容雑誌 授業態度、小テスト、期末試験 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる		教材				
授業態度、小テスト、期末試験 「評価方法 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 「屋修上の注意 「遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる	教科書・教材 	使用設備・備品				
評価方法 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 では、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる		参考文献	しんびよう、ヘア	モード、marcel等	美容雑誌	
	評価方法					
】 復修 F()注意		なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 				
	履修上の注意	遅刻、欠席は原則認めません。また授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を 行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格 美容師免許、ヘアケアマイスター(プライマリーコース)		資格名	美容師免許、ヘア	ケアマイスター()	プライマリーコース	ζ)

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	オリエンテーション 毛髪科学理論とは?	毛髪の、人種・性別による差、 特徴を理解する。	毛髪科学の専門用語をまとめたテ キストを使用し、今後の授業内容の 理解度を上げる		
第2回	前回の復習&毛の構造、その 特性や働きはなにか?	前回の内容の理解を深め、毛髪 の役割や働きを理解する。	毛髪構造に重点を置いたテキスト を図まで作成する、引き続き専門用 語の復習問題含		
第3回	前回の復習&毛髪の特性、毛 の型と毛の生長周期を学ぶ	の毛、大人の毛の違い、抜け毛	毛髪科学の 1~3 回の総復習テキストを使用し、再確認と、今後の授業の基礎を固める		
第4回	前回の復習&毛の型の変化と 毛の生長についての興味を深 めよう。	前回の内容の理解を深め、毛の 生長と変化、薬物・化学物質な ど外的要因の関係を知る。			
第5回	前回の復習&毛の性状、構造、対水、対熱反応を知ろう。	性状・タンパク質の構造と反応	毛髪科学のより専門的な内容と科 学的変化の確認用テキストとタン パク質構造のまとめ資料配布		
第6回	前回の復習をし、引き続きタンパク質構造の理解と、毛髪の対薬剤反応とは?		美容業務における主要薬剤の成分 をまとめたオリジナル資料を使用 し薬剤知識を深めておく		
第7回	シャンプー剤・トリートメント剤・スキャルプトリートメント剤の種類と分類。シリコンの良し悪しとは?	前回の内容を復習し、シャンプー・トリートメントの効果とそれによる頭皮環境、育毛効果の影響を知る。	美容業務における主要薬剤の復習 +需要の高いシャンプー剤の特徴 の復習資料で現行の傾向を知る		
第8回	毛髪科学理論 実践編 1 毛髪の機能と毛髪の構造を徹 底分析!		前半授業内容の総復習テキストと、 より緻密な専門用語集で予復習を する		
第9回	毛髪科学理論 実践編2 多様性に対応!カラーの知識		カラー剤の知識と現在の傾向をよ り深く理解できるテキストを使用		
第10回	毛髪科学理論 実践編3 形状記憶?パーマ剤の知識		パーマの種類と技術内容により、変 化する毛髪成分を複雑さを理解す るテキストを使用		
第11回	潤い?ツヤ?ハリ&コシ? トリートメントの違いを知ろ う。	施術内容にあわせたケアの方 法、前後処理剤選定の効果的な 使用法を実践レベルで理解す る。	カラー剤とパーマ剤の髪に及ぼす		
第12回	頭皮と頭毛の手入れ法と、皮膚のトラブルと育毛メカニズムを知ろう。	頭皮頭毛の正しい手入れ法と 毛と皮膚疾患の種類と特徴、そ の原因などを学びお客様にア ドバイスできる	頭皮、頭毛の知識を説明できる用語 集を使用し、現場で活かせる知識を 得る		
第13回	頭皮&毛髪診断と目的別カウ ンセリングなど。	現状の毛髪の状況 (髪質・クセ毛・ダメージなど) を見極め方や前・後処理の目的を知る。	薬、熱、クセの違いのまとめ問題集 を使用		
第14回	ヘアケア剤の多様性について 知ろう。	界面活性剤・シャンプー剤・トリートメント剤・スタイリング剤の成分と働き効果を知る。	ヘアケアの知識と応用技術の理解 を深める問題集を使用		
第15回	授業の振り返り	ヘアケアマイスター試験に重要な箇所の再確認し、資格取得に向けて流れを理解する。	15 回の授業のまとめテキストと総 復習		

					大石/ 1/1 / 守久	
科目名	美容と栄養		————————————————————————————————————	* 차 명		
Subject	Beauty and Nutri	tion	教員名	木村 康一		
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	Δ	Δ	Δ	
科目の概要	美容の基本は心身の健康にある。その健康の維持・増進はもとより、疾病の予防や治療においても栄養の果たす役割はきわめて大きい。本科目では、健康の概念、各栄養素の食品中の分布・構造やその働きを学ぶほか、各栄養素の消化、吸収、代謝等を理解することで、美容における栄養の重要性を教授する。					
授業の目標	本科目で習得した栄養に関する知識をもって、自分自身の食生活を見直す材料とすることができるようになるとともに、今後の社会生活の中で、他者に対しても活用し応用できるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	毎時ごとの復習及び次回の内容に関する予習を合わせ、1 時間程度行う。					
	教科書					
#11 4 #11	教材					
教科書・教材 	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	定期試験の結果、60点以上の者に単位を認定する。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	講義の妨げとなる行為をおこなった場合は、退出を命じる。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
L	1	<u> </u>				

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、概要を知る。	次回の予習			
第2回	健康の捉え方	健康の定義やヘルスプロモー ションについて理解する。	今回の復習と次回の予習			
第3回	生活習慣病	我が国における疾病構造を知 る。	今回の復習と次回の予習			
第4回	栄養学の基礎知識	食品成分の分類と 5 大栄養素 を知る。	今回の復習と次回の予習			
第5回	炭水化物	炭水化物の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習			
第6回	脂質	脂質の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習			
第7回	たんぱく質	たんぱく質の構造や役割を知る。	今回の復習と次回の予習			
第8回	無機質	無機質の種類とそれぞれの役 割を知る。	今回の復習と次回の予習			
第9回	ビタミン	ビタミンの種類とそれぞれの 役割を知る。	今回の復習と次回の予習			
第10回	水	水の体内で果たす役割を知る。	今回の復習と次回の予習			
第11回	食事摂取量と基準	日本人の食事摂取量や食事摂 取基準を知る。	今回の復習と次回の予習			
第12回	消化吸収	それぞれの栄養素の消化吸収 のされ方を知る。	今回の復習と次回の予習			
第13回	栄養学からみた食品	食品 6 群分類、各食品の栄養学 的特徴を知る。	今回の復習と次回の予習			
第14回	美齢と栄養	エイジングと栄養の関係を知る。	今回の復習と次回の予習			
第15回	肥満	肥満の分類や判定方法を知る。	今回の復習と全体のまとめ			

科目名	香粧品化学				
Subject	Cosmetic Chemist	ry	教員名	橋 友理香	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	Δ	Δ
科目の概要	香粧品は、美容技術・美容の業務を行う上で欠くことができないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものである。香粧品を安全かつ効果的に選択するには、香粧品の正確な科学的知識と適正な取り扱い方法を熟知しておく必要がある。 本科目では、香粧品を理解する上で必要な基礎化学、香粧品に含まれる主要な成分とその機能、取扱上の注意について学ぶ。また、香粧品に関わる調査学習とディベートを主としたグループワークを実施する。これにより、香粧品に関する知識を深め、課題解決のための思考力・表現力を養う。				
授業の目標	・香粧品の科学的知識と取り扱い方法に関する問いに正しく回答することが出来る。 ・香粧品に関する課題を発見し解決するために、様々な媒体から信頼できる情報を収集 し、自身の考えをまとめて述べることが出来る。				
時間外学習 (予習・復習)	・教科書あるいは配布資料を読み、授業内容を完全に理解する。 ・小テストの問題は全問正解できるようになるまで反復練習する。 ・図書やインターネットを用いて調査学習を行う。				
	教科書	(書籍名) 香粧品 (著者・発行) 公	化学 益社団法人日本理	容美容教育センター	-、(2018年)
 教科書・教材	教材	ipad にデータ配信	またはプリントを	配布	
3211 3213	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	定期試験の得点で評価する(100点)。 その他、発表とレポートの課題について、以下の基準で最大各 10点を加算する。 (1)正確に調査してある(+5点)、(2)自身の考えを明確に表現できている(+5点)。 ただし、総合評価の最高点は100点とする。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	 ipad (充電済) と教科書を必ず持参してください。 クラス全体への連絡は ipad(classroom)に配信します。 担当教員への連絡方法 E-mail: yurika.hashi@yamano.ac.jp 				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

		授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第 1 回	オリエンテーション	本科目の概要を知り、学び方を 実現できる。	教科書の通読 調査学習・資料作成	(30分) (30分)	
第2回	物質の構造	物質の構造と化学反応の基礎 を説明できる。	小テストの復習	(15分) (15分) (30分)	
第3回	溶液とコロイド	様々な溶液の状態を説明でき る。	小テストの復習	(15分) (15分) (30分)	
第4回	酸・塩基・塩 酸化還元反応	酸、塩基、塩、酸化還元反応を 説明できる。	小テストの復習	(15 分) (15 分) (30 分)	
第5回	有機化合物(1) 低分子化合物	低分子の有機化合物の種類と 性質を説明できる。		(15分) (15分) (30分)	
第6回	有機化合物(2) 高分子化合物	高分子の有機化合物の種類と 性質を説明できる。	教科書の通読 小テストの復習 調査学習・資料作成	(15 分) (15 分) (30 分)	
第7回	前半のまとめと解説	1~6回講義の重要事項を記 憶し、問いに正しく解答でき る。	配布資料の復習 調査学習・資料作成	(30分) (30分)	
第8回	香粧品の社会的意義と品質特 性	香粧品の社会的意義と品質特 性を説明できる。	教科書の通読 小テストの復習 調査学習・資料作成	(15分) (15分) (30分)	
第9回	香粧品の規制と取り扱い	香粧品を安全かつ合理的に取 り扱うことができる。	教科書の通読 小テストの復習 調査学習・資料作成	(15分) (15分) (30分)	
第10回	香粧品の原料(1) 水性原料と油性原料、界面活 性剤	水性原料と油性原料について 説明できる。	教科書の通読 小テストの復習 調査学習・資料作成	(15分) (15分) (30分)	
第11回	香粧品の原料(2) 界面活性剤、高分子化合物、 色材	界面活性剤、高分子化合物、色 材について説明できる。	教科書の通読 小テストの復習 調査学習・資料作成	(15分) (15分) (30分)	
第12回	香粧品の原料 (3) 香料・その他の配合成分	香料・その他の配合成分につい て説明できる。	教科書の通読 小テストの復習 調査学習・資料作成	(15 分) (15 分) (30 分)	
第13回	香粧品と美齢学を考える	香粧品と美齢学を関連づけて 自身の考えをまとめ説明する ことができる。	レポート作成 小テストの復習	(30分) (30分)	
第14回	まとめと解説	全講義の重要事項を再度確認 し、具体的に説明できる。	レポート作成	(60分)	
第15回	課題発見・解決に関する演習	香粧品における課題を発見し、 習得した知識を適用して問い に対する回答を導ける。	課題設定と解決の宿題	(60分)	

科目名	ファッション文化	史	# 5 5	+	
Subject	History of Fa Culture	shion and A rt	教員名	青木 和子	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
± 0. 1 H///	0	Δ	0	0	0
科目の概要	ひとは自分を飾らないではいられない。ひとは流行を意識しないで生きることができない。 この科目では、本学の「美道五大原則」の全ての項目や「美麗学」を意識した講義を基軸に、 人が「何か」を身体につけた時代から今の時代に至るまでの日本と西洋のファッション文化 史を学ぶことにより「美」とは「文化」とは何かを考える。				
授業の目標	上の概要を踏まえ「ファッション文化」が概観でき、美容産業で活躍できるレベルに達している。「美容文化論」の美容師国家試験合格のレベルに達している。ファッション文化を自分なりの見解で説明できる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習:授業では、教科書の内容が理解されていることを前提に説明を開始する。 復習:本授業は座学であるため、授業の復習は次回の授業へ向けて重要なものとなる。 各 授業後、1時間程度の復習を行うことが必要である。				
	教科書	「美容文化論」日	本理美容教育センタ	 ター	
おむき */ヒ ユーナ	教材	教材 学生全員に配布の iPad、配布プリント、			
教科書・教材	使用設備・備品	プロジェクター	他		
	参考文献	授業時に説明			
評価方法	毎時の授業態度及び小テスト 50%、レポート 25%、試験 25%				
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	なし				
本科目履修と 関連する資格	資格名	フォーマルスペシ	ャリスト・ブロン	ズライセンス	
l	1	ļ			

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第 1 回	日本編 縄文時代から古代	縄文時代から古代までのファッション文化史が概観できるようになる					
第2回	日本編 中世から近世 I	中世から近世 I までのファッション文化史が概観できる					
第3回	日本編 近世 II	近世 II のファッション文化史 が概観できる					
第4回	日本編 近代	近代のファッション文化史が 概観できる					
第5回	日本編 現代Ⅰから現代Ⅱ	現代 I から現代 II までのファッション文化史が概観できる					
第6回	日本編 現代Ⅲから現代Ⅳ	現代Ⅲから現代Ⅳまでのファ ッション文化史が概観できる					
第7回	西洋編 古代エジプトから 中世ヨーロッパ	古代エジプトから中世ヨーロッパまでのファッション文化 史が概観できる					
第8回	西洋編 近世Iから近代I	近世 I から近代 I までのファッション文化史が概観できる					
第9回	西洋編 近代Ⅱから現代Ⅲ	近代Ⅱから現代Ⅲまでのファッション文化が概観できる					
第10回	西洋編 現代IVから現代VII	現代Ⅳから現代Ⅵまでのファッション文化史が概観できる					
第11回	復習I	ファッション文化史・日本編が 概観できる					
第12回	復習Ⅱ	ファッション文化史・西洋編が 概観できる					
第13回	復習Ⅲ	ファッション文化史が概観できる					
第14回	総復習 I	ファッション文化史・日本編が客観的に理解できる					
第15回	総復習Ⅱ	ファッション文化史・西洋編 が客観的に理解できる					

科目名	美容芸術文化史		*** 7	/		
Subject	History of Aes [.] Culture	thetics and Art	教員名	ヘアチーム		
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
2017 11/1/18	0	Δ	0	Δ	Δ	
科目の概要	美容の文化の歴史を学びます。 美容文化は、人の一生において大きな役割を担います。 各時代が作り出す美容はどのようなものだったのか。 西洋と日本のヘアスタイル、ファッション、メイクアップをはじめとする美容の文化を、美 的感覚の変遷とその文化の理解を深めながら、美的教養を備えた人を目指し、多彩な芸術作 品を見聞し表現することで美的感性を養います。					
授業の目標	西洋・日本のヘアスタイル、ファッション、メイクアップなどの美的原理、あり方などを学びます。 各時代の様式美を理解する過程において、自らの手で表現しながら発想力をも身に付け、国際人として活躍できるよう、美齢学の一部として知識を習得することを目標とします。 また、国家試験筆記科目として合格のための対策も行います。					
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに毎回資料が配られます。授業前に各時代の概要を確認して授業に臨みましょう。(約60分程度) また、授業後は受講した美容文化に関する書籍、文献をタブレットや本学図書館などで調べ(約60分程度)、展覧会やギャラリー、他大学での研究会、芸術鑑賞等、自主的に学ぶことを推奨します。					
	教科書	美容文化論((公則	才)日本理容美容 教	で育センター 発行)	
数到妻 ₂ ₩++	教材	適宜プリントを配布します。				
料料書・教材 ・ ・ ・	使用設備・備品	スライド、タブレ	ーーーーー ット等			
	参考文献					
評価方法	小テスト、課題レポート、授業中の提出物、授業に対する意欲を総合的に評価します。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	授業の出席状況・授業態度を重視します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師免許				

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	西洋Ι(古代)の文化を学ぶ	マの時代様式と美容のあり方	事前にタブレットで授業内容を確 認。授業時にそれをもとに課題を作 成し、終了後は内容を復習。		
第2回	西洋Ⅱ(中世)の文化を学ぶ	様式と美容のあり方を理解す	事前にタブレットで授業内容を確 認。授業時にそれをもとに課題を作 成し、終了後は内容を復習。		
第3回	西洋皿(近世)の文化を学ぶ	ルネサンス (イタリア・イギリス)、バロック、ロココの時代 様式と美容のあり方を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。		
第4回	西洋Ⅳ(近代)の文化を学ぶ	紀初頭の時代様式と美容のあ	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。		
第5回	西洋V(現代)の文化を学ぶ	2000 年代の時代様式と美容の	事前にタブレットで授業内容を確 認。授業時にそれをもとに課題を作 成し、終了後は内容を復習。		
第6回	まとめ 小テスト	西洋を振り返り、それらをキー ワードとして、今後の美容のあ り方を推察し、表現できるよう にする。	事前にタブレットや資料で授業内 容を振り返る。		
第7回	日本 I (大陸文化・古代)の 文化を学ぶ	本の結髪・風俗文化に影響を与	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。		
第8回	日本Ⅱ(中世)の文化を学ぶ	時代の結髪風俗文化を理解す	事前にタブレットで授業内容を確 認。授業時にそれをもとに課題を作 成し、終了後は内容を復習。		
第9回	日本皿(近世)の文化を学ぶ	戦国・安土桃山・江戸時代初期 の結髪風俗文化を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。		
第10回	日本Ⅳ(近世)の文化を学ぶ	江戸時代後期の結髪風俗文化 を理解する。	事前にタブレットで授業内容を確認。授業時にそれをもとに課題を作成し、終了後は内容を復習。		
第11回	日本V(近・現代)の文化を 学ぶ	明治以降の結髪風俗文化を理 解する。	事前にタブレットで授業内容を確 認。授業時にそれをもとに課題を作 成し、終了後は内容を復習。		
第12回	まとめ 小テスト	日本における結髪風俗文化を 振り返り、それらをキーワード として、日本の伝統文化を表現 できるようにする。	事前にタブレットや資料で授業内		
第13回	ポートフォリオ制作	西洋および日本文化への理解 を基に、様式美を美齢学の一部	事前にタブレットや資料で授業内 容を振り返り、作品制作に臨む。		
第14回	プレゼンテーション	作成したポートフォリオのプレゼンテーションを通して、学生間で表現や作品についての相互評価を行う。	作成した作品をもとに、発表内容を 調整する。		
第15回	現代の日本髪について		事前にタブレットで授業内容を確 認。終了後は文化史を振り返る。		

科目名	美容技術理論 I		教員名	ヘアチーム		
Subject	Hairstyling Theo	ry I	教 貝石	Л		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	Δ	
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。 ここでは技術を施す際の作業姿勢や美容用具などをはじめとした基礎理論を学び、理解を深 める。					
授業の目標	美容技術とは人体に施す手技であり、時には取り扱いに特に注意を要する薬剤も使用する。 施術を円滑に行うため、また施術の際の事故を未然に防ぐため、基礎的理論をしっかり会得 する。					
時間外学習 (予習・復習)		し、理論ノートにる は60分~90分科		受業につなげる。		
	教科書	『美容技術理論 1.	、2』 日本理容	<u></u> 美容センター		
#1 *.1 ** > #1 1	教材	適宜、資料配布				
教科書・教材	使用設備・備品	プロジェクター				
	参考文献					
評価方法	授業態度 (10%)、提出物・ノートまとめ (10%)、期末試験 (80%)					
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション 序章:美容技術理論を学ぶに あたって 美容理論・技術について		美容技術理論 1) 序章の復習と、次回学ぶ 1章:美容用具についての予習			
第2回	1章:美容用具① 美容の道具について		美容技術理論 1) 1章:美容用具についての復習と次回学ぶ美容道具・器具についての予習			
第3回	1章:美容用具② 美容の器具・道具について		美容技術理論1)1章:美容用具についての復習と次回学ぶ3章:ヘアカッティングについての予習			
第4回	3章:ヘアカッティング① カッティング道具の扱い方		美容技術理論 1)3章:ヘアカッティングについての復習と次回学ぶ施術時の姿勢についての予習			
第5回	3章:ヘアカッティング② 施術時の姿勢について		美容技術理論 1)3章:ヘアカッティングについての復習と次回学ぶブロッキングの重要性を予習			
第6回	3章:ヘアカッティング③ ブロッキングの重要性		美容技術理論 1) 3章: ヘアカッティングについての復習と次回学ぶカット技法の種類について予習			
第7回	3章:ヘアカッティング④ カット技法の種類	カット技法の種類について理解し説明することが出来る。	美容技術理論 1)3章:ヘアカッティングについての復習と次回学ぶワインディング技術の予習			
第8回	4章:ワインディング① ワインディング技術の基本	ブロッキング、ベース、コーミング、ペーパーの使用方法について理解し説明することが出来る。	美容技術理論 1) 4章: ワインディングについての復習と次回学ぶワインディング上巻きについて			
第9回	4章: ワインディング② ワインディング上巻きについ て		美容技術理論 1) 4章: ワインディングについての復習と次回学ぶワインディング下巻きについて			
第10回	4章: ワインディング③ ワインディング下巻きについ て	ベースのスライス、コーミング、下巻きについて理解し説明 することが出来る。	インティング技術の注息ボイント について予習			
第11回	4章:ワインディング④ ワインディング技術の注意ポ イントについて	セクションごとのワインディ ングポイントについて理解し 説明することが出来る。	美容技術理論 1) 4章:ワインディングについての復習と次回学ぶワインディングの技術理論について予習			
第12回	4章:ワインディング⑤ ワインディングの技術理論に ついて	ワインディング技術理論を復習し、知識の定着度を把握し、 説明することが出来る。	美容技術理論 1) 4章:ワインディングについての復習と次回学ぶ2章:シャンプーイング総論について予習			
第13回	2章:シャンプーイング① シャンプーイング総論につい て	解し、シャンプ一剤の種類につ	美容技術理論 1) 2章:シャンプーについての復習と次回学ぶシャンプーの様々な手法についてについて予習			
第14回	2章:シャンプーイング② シャンプーイングの様々な手 法について	シャンプーイングの際の注意 点や手法について理解し説明 することが出来る。	美容技術理論 1) 2章:シャンプーイングについての復習と次回学ぶこれまで学習した内容について予習			
第15回	総括	今期に学んだ全章を確認し知識を定着させ、理解を深め今後 の授業に応用することが出来 る	美容技術理論1の教科書にて今期			

	1				
科目名	美容技術理論Ⅱ	美容技術理論 Ⅱ		ヘアチーム	
Subject	Hairstyling Theo	ry II	教員名	· , , , <u>, , , , , , , , , , , , , , , ,</u>	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	0	0	Δ
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。ここでは技術を施す際の方法やプロセスなどをはじめとした基礎理論を学び、理解を深める。				
授業の目標	美容技術とは人体に施す手技であり、時には取り扱いに特に注意を要する薬剤も使用する。 施術を円滑に行うため、また施術の際の事故を未然に防ぐため、基礎的理論をしっかり会得 する。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分~90分程度行い、次回の授業につなげる。				
	教科書	『美容技術理論 1	. 2』 日本理容	美容教育センター	
## *J == *# 1 ·	教材	適宜、資料配布			
教科書・教材	使用設備・備品	プロジェクター			
	参考文献				
評価方法	授業態度 (10%)、提出物・ノートまとめ (10%)、期末試験 (80%)				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	4章:パーマネントウェービング① 理論、歴史と現在について	パーマネントウェービング理 論とパーマネントウェーブの 歴史と現在について理解し説 明することが出来る	美容技術理論 1) 4章:パーマネントウェービング①の復習と、次回学ぶパーマ剤の分類について予習
第2回	4章:パーマネントウェービング② パーマ剤の分類について	する注意事項について理解し	美容技術理論 1)4章:パーマネントウェービング②の復習と、次回学ぶパーマネントウェーブ技術理論
第3回	4章:パーマネントウェービング③ パーマネントウェーブ技術理 論	プロセスを理解し、様々なバリ エーションを理解し説明する	美容技術理論 1) 4章:パーマネントウェービング③の復習と、次回学ぶ5章:ヘアセッティングについての予習
第4回	5章: ヘアセッティング① ヘアセッティングとは	ヘアセッティングについての 基礎的要素を理解し説明する ことが出来る。	美容技術理論 1) 5章: ヘアセッティング①の復習と、次回学ぶヘアパーティング、ヘアシェーピングの予習
第5回	5章: ヘアセッティング② ヘアパーティング、ヘアシェ ーピングについて	ーピングの名称、種類を理解し	美容技術理論 1) 5章: ヘアセッティング②の復習と、次回学ぶヘアカーリングについて予習
第6回	5章: ヘアセッティング③ ヘアカーリングについて		美容技術理論 1) 5章: ヘアセッティング③の復習と、次回学ぶヘアウェービングについて予習
第7回	5章: ヘアセッティング④ ヘアウェービングについて について	称・種類を理解し説明すること	美容技術理論 1) 5章: ヘアセッティング④の復習と、次回学ぶローラーカーリングの予習
第8回	5章: ヘアセッティング⑤ ローラーカーリングについて	術について、理解し説明するこ	美容技術理論 1) ヘアセッティング ⑤の復習と、次回学ぶブロードライ について復習
第9回	5章: ヘアセッティング⑥ ブロードライについて		美容技術理論 1) 5章: ヘアセッティング⑥の復習と、次回学ぶアイロンセッティングについて予習
第10回	5章: ヘアセッティング⑦ アイロンセッティングについ て	アイロンセッティングの基礎 技術について、理解し説明する ことが出来る。	美容技術理論 1) 5 章:ヘアセッティング⑦の復習と、次回学ぶ
第11回	5章: ヘアセッティング® ウィッグとヘアピースについ て		の美容技術理論 1) 5 章:ヘアセッ ティング®の復習と、次回学ぶヘア カラーリングについて予習
第12回	6章:ヘアカラーリング① ヘアカラーリング概論、ヘア カラーの種類、タイプ別特徴 について	ラー剤の特徴を理解し説明することが出来る。	美容技術理論 1) 6章: ヘアカラー リング①の復習と、次回学ぶ染毛の メカニズムについて予習
第13回	6章:ヘアカラーリング② 染毛のメカニズムについて	ルとアンダートーンについて 知る。	美容技術理論 1) 6章: ヘアカラー リング②の復習と、次回学ぶ各種へ アカラーリングの技術理論につい て予習
第14回	6章: ヘアカラーリング③ パッチテスト、各種ヘアカラ ーリングの技術理論	パッチテストの必要性、染毛剤 使用時の注意事項について知 る。	美容技術理論 1)6章:ヘアカラーリング③についての復習と次回学ぶこれまで学習した内容について予習
第15回	総括	今期に学んだ全章を確認し知識を定着させ、理解を深め今後 の授業に応用することが出来 る	美容技術理論1の教科書にて今期

科目名	美容技術理論Ⅲ					
Subject	Hairstyling Theo	ryⅢ	教員名	富田 知子		
開講年次	1	開講時期	後期	——————————— 単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
工步了日初末	0	0	0	Δ	Δ	
科目の概要	現代社会において美容に求められるこは多様化している。しかしながら、造形要素としての 美容デザインの持つ効果は普遍的なものである。美容施術をする際、対象者の条件を読み取 る力が必要であり、美容デザインの構成要素が美容施術に及ぼす効果を学ぶことは有効であ る。本授業では、デザインの構成要素である、線、面などのイメージが顔に及ぼす影響学ぶ。 またデザイン要素を理解するために、美容デッサンという手法を用い、その理解を深めるよ うに学習する。					
授業の目標	とする。また美容	本授業では、理論による美容デザインの成り立ちを学び、実際の美容に行かせることを目標とする。また美容デッサンをすることで、顔とヘアスタイルの関係性、顔のパーツが作り出すイメージと個性を見出す力をつける。				
時間外学習 (予習・復習)	各回の授業の理解 授業計画に必要な			ヽア スタイルなどと	照らし合わせる。	
	教科書	日本理容美容教育	センター教科書			
*/L 1 \ - = +/L + 1	教材	資料の配布 デッサン用デザインボード				
教科書・教材 	使用設備・備品	画材				
	参考文献	図書館美容雑誌	他随時提示			
各回の授業で配布した資料の提出と作品の提出。評価方法						
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	作品が計画通り進むように、取り組む。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師国家資格				

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	授業内容ガイダンス		自身が思う線的要素が強い美容写 真作品を用意する
第2回	美容造形要素(線について)	髪型に存在する線的要素の理 解	自身が思う点的要素が強い美容写 真作品を用意する
第3回	美容造形要素(点)について		自身が思う面的要素が強い美容写 真作品を用意する
第4回	美容造形要素(面)	髪型に存在する面的要素の理 解	人が存在する印象が深い広告写真 を用意する
第5回	美容表現効果について (広告 写真を例に)	美容表現にお超える調和とコントラストの表現を知る	目について2つ以上の写真を用意 する
第6回	顔のパーツの形の理解	顔のパーツの形のもつイメー ジを知る	実際の写真を見て2つ以上描いて くる 子供と大人の顔写真を準 備する
第7回	顔のバランスの理解		顔型がイメージ通り描けるように 練習する
第8回	顔と髪型の理解	髪型が顔とそのような関係性 があるのかを学ぶ	写真1枚を選択し、顔と髪型につい て分析する
第9回	デッサンによる髪形状の理解		毛髪の形状の違う写真を2枚以上 用意し分析する
第10回	美容デザインのアレンジ	バッった とで ヒレンバル イメニ	次回から描く写真を図書館などで 選択しておく
第11回	美容デッサン①デザインの選 択	図書館の美容資料から選択した写真をコピーし、デッサンの 準備を完了させる	自身で美容写真の収集を行う
第12回	美容デッサン②下書き	デッサンの下書きを完成させ、 顔のパーツを完成させる	進み具合では持ち帰り制作を進め る
第13回	美容デッサン③描き込む	毛髪を描き込む	進み具合では持ち帰り制作を進め る
第14回	美容デッサン④完成させる	完成させ	プレゼンテーション原稿の準備
第15回	美容デッサン⑤展示をする	展示とプレゼンテーション	展示終了後作品をポートフォリオ に収集する

美容技術理論Ⅳ					
	美容技術理論IV		ヘアチーム		
Hairstyling Theo	ryIV	教員名	·// A		
2	開講時期	前期	単位	1	
必修	授業形態	講義	時間	30	
知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
0	0	0	0	Δ	
美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。 ここでは1年時に学んだ基礎理論を基に応用的な内容、またトータル的な美容について学び、 さらに国家試験課題の理論についても知識を深める。					
サロンワークでの技術を安全かつ円滑に行うため、美容に関するより高度な理論を学び、幅 広い知識を得る。					
学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分~90分程度行い、次回の授業につなげる。					
教科書	『美容技術理論 1.	□ 日本理容美容·	センター		
教材	適宜、資料配布				
使用設備・備品	プロジェクター				
参考文献					
授業態度(10%)、期末試験(90%)					
はの、田脪奴か个疋の場合は評価対象とはしません。					
授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません					
資格名	なし				
	2 必修 知識 ② 知識 ③ 知識 ③ から 技能 ③ から 技能 ③ から 大き でこらららららららららららららららららららららららららららららららららららら	2 開講時期 必修 授業形態 知識・技能 思考力・判断力 ⑥ 〇 美容技術を正確に施すための、理論を表こでは1年時に学んだ基礎でついてまるらに国家試験課題の理論についてまららに国家対験課題の理論についてまるからに国家対象である。 サロンワークでの技術を安全かつ円が大い知識を得る。 学科書 『美容技術理論 1。 資料配布 適宜、資料配布 プロジェクター 参考文献 受業態度(10%)、期末試験(90%) なお、出席数が不足の場合は評価対象である。 受業内容に支障が出る為、遅刻・欠点	2 開講時期 前期 必修 授業形態 講義 知識・技能 思考カ・判断カ 表現カ ⑥ O O 美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。ここでは1年時に学んだ基礎理論を基に応用的な内容、さらに国家試験課題の理論についても知識を深める。 かい知識を得る。 学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。各回の復習・予習は60分~90分程度行い、次回の投資・予習は60分~90分程度行い、次回の投資・予算は60分~90分程度行い、次回の投資・資料配布 東用設備・備品 プロジェクター 参考文献 受業態度(10%)、期末試験(90%) なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 受業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません。	2 開講時期 前期 単位 必修 授業形態 講義 時間 知識・技能 思考力・判断力 表現力 主体的行動力 ⑤ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション ヘアセッティング①を学ぶ	ウェーブ理論を理解し、説明す ることが出来る。	美容技術理論1)5章:ヘアカーリング理論についての予習と、今回の復習
第2回	ヘアセッティング②を学ぶ	ヘアカーリング理論を理解し、 説明することが出来る。	美容技術理論 1)5章:オールウェーブ理論についての予習と、今回の 復習
第3回	国家試験実技第二課題 オールウェーブ理論を学ぶ	オールウェーブ理論を理解し、 説明することが出来る。	美容技術理論 1) 5 章:カールの種類についての予習と、今回の復習
第4回	カールの種類を学ぶ	カールの種類を理解し、説明することが出来る。	美容技術理論 1)カールとフィンガーウェーブについての予習と、今回の復習
第5回	カールとフィンガーウェーブ の構成を学ぶ	の構成を理解し、説明すること が出来る。	ーガーリングについての予省と、今 回の復習
第6回	ヘアセッティング③を学ぶ	ィング・ローラーカーリングに	美容技術理論1)5章:バックコーミング・アップスタイル・ウイッグとヘアピースについての予習と、今回の復習
第7回	ヘアセッティング④を学ぶ	バックコーミング・アップスタイル・ウイッグとヘアピースに ついて理解し、説明することが 出来る。	14、7万無常についてのも姿と 全向
第8回	シャンプーイングを学ぶ	シャンプーイング理論を理解 し、説明することが出来る。	ンティンョナー・トリートメントに ついての予習と、今回の復習
第9回	リンス・コンディショナー・ トリートメントを学ぶ	リンス・コンディショナー・ト リートメントの違い、種類成分 などを理解し、説明することが 出来る。	美容技術理論 1) 2章:スキャルプトリートメントの目的・種類についての予習と、今回の復習
第10回	スキャルプトリートメントを 学ぶ	スキャルプトリートメントの 目的・種類について理解し、説 明することが出来る。	手炎技術# 第1) カチゲハチとか
第11回	まとめと解説	ヘアセッティング・シャンプー イング〜スキャルプトリート メントまでを復習し、理解を深 める。	美容技術理論1)6章:ヘアカラーの種類およびタイプ別特徴についての予習と、今回の復習
第12回	ヘアカラーリング①	ヘアカラーの種類およびタイプ別特徴について復習し、知識 を応用することが出来る。	美容技術理論1)6章:染毛のメカニズム・色の基本・毛髪のレベルとアンダートーンについての予習と、今回の復習
第13回	ヘアカラーリング②	染毛のメカニズム・色の基本・毛髪のレベルとアンダートーンを復習し、知識を応用することが出来る。	美容技術理論 1) 6 章:パッチテスト・染毛剤使用時の注意事項についての予習と、今回の復習
第14回	ヘアカラーリング③	パッチテスト・染毛剤使用時の 注意事項について復習し、正し く説明することが出来る。	全前
第15回	総括	全範囲の確認をし、知識として 未定着の部分を把握する。	美容技術理論 1 で今期学んだ全て の総復習

科目名	美容技術理論V					
Subject	Hairstyling Theor	ry V	教員名	ヘアチーム		
開講年次	2	開講時期	———————————— 後期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
工场于自然木	0	0	0	0	Δ	
科目の概要	美容技術を正確に施すための、理論的知識を習得する。 ここでは1年時に学んだ基礎理論を基に応用的な内容、またトータル的な美容について学び、 さらに国家試験課題の理論についても知識を深める。					
19 羊(1) 日神	サロンワークでの技術を安全かつ円滑に行うため、美容に関するより高度な理論を学び、幅 広い知識を得る。					
	学んだ内容を復習し、理論ノートにまとめる。 各回の復習・予習は60分~90分程度行い、次回の授業につなげる。					
	教科書	『美容技術理論 1、	2』 日本理容美	 美容センター		
	教材	適宜、資料配布				
教科書・教材	使用設備・備品	プロジェクター				
	参考文献					
評価方法	授業態度(10%)、期末試験(90%)					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	授業内容に支障が出る為、遅刻・欠席は原則認めません					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	7章:エステティックについ て学ぶ	エステティック概論・マッサー ジ理論等について理解し説明 することが出来る。	美容技術理論2)8章:ネイル技術に ついての予習と、今回の復習		
第2回	8章:ネイル技術について学 ぶ	ネイル技術についての理論を 理解し説明することが出来る。	美容技術理論2)7章:エステティック・8章:ネイル技術についてのまとめと、今回の復習		
第3回	7 章・8 章の確認と解説		美容技術理論2)9章:メイクアップ についての予習と、今回の復習		
第4回	9章:メイクアップについて 学ぶ	メイクアップ・基本テクニック について理解し、説明すること が出来る。	美容技術理論2)10章:日本髪についての予習と、今回の復習		
第5回	10章:日本髪について学ぶ		美容技術理論 2)9 章:メイクアップ・10章:日本髪についてのまとめと、今回の復習		
第6回	9 章・10 章の確認と解説	1メイクドツノと日本拏につい	美容技術理論2)11章:着付けの理 論と技術についての予習と、今回の 復習		
第7回	11章:着付けの理論と技術に ついてについて学ぶ	着付けの目的・着物や帯の種類・着付けに用いる小物などについて理解し、説明することが出来る。	美容技術理論2)11章:着付けの理 論と技術についてのまとめと、今回 の復習		
第8回	11章:着付けの理論と技術に ついてについての確認と解説		美容技術理論1)1章:美容用具に 関するまとめと、今回の復習		
第9回	1章:美容用具の復習	美容用具に関するの内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論 1) 2 章 : シャンプー イングについてのまとめと、今回の 復習		
第10回	 2 章:シャンプーイングの復 習		美容技術理論 1) 3 章: ヘアカッティングについてのまとめと、今回の 復習		
第11回	3章:ヘアカッティングの復 習		美容技術理論 1) 4 章:パーマネントウェービングについてのまとめと、今回の復習		
第12回	4 章:パーマネントウェービ ングの復習		美容技術理論 1) 5 章: ヘアセッティングについてのまとめと、今回の 復習		
第13回	5 章:ヘアセッティングの復 習		美容技術理論 1) 6 章: ヘアカラー リングについてのまとめと、今回の 復習		
第14回	6 章:ヘアカラーリングの復 習	ヘアカラーリングに関する内容について再確認し、理解を深める。	美容技術理論1・2で学んだことの まとめと、今回の復習		
第15回	総括	全範囲の確認をし理解を深め る。	美容技術理論1・2で学んだことの 総復習		

科目名	経営		教員名	山口 信和		
Subject	Business Adminis	tration			Г	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	Δ	0	
科目の概要	「経営学」は字のごとく経営の責任者が習得すべき学問であることから「帝王学」とも呼ばれています。経営管理論、経営組織論、マーケティング論、そして企業会計論の4つの学問の総称が「経営学」で、授業を通して各論の真髄である経営戦略、顧客志向、製品差別化戦略などを学習してゆきます。経営は常に市場環境の変化に適応してゆかねばなりません。テレビ教養番組から録画したビデオをケーススタディの教材として活用します。ビデオ鑑賞後、ケーススタディの要旨を相互にシェアし、同時に、みなさんから感想文をレポートとして提出していただきます。					
授業の目標	本学校を卒業し、社会人として新しい人生がスタートします。ビジネスの世界で成功するためには学ばなければならないルールがあります。サッカーにはサッカーのルールがあるように、ビジネスにもルールがあり、これが「経営学」です。社会生活が始まると、目標管理、人間関係、自己啓発など諸問題に直面し、ストレスがたまることがあると思います。経営学を学ぶことによって、ストレスの原因がどこにあるのか、そして、それを解決するにはどうすれば良いかを理解できるようになります。その結果、個人の成長に役立つ「生き方」や「考え方」を学ぶことができるようになります。					
時間外学習 (予習・復習)	次回の授業内容について事前に目を通し予習してくること。予習内容は「経営学読本ブリテン」として毎回、配布する。必要予習時間は毎回90分程度。					
	教科書	経営学読本、私の	メモ帳から			
	 教材	配布プリント				
教科書・教材	使用設備・備品	・備品 プロジェクター				
	参考文献					
評価方法	授業態度(40%)、レポート提出(40%)、期末試験(20%)などから総合的に判断します。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	出席状況、受講態度を重視。特に、おしゃべりは厳禁します。必要がある場合は、退席を要求します。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
	•	•				

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	経営学とは	経営学の領域、グローバリゼー ションを理解できるようにな る。	配布プリント:グローバリゼーション、消費者行動の変化など		
第2回	日本経済の現状事情について	終身雇用制、世の中の動向を理 解できるようになる。	配布プリント:不信の時代、男と女 は異人種など		
第3回	現代消費者事情について	ニーズとウォンツの違い、AIDMA理論を理解できるようになる。	配布プリント:経営理念、PDCAなど		
第4回	経営管理論について	戦略と戦術の違い、マネジメントサイクルを理解できるようになる。	配布プリント:経営管理システム、 組織化の原則など		
第5回	経営組織論について	マクレガーのXY理論、マズローの欲求五段階説を理解できるようになる。	配布プリント:平均値、競争状態、 パレートの法則など		
第6回	情報の種類について		配布プリント:マーケティングの定 義、業種から業態へなど		
第7回	マーケテイング論について	マーケティングの定義と種類 を理解できるようになる。	配布プリント:行動経済学、形と心など		
第8回	各種戦略論について	顧客志向、製品差別化戦略を理 解できるようになる。	配布プリント:ブランドマーケティング、ナショナルブランドとプライベイトブランドなど		
第9回	ブランドマーケティングにつ いて	ランチェスターの法則、市場細分化戦略を理解できるようになる。	配布プリント:マーケティングミッ クス、フィリップコトラーなど		
第10回	マーケティングミックス論に ついて	マーケティングミックス論、コトラーのSTP論を理解でき るようになる。	配布プリント:製品の種類、価格戦 争と非価格戦争、価格決定方式など		
第11回	製品戦略と価格戦略		配布プリント:百貨店の再生、広告 とPRなど		
第12回	流通戦略とプロモーション戦 略	チャネル政策、ビジュアルマー チャンダイジングを理解でき るようになる。	配布プリント:人材の条件、顧客管 理法則など		
第13回	販売員戦略について	CP理論、接客を理解できるようになる。	配布プリント:プレスティージマー ケティング、限定流通戦略など		
第14回	プレスティージ戦略について		配布プリント:自己のSWOT分 析、マーケティングセンスなど		
第15回	まとめ	自己マーケティング戦略を立 案できるようになる。			

	•			•	大石 / 1 / 守久
科目名	美容技術 I		教員名	ヘアチーム	
Subject	Hairstyling Skil	ls I	教 貝石	Λ, , , – Δ	
開講年次	1	開講時期	前期	単位	3
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	©	0	0	0	0
科目の概要	美容に関する基礎的理論と知識を学び、実習を通して基本技術を効率的に習得する。 ワインディング技術(パーマネント技術におけるロッド巻き)を中心に、シャンプー技術も 加え様々な美容の基礎技術を学びながら、美容に対する興味を深めるべく礎を築いていく。				
授業の目標	国家試験の合格に主眼を置きながら、サロンの現場を主体とした実践的教育(技術)を導入し、技術力を的確に蓄積していく。 主に国家試験実技試験課題であるワインディングの基礎技術、ならびにサロンの現場で必要とされる技術を学び、実践を重ねることによりステップアップを図る。 カット、ワインディング、シャンプー、デザインパーマそれぞれの基礎技術を理解し、施術が出来るようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしつつ繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分~90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないよう に定着させておくこと。学んだ技術を研究もしつつ、繰り返し練習する。また学習内容をノ ートに記録し次の目標を掲げる				
	教科書	『美容技術理論 1.	2』日本理容美容教		
	 教材	美容用具一式、配	———— 布プリント		
教科書・教材	使用設備・備品	美容実習室、プロ	ジェクター		
1	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物(宿題としての技術及びノートまとめ)20%、期末実技試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	オリエンテーション 美容技術理論を学ぶにあたっ て教育カリキュラムの説明及 び諸注意	美容技術の教育カリキュラム の説明及び諸注意を理解する	配布資料を熟読しておくこと		
第2回	美容における頭部の区分と名 称 美容用具の取り扱い方	美容における頭部の名称及び 用具類の取り扱い方を理解出 来る	美容技術理論 I テキスト序章・1章 を熟読し復習をすること		
第3回	ヘア・カッティング カットの基礎知識とシザーズ アクションのデモンストレー ション・実践		美容技術理論 I テキスト3章を熟 読し復習をすること		
第4回	ヘア・カッティング 頭部ブロッキング	頭部の名称を覚えブロッキン グを確実に取れる			
第5回	ヘア・カッティング モデルウィッグ(オールウェ ーブ)カットの実践	カット技術を理解し、 実際に行うことが出来る			
第6回	ヘア・カッティング トップ・サイド部分カットデモンストレーション・実践	トップ・サイド部分のカット技 術を理解し、実際に行うことが 出来る			
第7回	ヘア・カッティング バック部分カットデモンスト レーション・実践	バック部分のカット技術を理 解し、実際に行うことが出来る			
第8回	ヘア・カッティング ネープ部分の実践及びチェッ ク	ネープ部分のカット技術を理 解し、実際に行うことが出来る			
第9回	1キテルロノック いろうケイ	カット技術を理解し、 実際に行うことが出来る			
第10回	ヘア・カッティング 頭部ブロッキング	頭部の名称を覚えブロッキン グを確実に取れるようになる			
第11回	ヘア・カッティング トッ プ・サイド部分カットデモン ストレーション・実践	トップ・サイド部分のカット技 術を理解し、実際に行うことが 出来る			
第12回	ヘア・カッティング バック部分カットデモンスト レーション・実践	バック部分のカット技術を理 解し、実際に行うことが出来る			
第13回	ヘア・カッティング ネープ部分の実践及びチェッ ク	ネープ部分のカット技術を理解し、実際に行うことが出来る			
第14回	パス) 10 ブロッキング・スラ	ワインディング技術の 10 ブロ ッキング・スライス·シェープ が出来る			
第15回	WD 技術(オールパーパス)上 巻き・センター部分ロッドの収 め方を学び、実践		上巻き・センター部分の技術を 90 分 程度復習すること		

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	WD 技術(オールパーパス)ブロッキング/上巻きの復習	ブロッキング/上巻き技術が 出来る	
第17回	WD 技術(オールパーパス)下巻き・センター部分ロッドの収め方を学びと実践	下巻き・センター部分ロッドの 収め方を理解し出来る	下巻きを授業後、60 分程度復習する こと
第18回	WD 技術 (オールパーパス) 下巻きの復習 センター部分ロッドの収まり方の確認	下巻き技術、センター部分ロッ ドの収まり方を理解し出来る	
第19回	WD 技術(オールパーパス)左 バックサイド・サイドの収め 方	左バックサイド・サイドの収め 方を理解し習得する	バックサイド・サイドの収め方を 90 分程度復習すること
第20回	WD 技術(オールパーパス)右 バックサイド・サイドの収め 方	右バックサイド・サイドの収め 方を理解し習得する	バックサイド・サイドの収め方を 90 分程度復習すること
第21回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキングと全頭の収ま り方の確認と復習		10 ブロッキング・全頭を授業前に 90 分程度予習しておく
第22回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキングと全頭の収ま り方の確認と復習	時間を意識し、10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し 習得する	
第23回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	時間を意識し、10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し習得する	以後、毎回授業内で行った技術を 90 分程度復習すること
第24回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 45 分を意識し、10 ブロッキングと全頭の収まり方を理解し習得する	設定時間の 45 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第25回	シャンプー技術 指圧シャンプー基礎理論	指圧シャンプーの基礎を理解 出来る	毎回シャンプー技術の授業後は、配 布されるテキストを熟読し手順の 復習をすること
第26回	シャンプー技術 指圧マッサージ	指圧マッサージを理解し実践 出来る	
第27回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 45 分で WD 全頭を完 成させることが出来る	
第28回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 45 分で WD 全頭を完 成させることが出来る	
第29回	シャンプー技術 指圧シャンプー基礎理論 復習	指圧シャンプーの基礎を理解 出来る	
第30回	シャンプー技術 指圧マッサージ 復習	指圧マッサージを理解し実践 出来る	

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 40 分で WD 全頭を完	設定時間の 40 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第32回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 40 分で WD 全頭を完成させることが出来る	
第33回	シャンプー技術 指圧シャンプー① デモンストレーション	指圧シャンプーの目的を理解 し実践出来る	
第34回	シャンプー技術 指圧シャンプー② シャンプー実践・復習	指圧シャンプーの目的を理解 し実践出来る	
第35回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する		設定時間の 35 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第36回	WD 技術(オールパーパス) 技術チェック	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることが出来る	
第37回	シャンプー技術 指圧シャンプー③ ヘアトリートメント	ヘアトリートメントの目的を 理解し実践出来る	
第38回	シャンプー技術 指圧シャンプー④ ヘアトリートメント復習	ヘアトリートメントの目的を 理解し実践出来る	
第39回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることが出来る	
第40回	WD 技術(オールパーパス) 10 ブロッキング及び全頭を実 践する	設定時間 35 分で WD 全頭を完 成させることが出来る	
第41回	シャンプー技術 技術総復習		設定時間の 25 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第42回	シャンプー技術 技術チェックとまとめ	設定時間 25 分でモデルに対し シャンプー技術が出来る	
第43回	WD 技術(オールパーパス) まとめと復習		総復習とし、授業後これまで技術を 踏まえ 90 分程度 WD 技術を行うこと
第44回	WD 技術(オールパーパス) まとめと復習		総復習とし、授業後これまで技術を 踏まえ 90 分程度 WD 技術を行うこと
第45回	WD 技術(オールパーパス) まとめと復習	規定時間内で出来た作品を自 ら理解し正確なものへ修正で きるようになる	総復習とし、授業後これまで技術を 踏まえ 90 分程度 WD 技術を行うこと

科目名	美容技術Ⅱ		教員名	ヘアチーム	
Subject	Hairstyling Skil	ls II		,, –	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	3
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	90
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	0	0	0
科目の概要	美容に関する基礎理論と知識を学び、実習を通して基礎技術を的確に習得する。 主に、美容師国家実技試験課題であるワインディング及びオールウェーブセッティング技術 を中心に美容の基礎的理論と知識を学ぶ。またサロンにおいて、最初の重要な実践的技術で あるシャンプー技術を、相モデルを通して習得する。				
授業の目標	国家試験(実技)での規定タイム内の仕上げに向け、基礎技術力を養う。主に国家試験実技課題であるワインディング及びオールウェーブセッティングの基礎技術、ならびにサロン現場で必要とされる基礎技術を学び、実践を重ねることによりレベルの高い技術が出来るようになる。 ノーパートオールウェーブ、パーマネントウェーブ、シャンプーの基礎技術を繰り返すことにより基礎技術が確実に出来るようになる。 ワインディング(国家試験課題)について、基礎技術から応用技術への転換を図り、国家試験内容の基礎部分が出来るようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしつつ繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分~90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないよう に定着させておくこと。				
	教科書	『美容技術理論 1.	2』日本理容美容勢		
	教材	美容用具一式、配	布プリント		
教科書・教材	使用設備・備品	美容実習室、プロ	ジェクター		
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物(宿題としての技術およびノートまとめ)20%、期末試験 70%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			
1	•	•			

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	パーマネントウェーブ パーマネント技術を行う際の 諸注意	パーマネント技術の目的を理 解する	美容技術理論 I テキスト 4 章を熟読 すること		
第2回			美容技術理論 I テキスト 4 章を熟読 し必要なところはノートに記入し ておくこと		
第3回		パーマネントウェーブ用ワインディング技術を理解し習得する			
第4回	パーマネントウェーブ 2 浴式コールドウェーブ施術 プロセス説明	2 浴式コールドウェーブ施術 プロセスを理解し習得する			
第5回	パーマネントウェーブ 2 浴式コールドウェーブ施術 プロセス実践	2 浴式コールドウェーブ施術 プロセスを理解し習得する			
第6回	オールウェーブ技術 フィンガーウェーブ理論	フィンガーウェーブ理論を理 解する	美容技術理論 I テキスト 5 章を熟読 すること		
第7回	AW 技術 ワンストローク・リッジのつ なぎ方の実践	ワンストローク・リッジのつな ぎ方を理解し出来る	以下、オールウェーブを AW と表記 する		
第8回	AW 技術 ワンストローク・リッジのつ なぎ方の実践と復習	ワンストローク・リッジのつな ぎ方を理解し出来る			
第9回	シャンプー技術 指圧シャンプー⑤ 手順と実践	指圧シャンプー技術の手順を 相モデルにて出来る	毎回シャンプー技術授業後はテキストを熟読し、60分程度実践練習をすること		
第10回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 1 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 1 線目を理解し出来る	1 線目を授業終了後 60 分程度復習 すること		
第11回	シャンプー技術 指圧シャンプー⑥ 手順と実践の復習	指圧シャンプー技術の手順を 相モデルにて出来る			
第12回	AW 技術 / ーパートオールウェーブ 1 線 目復習	ノーパートオールウェーブ 1 線目を理解し出来る			
第13回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 2 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 2 線目を理解し出来る	2 線目を授業終了後 60 分程度復習 すること		
第14回	AW 技術 / ーパートオールウェーブ 1·2 線目復習	ノーパートオールウェーブ 2 線目を理解し出来る			
第15回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 3 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 3 線目を理解し出来る	3 線目を授業終了後 60 分程度復習 すること		

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	AW 技術 / ーパートオールウェーブ 1 ~3 線目復習	ノーパートオールウェーブ 3 線目を理解し出来る	ノーパートオールウェーブ 1・2・3 線目を出来るように 90 分程度復習 すること
第17回	ワインディング(国家試験課題)ブロッキング及びセンタ 一部分の説明と実践	ブロッキング及びセンター部 分を理解し出来る	以下、ワインディングを WD と表記 する
第18回	シャンプー技術 ヘッドスパ 実践	ヘッドスパの目的、手順を理解 できる	
第19回	ワインディング(国家試験課題) ブロッキング及びセンタ 一部分の復習	ブロッキング及びセンター部 分を理解し出来る	ブロッキング及びセンター部分を 巻けるように 90 分程度予習してお くこと
第20回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 4・5・6 線目デモ・実践	ノーパートオールウェーブ 4・5・6 線目を理解し出来る	ノーパートオールウェーブ 4・5・6 線目を出来るように 90 分程度復習 すること
第21回	WD 技術 右フロント・バックサイド巻 き方の説明と実践	右フロント・バックサイドの巻 き方を理解する	右フロント・バックサイドを巻ける ように 90 分程度復習しておくこと
第22回	シャンプー技術 ヘッドスパ 復習	ヘッドスパの目的、手順を理解し実践出来る	
第23回	WD 技術 右フロント・バックサイド巻 き方の復習	右フロント・バックサイドの巻 き方を理解し出来る	
第24回	AW 技術 ノーパートオールウェーブ 1 ~6 線目復習	ノーパートオールウェーブ 4・5・6 線目を理解し出来る	ノーパートオールウェーブ 1~6 線目まで確実に出来るように練習しておくこと
第25回	WD 技術 左フロント・バックサイド巻 き方の説明と実践	左フロント・バックサイドの巻 き方を理解する	左フロント・バックサイドを巻ける ように 90 分程度復習しておくこと
第26回	シャンプー技術 ヘッドスパとトリートメント	ヘッドスパとトリートメント の目的、手順を理解する	
第27回	WD 技術 左フロント・バックサイド巻 き方の復習	左フロント・バックサイドの巻 き方を理解し出来る	
第28回	AW 技術 クロッキノールカール説明と 実践	クロッキノールカールを理解 し出来る	美容技術理論 I テキスト 5 章を熟読 し復習すること
第29回	WD 技術(国家試験課題) 全頭	WD(国家試験課題)を全頭理解 し実践出来る	WD(国家試験課題)が全頭負巻ける ように 90 分程度復習しておくこと
第30回	シャンプー技術 ヘッドスパとトリートメント 復習	ヘッドスパとトリートメント の目的、手順を理解し実践出来 る	

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	WD 技術(国家試験課題) 全頭		設定時間の 35 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第32回	AW 技術 クロッキノールカール復習	クロッキノールカールを理解 し出来る	
第33回	WD 技術(国家試験課題) 全頭	設定時間 30 分で WD 全頭を完成させることが出来る	設定時間の 30 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第34回	シャンプー技術 総復習		設定時間の 20 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第35回	WD 技術(国家試験課題) 全頭		以後、毎回授業内で行った WD 技術 を 90 分程度復習すること
第36回	AW 技術 ノ ーパートオールウェーブ 全 頭		以後、毎回授業内で行った AW 技術 を 90 分程度復習すること
第37回	WD 技術(国家試験課題) 全頭 技術チェック	設定時間 25 分で WD 全頭を完成させることが出来る	設定時間の 25 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第38回	AW 技術 ノ ーパートオールウェーブ 全 頭 技術チェック		設定時間の 40 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第39回	WD 技術(国家試験課題) 全頭	設定時間 25 分で WD 全頭を完成させることが出来る	
第40回	AW 技術 / ーパートオールウェーブ 全 頭	設定時間 35 分で WD 全頭を完成させることが出来る	設定時間の 35 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第41回	WD 技術(国家試験課題) 全頭	設定時間 20 分で WD 全頭を完成させることが出来る	設定時間の 20 分は平均的な目標値です。全体のレベルにより、授業内では異なる時間設定をする場合があります
第42回	AW 技術 ノ ーパートオールウェーブ 全 頭		設定時間の 30 分は平均的な目標値 です。全体のレベルにより、授業内 では異なる時間設定をする場合が あります
第43回	WD 技術(国家試験課題) 全頭 まとめ	設定時間 20 分で WD 全頭を完 成させることが出来る	
第44回	AW 技術 ノ ーパートオールウェーブ 全 頭 まとめ	設定時間 30 分で WD 全頭を完 成させることが出来る	
第45回	WD 技術・AW 技術 まとめと総復習	規定時間内で出来たWD・AW作品を自ら理解し正確なものへ修正できるようになる	WD・AW 技術共にこれまでの技術を踏まえ90分程度復習しておくこと

	T					
科目名	美容技術Ⅲ		教員名	ヘアチーム		
Subject	Hairstyling Skil	lsⅢ	投 與石	7,7		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	3	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	90	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	美容技術 I 、II で学んだ内容を基に、国家試験第二課題であるノーパートオールウェーブセッティングおよびワインディングの技術プロセスを習得する。					
授業の目標	国家試験の合格を主眼に置き、美容に関する知識および技術力の向上を目指し、そのレベルにあった技術が習得出来る。併せて、社会人として必要なルールやマナーなども身につけることが出来る。 国家試験課題である、ノーパートオールウェーブセッティング、ワインディングの技術力を底上げする中で自己分析などの能力を得る。個々に技術向上を模索し、タイム短縮などの結果を出すことができる。					
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしながら繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分~90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないよう に定着させておくこと。					
	教科書	『美容技術理論 1.	2』日本理容美容執	 枚育センター編		
*/L T, I =	教材	美容用具一式、配布プリント				
教科書・教材	使用設備・備品	美容実習室、プロジェクター				
	参考文献	なし				
評価方法	授業態度 10%、提出物(宿題としての技術およびノートまとめ)20%、期末試験 70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション ワインディング (国家試験課題) を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ロントリイ シティンクけ WLと表示す			
第2回		構成、シェープなどに注意し、 30 分以内に仕上げられるよう になる	以下ノーパートオールウエーブは AW と表示する			
第3回	WD(国家試験課題)を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	以下ワインディングは全て国家試 験課題			
第 4 回	AW(国家試験課題) スカルプチュアカールを学び 実践する	フィンガーウェーブとのつな がり及びシェープに注意しな がらバランスよく作れるよう になる	以下オールウエーブは全て国家試			
第5回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第6回	AW スカルプチュアカールを復習 する	フィンガーウェーブとのつな がり及びシェープに注意しな がらバランスよく作れるよう になる	ラムたカールのもつそん甲1甲1			
第7回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第8回		FW との繋がりとシェープに注 意し、リフトカール(右巻き)ま でバランスよく作れるように なる	以下フィンガーウェーブは FW と表			
第9回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第10回	AW スカルプチュアカール、 リフトカール(右巻き)を復習 する	FW との繋がりと、シェープに 注意し、リフトカール(右巻き) までバランスよく作れるよう になる	学んだカールの手つきを思い出し ながら研究し、構成等に注意して全 頭を仕上げる			
第11回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第12回	AW スカルプチュア、リフトカール(右巻き)を復習し、リフトカール(左巻き)を学び実践する		学んだカールの手つきを思い出し ながら研究し、構成等に注意して全 頭を仕上げる			
第13回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第14回	AW スカルプチュアカール、 リフトカール(右巻き·左巻き) を復習する	FW との繋がりと、シェープに 注意し、リフトカール(左巻き) までバランスよく作れるよう になる	学んだカールの手つきを思い出し ながら研究し、構成等に注意して全 頭を仕上げる			
第15回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第16回	AW スカルプチュアカール、 リフトカールを復習し、メイ ポールカールを学び実践する	FW との繋がりと、シェープに 注意し、メイポールカールまで バランスよく作れるようにな る	学んだカールの手つきを思い出し ながら研究し、構成等に注意して全 頭を仕上げる			
第17回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第18回	AW メイポールカールを復習 し、全頭を仕上げる		学んだカールの手つきを思い出し ながら研究し、構成等に注意して全 頭を仕上げる			
第19回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第20回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第21回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第22回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第23回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第24回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第25回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第26回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し 50 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第27回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第28回	AW を実践する		次回レベルチェックに向け、カール やウェーブのシェープ、構成等を確 認しながら反復練習をする			
第29回	WD を実践する	などに注意し、20 分以内に仕	次回レベルチェックに向け、ステム の角度、構成、シェープ等を確認し ながら反復練習をする			
第30回	WD と AW のレベルチェックを 受ける		レベルチェックの結果を確認し、不 得意部分を重点的に反復練習をす る			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第31回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第32回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、40 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第33回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第34回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、40 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第35回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第36回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、35 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第37回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第38回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、35 分以内に仕上げられるように なる	カー・ルぞ) フェー・ノハシノエー・ノー 焼か			
第39回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第40回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、35 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第41回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第42回	AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、35 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第43回	WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			
第44回	まとめ AW を実践する	シェープ、構成等に注意し、35 分以内に仕上げられるように なる	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら反復練習をする			
第45回	まとめ WD を実践する	ステムの角度、構成、シェープ などに注意し、20 分以内に仕 上げられるようになる	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら反復練習をする			

科目名	カット&カラー I		教員名	ヘアチーム		
Subject	Haircutting & Ha	ir Coloring I	秋 與石	1,7,7 14		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	美容技術教育プログラム・ピボットポイントシステムを基に、ヘアカット・ヘアカラーリングの基礎理論を理解すると共に、マネキンを使用して基礎テクニックを習得する。また映像や資料を多く使用する事で創造力を刺激し、他者のニーズを踏まえて「美」を表現するデザイン力の基盤を作り上げる。					
授業の目標	世界基準のカット理論であるピボットポイントのベーシックフォームの特徴を説明できるようになる。また、ヘアカット・ ブローの基礎プロセスを実践する事でサロンでの確かな美容技術の基盤作りを行う。 ヘアカラーリングでは、基礎知識と化学作用を理解し、毛束(バージンヘア〜白髪まで)・マネキンを使い実習を行う。その結果、ヘアカラーの仕上がりイメージを予測できるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	予習:課題のテキストを熟読しておく(30分) 予習:「デザインの決定」(展開図などを記入) を予測記入しておく(20分)復習:テキスト内の評価表を記入し、点数化しておくこと(20分) 復習:課題の展開図などの黒板を板書し、次回に向けて内容を見返し理解を行う(30分)※指定時間は平均的な時間を記載している。人によって時間が掛かる学生もいるだろう。時間にとらわれ過ぎず次回授業までに知識・技術が漏れないようにすることが重要です。					
	教科書	HAIR SCULPTURE	PIVOT POINT 20	14、教員作成資料		
	教材	なし				
教科書・教材	使用設備・備品 3 1 0 教室・シャンプ一室					
	参考文献 美容技術理論 I · 『COLOR DESIGN』 PIVOT POINT					
評価方法	提出物10%、毎回の作品評価40%、期末試験50% 方法					
	なお、出席数が不	足の場合は評価対象	 象とはしません。			
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻・欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退出 等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	ピボットポイント ピボットポイント	・ヘア・スカルプ・ ・カラーデザイン	チャー		

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション hair sculpture 理論(1) ヘアデザイナーの考え方を学 ぶ	授業に関する諸注意を知り、 hair sculpture 基礎理論を説 明できる。	予習:トレンドヘアスタイルを 3 点 準備を行う。30 分 復習:授業の振り返りを行う。30 分
第2回	hair sculpture 理論(2) シザーズの扱い方・開閉を実 践する	シザーズの使用方法を説明で きる。	予習:道具の使用例を調べる。30分 復習:自分の使用しやすいシザーズ の持ち方を探す。30分
第3回	ワンレングス (1) 基礎理論・ブロー理論を学ぶ	ブロー、ワンレングスの基礎理 論を述べることができる。	予習: ワンレングス理論 (P20~26、 44~52) の熟読。30分 復習: 授業の振り返りを行う・黒板 板書。30分
第4回		部分かつらでワンレングスス タイルをカット&ブローする ことができる。	120 👄
第5回	グラデーション(1) 基礎理論を学ぶ	グラデーションの基礎理論を 説明できる。	予習:グラデーション理論 (P82~91) の熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第6回	グラデーション(2) 課題2-2、3を実践し、ス タイル評価(A~Zまで)を受 ける	部分かつらでグラデーション ヘアスタイルをカット&ブロ ーすることができる。	
第7回	レイヤー(1) 基礎理論を学ぶ	レイヤーの基礎理論を説明できる。	予習:レイヤー理論 (P110~117) の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第8回	レイヤー(2) 課題2-4を実践し、スタイ ル評価(A~Z まで)を受ける	部分かつらでレイヤーヘアス タイルをカット&ブローする ことができる。	130 分
第9回	セイムレイヤー(1) 基礎理論を学ぶ	セイムレイヤーの基礎理論を 説明できる。	予習:セイムレイヤー理論(P142~147)の熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第10回	課題2-5を実践し、スタイル評価(A~Z まで)を受ける		予習:課題2-4 (P40~42)の熟読。 30分 復習:授業の振り返りを行う・黒板 板書の見直し。30分
第11回	ワンレングス (3) 基礎理論を再確認し、トレン ド・全体のヘアバランスを学 ぶ	種類と全体バランス・展開図を	予習: ワンレングス理論 (P20~26、 44~52) の再熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第12回	ワンレングス (4) 課題 2 - W 1 を実践し、スタ イル評価 (A~Z まで) を受け る	ワンレングススタイル (平行ライン) を行うことができるようになる。	
第13回	ワンレングス(5) 課題2ーW3の説明を聞き、 デモンストレーションを見る	下がりライン)の展開図と手順 を説明できる。	復習:授業の振り返りを行う。30分
第14回	ワンレングス (6) 課題2-W3を実践し、スタ イル評価 (A~Zまで)を受ける	ワンレングススタイル (斜め前 下がりライン) を行うことがで きるようになる。	予習:課題2-W3 (P71~77)の再熟読・予測記入。50分 復習:授業の振り返りを行う・黒板 板書見直し。30分
第15回	グラデーション (3) 基礎理論を再確認し、トレン ド・全体のヘアバランスを学 ぶ	の種類と全体バランス・展開図	予習:グラデーション理論 (P82~ 91) の再熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	グラデーション(4) 課題2-W4を実践し、スタ イル評価(A~Z まで)を受け る	グラデーションスタイル (斜め 前下がりライン) を行うことが できるようになる。	予習:課題2-W4 (P92~96)の再熟読・予測記入。50分 復習:授業の振り返りを行う・黒板板書見直し。30分
第17回	グラデーション(5) 課題2-W5の説明を聞き、 デモンストレーションを見る	グラデーションスタイル (斜め後ろ下がり・コンベックスライン) の展開図と手順を説明できる。	予習:課題2-W5 (P100~105)の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第18回		後ろ下がり・コンベックスライ	予習:課題2-W5 (P100~105) 再熟読・予測記入。50分 復習:授業の振り返りを行う・板書見直し。30分
第19回	ヘアカラーリング(1) color design 理論(ヘアマニ キュア)を学ぶ	(グレイヘア)の基礎理論を説	予習:トレンドヘアカラースタイル を3点準備を行う。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第20回	ヘアカラーリング(2) 課題1(スウォッチ作成×2 12色相環作成)を実践する	ヘアマニキュアを使用してス ウォッチを作成し、色味の仕上 がりを測定することができる。	予習:美容理論(ヘアマニキュア) 熟読。30 分 復習:宿題(W·C、1 2色 COLORWHEEL) の完成。30 分
第21回	ヘアカラーリング(3) color design 理論(アルカリ カラー)を学ぶ		予習:美容理論(アルカリカラー) 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第22回	ヘアカラーリング(4) 課題2(スウォッチ作成× 5)を実践する	ウォッチを作成し、色味の仕上	予習:アルカリカラ―の色の違いを 調査しノートにまとめる。30 分復 習:宿題(5シート)の完成。30分
第23回	ヘアカラーリング(5) color design 理論(ブリー チ)学ぶ	ーチ)を説明することができ	予習:美容理論(ブリーチ)熟読。 30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第24回	ヘアカラーリング(6) 課題3(スウォッチ作成× 2、ウイッグカラー)を実践 する	を作成し、仕上がり度合いの比 較とウイッグに施術すること	予習:ブリーチをしたヘアスタイル を3点準備を行う。30分 復習:宿題(5シート)の完成。30分
第25回		ービング) を説明することがで	予習:ウィービンの情報収集し説明 出来るようにする。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第26回	ヘアカラーリング(8) 課題4(ウイッグカラー)を 実践する	クニック (シングルフォルト)	予習:ウィービングコンテスの情報 収集。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第27回	ヘアカラーリング(9) color design 理論(ヘアカラ 一塗布)を学ぶ		予習:アルカリカラ―の既染毛塗布 理論を調べる。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第28回	ヘアカラーリング(10) 課題5(ウイッグカラー)を 実践する	2 タッチテクニックの施術が 行うことができるようになる。	予習:アルカリカラ―の塗布テクニックを調べる。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第29回	刈り上げ(1) 基礎理論を学ぶ	刈り上げ理論を説明すること ができる。	予習:刈り上げの語源を調べる。30分 (会習:授業の振り返りを行う。30分
第30回	刈り上げ(2) かつらで練習を行い、その後 ウイッグで自由制作を行う。 作品の他者評価をする	刈り上げテクニックを使い、ウ イッグで自由制作を行うこと ができる。	予習:自由制作に向けてデザインを 考える。30分 復習:他者評価の考察を行う。30分

科目名	着装技術 I		** = 4	****・**** /		
Subject	Techniques of Ki	mono Dressing I	教員名	着装チーム		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	日本の伝承美、着装の技術および着物の基本知識を学び、"日本の心を着る"という豊かな感性と人を思いやる心を育て、日本人としての文化教養を身につけます。また「自分で着る、人に着せる」実習を通して美齢学に通ずる子供から高齢者へ向けた着つけの基本技術を習得し、接客の心得を学びながら美容総合実践として着つけ技術基礎を固めます。さらにこの科目は社会で活躍する自分の姿を常にイメージし、職業実践専門課程に基づくカリキュラムの実践を通し就職、社会事業に沿った学びができます。社会人としての素養を日本人としての資質を一回一回の授業で身に着けることで、自分自身の成長を感じることができる科目となります。					
授業の目標	本科目の履修を通して、 ① 生活の中に関わる着物文化と装いを理解し、四季に応じたコーディネイトや装いの表現力を養う事が出来る。 ② 山野流美道五大原則に基づいたトータルビューティの習得と美齢学の基礎実践が出来るようになる。 ③「自分で着る,人に着せる」の着つけの基本技術を習得する事が出来る。 ④社会人となる自分を常にイメージし、就職1年目から社会に貢献できる技術、マナー、日本文化の知識を習得する。					
時間外学習 (予習・復習)	予習・復習共に技術者として接客を意識した生活学習を行う。予習:次回授業対象の範囲につき TV や雑誌ほか SNS などで TPO やコーディネイトを確認する。復習:学びの経過を SNS に掲載したり各自タブレットに保存するなど技術向上を目で見て確認する。又 TV や雑誌、SNS などからテクニックの相違を確認すること。他、コンテストやイベントの教員指導による時間外予習復習も場合により有り得る。総合で 30-40 時間以上の予習を見込む					
	教科書	着つけ教本は初回	に配布 ほか必	要に応じてプリン	ト配布	
*/L 5.1 = +	教材	授業に必要な教材	を初回に配布			
教科書・教材	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル(保管は短大教室内)				
	参考文献	(一財) 国際美容協会貯蔵				
実技試験 、筆記試験 、評価シート 、授業態度 、小テスト 評価方法						
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	①個人持参物/半紙、筆記用具、白ソックス、白タオル5本、ハサミ、名前ペン 女子は前後の衿が大きく開いたシャツ(キャミソール)、7分丈迄のレギンス 男子はVかU字型シャツ、短パン②マナー/実習時は髪を一つに束ねる事、素足入室は厳禁					
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容着付師				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション トータルビューティと美齢学	山野が目指すトータルビュー ティ及び美齢学の概念を理解 する	山野美容芸術短期大学の理念を覚え てくること			
第2回	浴衣の知識 着付けと帯結び	着つけに必要な小物と着物の 名称を覚え、一人で着物を着る 事を理解する	着付けに必要な小物と各部名称につ いて予習復習が必要			
第3回	礼装 留袖の知識	礼装の着物を知る	着付けに必要な小物と各部名称につ いて予習復習が必要			
第4回	着付け前の準備	着つけの備品を覚え、着付け前 の準備が出来るようになる	準備の方法につき各自 30 分程度復 習すること			
第5回	外出着の装い	着物の種類を学び、街着の着物 について知る。	準備方法の小テストのため 30 分程 度の予習が必要			
第6回	小紋① 着物と名古屋帯	一人で着物が着れるようにな る	小紋のについて社会情報を得てくる こと			
第7回	小紋②	自分で小紋の着物を着ること ができる	テキストを見て復習			
第8回	一人で着る着物と帯結び	一人で名古屋帯を結ぶ事を理 解する	テキストを見て復習			
第9回	小紋③	一人で着物と名古屋帯を結ぶ ことが出来る	テキストを見て復習			
第10回	一人で着る着付け仕上げ 小テスト	一定の時間内に綺麗に着つけ と帯結びが出来るようになる	小テストのため事前予習が必要 (テキストでプロセスを確認)			
第11回	留袖①	礼装にふさわしい、ヘアスタイ ル着つけのバランス感覚を学 ぶ				
第12回	留袖のヘアメイクと着付けの デモンストレーション		社会情報から礼装のヘメイクを予習 してくる			
第13回	留袖②	長襦袢、留袖の着つけのプロセ スを理解する	テキストを見て復習			
第14回	長襦袢と留袖の着付け	長襦袢、着物を上手にたたむ事 が出来るようになる	テキストを見て復習			
第15回	留袖③	留袖の着付けができる(復習) 袋帯の知識を学ぶ	各自学習成果を保存し確認。			

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第16回	留袖の着付け帯結び	二重太鼓を結び仕上がりの型 が理解する	保存した画像からテキストを比較し て復習		
第17回	留袖④	留袖の着付けと袋帯二重太鼓 を結ぶ(復習)	美しい着付けのイメージ学習をして くる		
第18回	留袖の着付けと帯結び	留袖の着付けと袋帯二重太鼓 を美しく仕上げる事を理解す る			
第19回	留袖⑤	留袖の知識を確認し、着物の格と家紋を学び装いの違いを理解する			
第20回	格式ある席の装い ミセスの礼装	礼装にふさわしい、留袖の着付 けと袋帯二重太鼓を結ぶ			
第21回	留袖⑥		技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)		
第22回	留袖の表情と身のこなし	着る人にふさわしい、ヤングミセスから高齢者の装いの表現が出来るようになる			
第23回	留袖⑦		技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)		
第24回	手早く着心地の良い着付け	更に技術を磨き、手早く美しい 着つけが出来るようになる			
第25回	留袖⑧		 技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)		
第26回	総仕上げ	ミセスの礼装を意識し、品格の ある着つけが出来るようにな る			
第27回	留袖⑨		技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)		
第28回	技術試験	限られた時間に留袖と帯結び の仕上げが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場合 は再試験の予習が必要		
第29回	知識確認	15ツ川 四 4 人 4 将 111 散 4 体 12	テキストを熟読し前期の学びに関す る知識を覚えてくる		
第30回	まとめ		十分に知識の習得が出来なかった場 合は再試験への予習が必要		

科目名	メイクアップ I					
	Make-up I		教員名	ティミー 西村	他	
	1	BB = # n± ₩0	≥6. #0	₩ <i>1</i> -	2	
開講年次		開講時期	前期	単位 	2	
必修/選択 	必修	授業形態	実習	— 時間 —————	60	
 主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーションカ	
	©	0	0	0	0	
科目の概要	スキンケアからベーシックメイクアップまでの日常的なメイクアップを中心に実習を行う。 道具の使用方法、化粧品の種類や使用方法などメイクアップを学ぶための基本からはじめ、 メイクアップの基本技術を毎回1項目ずつ学び、フルメイクアップができるまで育成する。 フルメイクアップをマスターした後は、高齢者へのメイクアップ、フォーマルメイクアップ の基礎、着物に合わせたメイクアップ等を学び、美容の現場で必要とされるメイクアップ技 術と知識を持った技術者を育成する。					
授業の目標	メイクアップの基礎知識(道具名称、日常メイク、アンチエイジングメイク、フォーマルメ イクの手順)を理解し、練習の繰り返しにより技術を身につけ実践できるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	入学時に配布されるタブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、及び課題制作に必要な時間数は合計で約30時間である。					
	教科書	教員作成資料				
	教材	タオル、ティッシュ、コットン、綿棒				
教科書・教材	使用設備・備品	用設備・備品なし				
	参考文献	参考文献なし				
評価方法	実技試験25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%					
	なお、出席数が不	足の場合は評価対象	象とはしません。 			
	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし				

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	メイクアップする意味を学 ぶ。	なぜ化粧をするのかを理解する。	講義内容を自宅で復習。				
第2回	メイクアップの歴史を学ぶ。	日本の化粧の歴史を理解する。	講義内容を自宅で復習。タブレット 内でのクラスルーム参加作業				
第3回	スキンケアの意味を学ぶ。	スキンケアの重要性と肌の美 しさを理解する。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。				
第4回	スキンケア化粧品の使い方を 学ぶ。	何種類ものスキンケア化粧品 を使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。				
第5回	ベースメイクアップ化粧品の 種類を学ぶ。	ベースメイクアップの重要性 と化粧品の種類を理解する。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。				
第6回	コントロールカラー、コンシ ーラーを学ぶ。	コントロールカラーとコンシ ーラーを使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。				
第7回	ファンデーションを学ぶ。	ファンデーションの種類を理解する。リキッドファンデーションを使いこなせる。	による予省。終了後講義内容を目宅 で復習。実習内容を自宅で反復練 習。				
第8回	フェイスパウダーを学ぶ。	フェイスパウダーとそれを使 用するための道具を使いこな せる。	「「ちも空 数(後護表内炎を日で				
第9回	ハイライト、ローライトを学 ぶ。	人種による顔の立体感の違い を理解できる。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。				
第10回	フェイスプロポーションを学 ぶ。	できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。顔写真で自身の特徴を分析し課題として提出。				
第11回	アイシャドウを学ぶ。	アイメイクアップの意味を理解し、アイシャドウが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。				
第12回	アイライン、マスカラを学 ぶ。	アイライン、ビューラー、マス カラが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。				
第13回	アイブロウを描く意味を学 ぶ。	アイブロウによって顔の印象 が変化することが理解できる。	による予省。終了後講義内容を目宅で復習。				
第14回	アイブロウの描き方を学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。実習内容を自宅で反復練 習。				
第15回	リップメイクを学ぶ。	リップメイクの道具種類を理解し、描くことができる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。				

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	チークメイクアップを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。実習内容を自宅で反復練 習。
第17回	メイクアップのバランスを学 ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。実習内容を自宅で反復練 習。
第18回	カラーハーモニーを学ぶ。	色の調和がとれたメイクアッ プを表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第19回	パーティシーンのベースメイ クアップを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。実習内容を自宅で反復練 習。
第20回	パーティシーンのポイントメ イクアップを学ぶ。	パール、ラメ、つけまつげ、リ ップグロスが使いこなせる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第21回	着物全般に合わせたメイクア ップを学ぶ。	洋装と和装のメイクアップの 違いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。
第22回	留袖のメイクアップを学ぶ。	留袖に合わせたメイクアップ が表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第23回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の変化が理解す る。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。
第24回	アンチエイジングメイク <i>を</i> 学 ぶ。	が表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第25回	コンセプトメイクアップの意 味を学ぶ。	コンセプトに合わせてメイク アップする意味を理解する。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。
第26回	コンセプトメイクアップの表 現を学ぶ。	コンセプトに合わせたメイク アップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。
第27回	アーティスティックなメイク アップを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。
第28回	模写メイクアップを学ぶ。	アーティスティックなメイク アップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。授業内で撮影した写真を課 題として提出。
第29回	トータルメイクアップを学 ぶ。	テーマに合わせたメイクアッ プが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。実習内容を自宅で反復練 習。
第30回	基礎メイクアップ全般の意味 を学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。実習内容を自宅で反復練習。

	_				天石 / / / ママス	
科目名	基礎ネイル技術		教員名	加藤 宏美 他		
Subject	Basic Nail Techn	iques		加深 丛头 悒		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	2	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術を習得するために必要な技術理論と技能を 習得する。ネイルに関する検定の取得も視野に入れる。関連科目としてネイルアートやカラ ーリングにおいては色彩学、メイクアップ I の学習、またネイルケアに関する基礎知識とし て美容技術理論、ハンドマッサージ製品の成分において香粧品科学の学習が必要である。					
授業の目標	ハンド&ネイルケアの実践をとおして爪に関する美学を研究し、老若男女問わず健康で美しい爪を維持するための正しい知識と技術を身につける。ネイルケアとカラーリングの基礎的な技術を適正な手順で、他者に施術できるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。予習としてテキストの内容を確認する。ネイルケア技術においては 1 回につき 60 分~90 分程度の復習を行なうことが望ましい。					
	教科書	JNA テクニカルシス	ステム BASIC 発行	· NPO 法人日本ネイ	イリスト協会	
*/L T () ==	教材	配付教材は別紙参	照 *授業初回で西	配付します		
教科書・教材 ・ ・ ・	使用設備・備品	品 美容実習室 水道				
	参考文献	ネイル・プロッフ	ェッショナル 第 4	4版 発行 株) イ	゚ンターメディカル	
評価方法	授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40%					
	なお、出席数が不	足の場合は評価対象	象とはしません。			
履修上の注意	授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て 除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	ネイリスト技能	検定試験3級			
•	1	<u> </u>				

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング ネイルの歴史	道具、器具の役割を理解する	復習として、扱う器具の役割と特徴 を覚える (60 分程度)				
第2回	手指消毒 ネイル技術体系 検定受験について	衛生的に道具器具を取り扱え るようになる。					
第3回	カウンセリング ポリッシュリムーブ 爪の構造と働き	テーブルセッティング〜消毒 〜ポリッシュリムーブまでを 習得する。	復習として爪の構造と働きを覚える (60分程度)				
第4回	ファイリング ネイルのための皮膚科学	ファイルの持ち方、動かし方 爪の形状の種類を理解する。					
第5回	ファイリング復習 ネイルのための生理解剖学		復習として爪の形状を覚え、モデル でファイリングを実践する (60 分程 度)				
第6回	クリーンナップ ネイルのための生理解剖学	道具の正しい動作を理解する					
第7回	クリーンナップ復習 爪の病気とトラブル	キューティクル周りの処理が スムーズに行えるようになる。	復習として消毒からファイリング までの技術をモデルで実践する。 (60分~)				
第8回	ニッパーの使い方 消毒法	ニッパーの持ち方、 動かし方を習得する。					
第9回	ネイルケアの手順の確認	これまでの実習内容を理解し 手順に従って行えるようにな る。	復習としてニッパーの扱い方を覚え、モデルで実践する(120分~)				
第10回	ネイルケアの手順の復習	器具を衛生的に扱うことがで きる					
第11回	テーブルセッティング(10 分)ネイルケア(30分)	時間内に作業を終えることを 目標とする	復習としてネイルケアの一連の流れを習得し時間を意識して反復練習を行う。(60分~)				
第12回	テーブルセッティング(10 分)ネイルケア(30分)	時間内に作業を確実に終える ことができるようになる					
第13回	実技チェック テーブルセッティング~ネイ ルケアまで	道具、器具を正確に扱える 時間内に作業を終えることが できるようになる。	復習として時間に確実に収まるように反復練習を行う(60分~)				
第14回	実技チェック テーブルセッティング~ネイ ルケアまで	正確な手順で施術することが できるようになる。					
第15回	ハンドマッサージ ハンドマッサージ理論		復習としてハンドマッサージの手順を習得する (30分~)				

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第16回	ハンドマッサージ	マッサージの手順の習得	ボランティアなどで活用できるように反復練習を行なう〈60分程度〉			
第17回	カラーリング 化粧品学	ポリッシュの持ち方、塗り方を 理解する				
第18回	カラーリング 色彩理論	カラーリングから修正まで行 うことができる	カラーリングをモデルに実践する (60 分程度)			
第19回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用してネ イルチップにアートを描ける ようになる	課題:次回の授業までにネイルアー トの図案を考える			
第20回	ネイルアート	アクリル絵の具を使用して人 の爪にアートを描けるように なる				
第21回	消毒~ネイルケア~カラーリ ングまで 60 分。 アートのテ ーマは「フラワー」とする。	JNEC3級野内容を把握することができる	消毒〜カラーリングまでの技術を 時間を意識しながら、反復練習を行 う。(60〜90 分程度)			
第22回	消毒~ネイルケア~カラーリ ングまで 60 分。アートはネイ ルチップを使用する。	JNE3 級に相当する技術を行な うことができる				
第23回	消毒~ネイルケア~カラーリ ングまで 55 分 アートは相モ デルで実践する。	時間内に作業を終えることが できるようになる。	消毒〜カラーリングまでの技術を 時間内に収めるように、反復練習を 行う。(60〜90 分程度)			
第24回	消毒~ネイルケア~カラーリングまで 55分。 アートは相モデルで実践し、15分で仕上げる。	確実に作業を時間内に収める ことができるようになる				
第25回	消毒~ネイルケア~カラーリングまで 50 分。アートは相モデルで実践し、15 分以内で仕上げる。	テーブルセッティング、衛生 面、技術面においての全てを習 得している				
第26回	消毒~ネイルケア~カラーリ ング~アートまで(70分)	テーブルセッティング、衛生 面、技術面においての全てを習 得している				
第27回	チップラップ① 自分の爪に装着する	手順を習得し、道具を正しく扱 える	復習として材料の役割、扱い方を覚える。(30分~)			
第28回	チップラップ② 相モデルで装着する	爪表面、先端を滑らかに整える				
第29回	まとめ 消毒~カラーリングまで	衛生面において不備が無く、正 しく扱える	ネイルの基礎知識を含め技術がスムーズに行えるように反復練習を 行なう(70分~)			
第30回	まとめ 消毒〜カラーリングまで	爪の長さ、形が揃えられ、全て の作業がスムーズに行える				

					大石ノナコマサス	
科目名	アクセサリーデザ	イン	教員名	樫原 恵子		
Subject	Accessories Desi	gn	7A PC 'U	171/1 IS 1		
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	Δ	Δ	
科目の概要	授業は装身具の歴史や知識についての講義と、実際にアクセサリーを制作する実習の組み合わせで構成します。知識と技術の両面に触れることで、アクセサリーのもつ意味を考えてほしいと思います。 装身具は、身分を示す、お守りにするなど、単なる飾りにとどまらない「意味」を持たされることが少なくありません。このような、人々の美意識や宗教観を取り込んだ装身具がもつ意味について考えます。 さらには、本科目を通して、アクセサリーのデザインの枠を越えた「もの作りをする人」の姿勢や考え方を身につけて欲しいと思います。					
授業の目標	学生が制作を通して、もの作りの喜びを知る。 学生が、装身具の持つ意義を理解する。 アクセサリーの制作行程を理解する。 学生自身が、立体造形についての考え方を理解し、創作することができる。 素材を活かして表現することができる。					
時間外学習 (予習・復習)	雑誌等のアクセサリー関連記事を意識して確認しておくこと。 課題に遅れが生じている場合は次の授業までに進めておくこと。 各課題の前にシラバスの内容を確認し、制作するデザイン(配色等)を考えておくこと。 予習復習は、毎回60分程度を想定するが、時間にとらわれ過ぎず、課題の遅れに対する対応や、デザインの構成などをしっかり行うこと。					
	教科書	教員作成資料				
#L T J === - 1/1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	教材	適宜用意します				
教科書・教材	使用設備・備品	工具、薬品類は適宜用意します				
	参考文献	参考文献 雑誌等のアクセサリー関連記事は意識して見ておくこと				
評価方法	受講態度基礎点を最重要視して評価します。これに、課題に取り組む姿勢と熱意、作品の 成度と提出状況を加点することで評価とします。配点は受講態度基礎点を 60%、その他を 40 とします。					
	なお、出席数が不	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	全ての課題は早く終われば良いというものではありません。丁寧な作業を望みます。 材料費は別途徴収(一人 5000 円。作品重量により追徴があります)。 実習では刃物や電動工具、薬品等を使用するため、ケガには注意すること。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師免許				
·						

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回	オリエンテーション ガイダンス 装身具の歴史 課題内容説明	学生自身が装身具について考 え、知識を得る	2回目に授業料徴収します				
第2回	ラップブレスレット制作 入門編	ビーズと革紐を使用したブレ スレットの制作を習得する	予習として第3回のデザイン配色を 決めておく				
第3回	オリジナルラップブレスデザ イン提出(最終課題用)	コンセプトに合わせた配色を 考え、イメージを形にすること 工夫する	第2回と3回は同時進行で進みます				
第4回	シルバーリング制作①	ガスバーナーを使用し金属加 エの基礎を学ぶ	リングに刻む文字を決定しておく こと				
第5回	シルバーリング制作②	制作に必要なリングのサイズ や計算方法を学び 習得する	制作するリングのサイズを決定し ておくこと				
第6回	シルバーリング制作③	シルバーの研磨方法を学び 習得する	予習として制作するデザインを決 定しておくこと				
第7回	WAX によるチャーム制作	実制作を通して、アクセサリー の意味や、ものつくりの喜びに ついて考えるきっかけを作る	予習としてレジンアクセサリーの デザインを調べておくこと				
第8回	樹脂アクセサリー講習①	UV レジンの取り扱いの習得	予習としてオリジナルレジンアクセサリーの(第9回分) デザインを決定しておくこと				
第9回	樹脂アクセサリー制作②	UV レジンによるアクセサリー 制作の工程を学ぶ	シルバーアクセを観察し、チャーム の仕上げ方法を決定しておくこと				
第10回	WAX チャーム研磨仕上げ	鋳造の工程を知り、シルバーの 研磨方法を学ぶ	予習としてオリジナルレジンアクセサリーの (第 11 回分) デザインを決定しておくこと				
第11回	樹脂アクセサリー制作③	UV レジンによるアクセサリー 制作の工程を学ぶ	オリジナルブレスの材料を教材から調達し、次回授業の準備をしてお くこと				
第12回	オリジナルラップブレスレット(3連)制作①	自らデザインしたブレスレッ トを制作、技術の習得	全3回のオリジナルブレスレット制作の進みを個人で判断し、進めておくこと				
第13回	オリジナルラップブレスレッ ト(3連)制作②	自らデザインしたブレスレッ トを制作、技術の習得	次回授業で作業が終了するように ブレス制作を進めておくこと				
第14回	オリジナルラップブレスレット(3連)制作③	樹脂パーツと WAX チャームを 取り付けオリジナルブレスを 完成。取り付け方法を学ぶ	授業まとめレポートの内容をまと めておくこと				
第15回	授業の総まとめ	構想から製作までの一連の流 れを学ぶ	授業まとめレポートの提出				

	<u> </u>				1	
科目名	フォトシューティ	ング	教員名	西 将隆 浦川	良将	
Subject	Photo Shooting					
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	Δ	0	0	Δ	
科目の概要	一眼レフカメラを使用し、ビューティ、ファッション、ポートレイト等の撮影を行い、 作品を作成します。屋外での撮影や、スタジオでの撮影方法を学びます。					
授業の目標	個人での撮影、チ	一眼レフカメラの操作、ライティングの技術を身につける。ヘアメイクのスキルを生かし、個人での撮影、チームでの撮影を経験し、作品を作りポートフォリオを制作します。ポートフォリオは、A4 サイズのプリントを制作します。就職活動にも、役に立てて下さい。				
時間外学習 (予習・復習)	各授業ごとに、復習の内容を説明します。					
	教科書	オリジナルプリン	 ノトを配布			
	教材	プリント、資料を授業事に用意します。				
教科書・教材	使用設備・備品	一眼レフカメラ、	撮影照明機材、プロ	コジェクター、写真	真室スタジオ	
	参考文献	図書館にある本全	世 。			
評価方法	個人課題 50% グループ課題 25% 授業参加意欲 25% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
	なめ、田席剱か个	ルの場合は評価対	水とはしません。 			
履修上の注意	SD カード (16G 以上を推奨) を各自持参して下さい。(第1回目の授業で説明します。)					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
	1	<u> </u>				

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション 講師自己紹介、授業内容紹介	授業、評価の内容を把握する。	授業で必要になるものの 説明 SD カード			
第2回	カメラの仕組み 絞りとシャッタースピード ピントを合わせる練習	絞りとシャッタースピードを 理解する。ピントを合わせられ るようになる。	カメラ操作の復習。プリント参照。			
第3回	カメラの操作① 絞りを変えて撮る	絞りを変えることで写真がど う変化するか理解する。	カメラ操作の復習。プリント参照。			
第4回	カメラの操作② シャッタースピードを変えて 撮る。	シャッタースピードを変えて 写真がどう変化するか理解す る。	カメラ操作の復習。プリント参照。			
第5回	カメラの操作③ M モード・マニュアル撮影	絞り、シャッターの組み合わせ で マニュアル撮影が出来る。	カメラ操作の復習。プリント参照。 バストアップ写真を予習。			
第6回	バストアップの撮影	ヘアメイクをして、自然光をい かした作品をつくる。	課題①			
第7回	課題①の作品提出と総評	他の人の写真を見て勉強する。	ライティングを予習。			
第8回	ライティング実習① アイランプ基礎編	アイランプで効果的なライティングを考え撮影する。	ライティングを復習。			
第9回	ライティング実習② アイランプ応用編	逆光やバウンス光を利用した ライティングを考える。	ライティングを復習。			
第10回	イティング実習③ ストロボ 基礎編	ストロボの特性を理解する。	ライティングを復習。			
第11回	ライティング実習④ ストロボ応用編		作品撮りのアイデア調査、チームの 編成。			
第12回	作品撮り企画会議	グループに分かれテーマを企 画する。	モデル、撮影イメージを決める。必 要なものを確認。			
第13回	修了制作 作品撮り	チームー丸となり、1 枚の写真 作品を作る。	課題③			
第14回	修了制作 作品撮り	チームー丸となり、1枚の写真 作品を作る。	課題③			
第15回	修了制作 作品撮り	作品撮りプリントアウト ポートフォリオ完成。				

科目名	服飾デザイン		# - 5	ᆂᄦ	いれる場合	
Subject	Apparel Design		教員名	大野 淑子 渡	辺 聰子	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	Δ	Δ	
	服飾デザインでは美齢学の一つ、装うことの大切さを実習を通して学ぶ授業です。美容のトータルなおしゃれとしてファッションは欠かせないものです。服飾という大きなくくりの中でデザインと必要性を学んでいきましょう。 一人一人が自分の生活の中に服飾デザインを見出し、作り出す喜びを学んでいただきたいと思います。					
授業の目標	[知識] 授業の中で取り扱う布の知識、どんな種類があるか、どんな布が服飾に適しているかを知ってほしい。 [技能] 服飾を構成するためには手縫い(接着剤を用いる場合もある)ミシンの操作を学ぶ。 また、服飾を構成するための型紙(パターン)を理解してほしい。 [態度] 未経験の内容が多いだけに説明をよく聞き、わからないことは質問する。まわりの 人たちとの協調も必要。					
時間外字省 (多習・復習)	実習に必要なスカート、パンツのための布地は各自購入するので必ず予定を組んで必要な用 尺、糸などを購入する。また、デザインを決めるときは前もって各自雑誌等を見たり、授業 の中で提示されたデザインの中から決めてくる。					
	教科書	特に必要としない				
	教材	プリントを配布す	る。			
教科書・教材	使用設備・備品	備・備品 家政実習室での作業になるので、ミシン、アイロン、洋裁用具等				
	参考文献	デザインを考える	ときの雑誌など			
評価方法	作品の完成度で評価するが、授業中の態度、授業の習熟度を加味する。					
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
履修上の注意	演習の授業であり人数制限があります。ークラス 20 人までとする。各自製作するスカート、パンツの布地は各自購入する。授業の前半での説明が多いので遅刻は厳禁。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	授業内容の説明・授業で使用 する用具その他の説明	美齢学を基本とし、自分たちが 身に着ける衣服・服飾に関心を 持ち如何に美しく構成するか を学ぶ	日常的に自分の身に着けている衣			
第2回	衣服の構成を学ぶ		太服の成り立ち、素材等に関心を持 ち、生活の中での服飾を学ぶ			
第3回	手縫い、ミシン縫い(直線縫 い、ロックミシン)の使い方	衣服の構成に必要なミシン縫い、手縫いなどそれぞれに応じた手法を学ぶ。	自分の身に着けている衣服のボタン 付け、繕いなどができるようにする。			
第4回	ミニクッションカバーの作成	と。アイロンの手法を学ぶ。	 生活の中でアイロンのかけ方を習得 する。 			
第5回	トートバック(エコバック) の作成。	直線縫いの応用としてトート バックの縫製をする。布と糸と の関係を学ぶ	市販のトートバックなど袋物の縫製を観察する。デザインによって見え 方がどう変わるのかもチェックした い。			
第6回	前回の続き	バックに付ける持ち手の種類、 縫製等注意深く行う。 地厚なも のはミシン縫製が困難になる ことを学ぶ。				
第7回	スカートまたはパンツの作 成。デザインを考える。		市販の服飾デザインに関心を持ちショッピング、雑誌等で人が身に着けるものとして学ぶ。			
第8回	スカート、パンツの構成を考 える。パターンとはどういう ものかを学ぶ。		パターン作成にはどんな方法がある か調べてみよう。			
第9回	前回の続き。自分のスカート またはパンツのパターンを作 成する。	縫い代をつけたパターンを作 る。	市販のパターン、雑誌に付録として ついているパターンなど、洋服のパ ターンについて調べてみよう。			
第10回	布について。スカート、パン ツに合った素材を学ぶ。	デザインによって適している 素材を学ぶ。	ショッピングする際、デザインによってどんな布が使われているか調べ てみよう。			
第11回	スカート、パンツの裁断、し るし付け。	縫い代をつけ裁断しチャコペ 一パーを用いて印付けを行う。	布によって印のつけ方はいろいろある。また、個人の衣服の裁断と既製服の裁断との違いも調べてみよう。			
第12回	縫製 1	脇縫いなどの縫製	返し縫いなど手法を学ぶ			
第13回	縫製 2	裾上げ	普段から裾上げなど自分でできるよ うに心がける。			
第14回	縫製 3	ウエストゴムの始末	ゴム通しは簡単なようだがなかなか うまくいかない、幅の広いもの、狭 いものそれぞれについて学ぶ。			
第15回	完成、試着、評価	服飾は身に付けてはじめてそ の美を感じるものである。美齢 学を基本に置いて試着、評価を 見る	授業を受けてからは今まで以上に社 部にわたり服飾に関心をもって生活			

科目名	特別活動				
Subject	Special Activition	es	教員名	秋田 留美	
開講年次	2	開講時期		 単位	1
必修/選択	必修	授業形態	演習	時間	30
<u></u> 主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
工场于自然未	0	0	0	0	0
科目の概要	本学が学生にとって意義や必要性があると判断した、特別講師による講演や授業の他、ボランティア活動について随時開講する。学内行事についても特別活動の一環である。 行事に参加することによって、大学生としてのマナーや協調性、自主性などを身につける。 資格取得のための実力を向上させる。				
授業の目標	平常の授業とは異なる講座等によって、見識を広める 教育目標でもある、自ら考え、行動できるようになる。振り返る力を養う。				
時間外学習 (予習・復習)	授業の性質上、時 ティア等時間外学	間内学習と時間外学習と感じる部分も6			· ·
	教科書				
	教材				
教科書・教材	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	受講態度で評価する。課題やレポート提出。 内容により、レポートや提出物がある。全ての内容を勘案して評価する。				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	授業の実施については、掲示板を確認すること。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画						
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考				
第1回							
第2回							
第3回	※学校行事について ①すべて出席をもって評価対 象とする。	ホスピタリティ及びコミュニ ケーションカ等の社会人基礎 カを養う。					
第4回							
第5回							
第6回	※特別講師による講演、授業 について ①すべて出席をもって評価対象とする。	普段の授業では得られない知 識経験を得て、社会人基礎力を					
第7回	②課題・レポート等課された 場合 提出物も評価対象とする。						
第8回	※ボランティア活動について ①原則八王子市から提供され ている活動に参加すること。						
第9回	(地方出身学生については地元での活動を認める場合もある) ②必ず年1回以上参加するこ						
第10回	と。 ③参加に関しては各個人で申 請すること。ただし、通常授 業を避け、時間割で空いてい	ホスピタリティ及びコミュニ ケーションカ等の社会人基礎 カを養う。					
第11回	る時間帯にするか、夏季、冬季、春季休業期間中、土日祝祭日を利用すること。 ④活動終了後は、ボランティ						
第12回	ア活動報告書にサイン等をも らってゼミ担当へ提出すること。						
第13回	国家試験対策① 習熟度別にクラス分けをし、 筆記試験課目内容の確認と理 解をする	練習問題を解きながら理解を 深め、知識を増やす					
第14回	国家試験対策② 実技試験における技術と衛生 の理解と実践を徹底的に行う	技術面、衛生面ともに国家試験 合格レベルへ到達する					
第15回	国家試験対策③ 筆記試験課目における知識を 定着させるため、内容理解を 徹底して行う	筆記試験の全課目が合格レベ ルに到達する					

科目名							
Subject	Gerontology (US	C)		教	員名	五十	·嵐 靖博
開講年次	1	開講時期	Ĭ.	五年	単位		4
必修/選択	必修	授業形態	i	構義	時間		60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表	現力	主体的行動	カ	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
工艺工艺	0	0		0	Δ		0
科目の概要	超高齢化社会を豊かに生きるために、個人レベルの加齢の問題だけでなく、社会構造の変化 や諸問題まで幅広く学ぶ。その知見を美容の諸領域と結びつけ、美齢学へと発展させる基礎 を築く。南カルフォルニア大学ジェロントロジー学部による e-learning を用いた遠隔授業 である。						
授業の目標	高齢者に限らず、あらゆる年齢層の人を加齢と美容の視点から理解する。美容を通して超高齢化社会において個人と公共の発展と福祉の向上に貢献する意識をもつ。美容とジェロントロジーを融合して美齢学の基礎を習得し、職業生活に活かしうる知識を習得するとともにあらゆる年齢層の人をより深く理解する。						
時間外学習 (予習・復習)		プログラムを視聴 は60分程度を想?					
	教科書	特に指定しない.					
	教材	USC ジェロントロ	ジー・フ	゚゚ログラム			
教科書・教材	使用設備・備品	きる環境が必要で	ある 。				ットにアクセスで
	山野正義著『生き方の革命:ますます輝く人生を』IN 通信社 参考文献 R. C. アッチェリー・A. S. バルシェ著『ジェロントロジー:加齢の価値と社 会の力学』きんざい						
評価方法	全てのレッスンを受講し Q&A に正答する必要がある. 評価方法						
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。						
履修上の注意	自発的に受講する姿勢が必要である。繰り返しビデオプログラムを視聴し、深く学んでほし い。						
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし					

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ジェロントロジーとは何か	ジェロントロジーとは何か説 明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること.
第2回	エージングに関する固定概念		講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第3回	ライフコースの展望	ライフコースの観段階につい て説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第4回	介護と社会支援	介護と社会支援の必要性と現在, 直面している諸問題を説明できる	講義内容を十分に理解するまで,繰 り返し視聴すること
第5回	エージングの社会学的理論	加齢を説明する主な社会学理 論を自分の言葉で要約できる	講義内容を十分に理解するまで, 繰 り返し視聴すること
第6回	エージングにともなうパーソ ナリティーの変化	加齢とともにパーソナリティ がどう変わるか説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第7回	高齢者の人口動態	日本と世界の高齢者の人口動 態の特徴を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第8回	加齢の生物学的理論	生物学が加齢をそのように説 明するか、概略を説明できる	講義内容を十分に理解するまで, 繰 り返し視聴すること
第9回	記憶と認知能力	加齢にともなう記憶と認知能 力の変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第10回	視覚と聴覚	加齢にともなう視覚と聴覚の 変化と留意点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第11回	加齢による変化と病気の違い を理解する	加齢による変化と病気の違い を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第12回	加齢による高齢者の心身の機 能的変化と効果的な支援	加齢による高齢者の心身の機 能的変化を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第13回	加齢にともなう慢性疾患	加齢にともなう主な慢性疾患 を説明できる	講義内容を十分に理解するまで、繰 り返し視聴すること
第14回	高齢者の抑うつ	高齢者の抑うつの特徴と留意 点を説明できる	講義内容を十分に理解するまで, 繰 り返し視聴すること
第15回	死と死にゆく過程	死にゆく過程を説明できる	講義内容を十分に理解するまで,繰 り返し視聴すること

科目名	インターンシップ		教員名	鈴木 ひろ子		
Subject	Internship			四小 いつナ		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
工艺工品加木	0	0	0	0	0	
科目の概要	インターンシップの意味や目的、社会常識やコミュニケーションスキルについて 事前準備を行い、実践に臨みます。 一定期間、企業等で仕事を体験することにより、社会人として働くとはどういうことか、社 会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。					
授業の目標	就業体験を通して そして、社会人と	一定期間、企業等で就業体験を行う。 就業体験を通して、業種・職種・企業を理解する。また、自分の適性や将来について考える。 そして、社会人として必要な知識・能力・コミュニケーション力を知り、養う。 インターンシップ先の幅広い年代層の顧客に対応する力を養う。				
時間外学習 (予習・復習)	事前訪問・インターンシップ(現場体験)及び期間中の日々の記録・まとめ					
	教科書	プリント				
#11 - 	教材	プリント				
教科書・教材	使用設備・備品	PC他(報告会対	象 者)			
	参考文献	長谷川文代編著「	インターンシップ	リテラシー」西文社	±	
評価方法	授業や研修への取組み姿勢等とインターンシップ先の評価をもとにします。事前教育 10%、日誌 20%、レポート 20%、インターンシップ先の評価 30%、報告会等での発表 2					
	なお、出席数が不	足の場合は評価対象	 象とはしません。			
履修上の注意	インターンシップは企業別に希望者を募り、選抜面接を行います。 合同ゼミで成果発表をしてもらう場合があります。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
	ı	J				

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育 1	インターンシップを理解する	参考文献を読み授業の目的を把握 する
第2回	事前教育 2	社会人常識を学ぶ	配布資料を読みインターンシップ 先で困らないための準備を行う
第3回	事前教育3	社会人常識を学ぶ	企業研究を行いインターンシップ 先で困らないための準備を行う
第4回	事前訪問	事前に企業研究を行い、 インターンシップ先について 理解する。	企業研究を行いインターンシップ 先で困らないための準備を行う
第5回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第6回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第7回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第8回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第9回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	
第10回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第11回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第12回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 状況に応じて担当教員に報告
第13回	インターンシップ	毎日目標を持って日々の業務 に取り組み、仕事の理解を深め る	日誌を書いてふりかえる 担当教員に報告
第14回	御礼状を書き、インターンシップのまとめを行う	経験したことを再度確認・精査 し、今後の学習に活かすことが 出来る部分を知る。	学習の成果の確認 担当教員に報告
第15回	インターンシップの成果につ いて報告する	自分の経験を発表することで プレゼンテーション等の知識、 技術を学ぶ。	パワーポイント資料を作成し学習 の成果の確認

科目名	海外インターンシ	ップ				
Subject	Overseas Interns	hip	教員名	大野 淑子		
開講年次	1	開講時期	 後期	 単位	1	
	選択		演習	時間	30	
<u></u> 主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・コミュニケーションカ	
工な子自刈木	0	0	0	0	0	
科目の概要	インターンシップの意味や目的、社会常識や英語も含めたコミュニケーションスキルについて事前準備を行い、実践に臨みます。一定期間、海外の企業やサロンで仕事を体験することにより、海外で働くとはどういうことか、また社会人として必要な心構えや、知識、技術はどのようなものか、について学びます。行先により時期が異なりますが、7月初旬までに決定し7~8月に説明会及び事前学習を行います。インターンシップは8月末~9月末までの間で1週間程度の実施となります。					
授業の目標	識や技術が何か理 を持って取り組み	海外の企業やサロン等での現場体験を通して社会を知り、グローバルに働くために必要な知識や技術が何か理解できるようになります。日本で経験できない環境の中でチャレンジ精神を持って取り組み、英語を含めたコミュニケーション能力やホスピタリティなど社会人基礎力を身につけ、進路選択のきっかけとします。				
時間外学習 (予習・復習)	企業研究、英語コ シップ期間は業務	ミュニケーション: 内容や学んだこと?				
	教科書	教員作成資料				
	 教材	教員作成資料・レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材				
教科書・教材	使用設備・備品	ipad•PC他				
	参考文献	「インターンシッ	プリテラシー」長	谷川文代 西文社 2	010	
評価方法	事前教育課題 20%、日誌 40%、レポート 20%、報告会等での発表 20%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	取り組み姿勢、健康状態によっては希望に添えない場合もあります。また海外事情により実施の変更や中止の可能性があります。渡航の注意をよく読んで参加すること。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	特になし				

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	事前教育1 インターンシップを理解する	インターンシップの意味や目 的を理解する	インターンシップ先について事前 に調べ、授業で共有したことをまと める
第2回	事前教育 2 海外渡航につい て学ぶ	_	海外渡航についての資料を読み、事 前に必要な情報や物を手配する
第3回	事前教育3 英語コミュニケーションを学ぶ	海外で英語でのコミュニケー ションができる	英語教材による課題をこなし、授業 で学んだコミュニケーションを繰 り返し練習する
第4回	事前教育4 レゴ®シリアスプレイ®メソッドと専用教材により目標を明確にする	目標に向かってモチベーショ ンをもって臨むことができる	目標をまとめた上で授業に望み、授 業後に改めて整理する
第5回	インターンシップ	目標を持って業務に取組みグ ローバルな仕事を理解できる	スケジュールを把握し、事前に確認 の上必要な情報をまとめる。 日誌をまとめる
第6回	インターンシップ	目標を持って業務に取組みグ ローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第7回	インターンシップ	多様な客層に対し美しく齢を 重ねる美齢の視点で関わるこ とができる	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第8回	インターンシップ	口樗を持つ(美松 別知みり	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第9回	インターンシップ	目標を持って業務に取組みグ ローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第10回	インターンシップ	目標を持って業務に取組みグ ローバルな仕事を理解できる	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第11回	インターンシップ	口煙を持つ(主观 似知みり	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第12回	インターンシップ		業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第13回	インターンシップ	日程を持って美秘に収組みり	業務内容や学んだことを整理し理 解を深める。 日誌をまとめる。
第14回	インターンシップのまとめ	経験したことを整理しその後 の学習に活かすことができる	経験したことをレポートにまとめ る
第15回	成果報告	お互いの学びを共有し今後の 学習に活かすことができる	自分の体験をプレゼンテーション できるよう準備する。友達の発表か ら共感したものを活用する

	1			Ī	大台/ ケイマ 守久	
科目名	美容衛生管理論		教員名	菅野 康則		
Subject	Sanitation admin	istration Theory	教 員有	日 17		
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	Δ	Δ	_	
科目の概要	美容衛生管理論は、これまで学習してきた「人々を疾病から守り、健康の保持・増進をはかる知識と技術」を確実なものにするため、公衆衛生(予防医学と保健)、環境衛生(快適な生活環境条件、環境と健康障害)、感染症(病原微生物、主な感染症、感染症の予防)、衛生管理技術(感染症を予防する重要手段の消毒法)などで構成されている。					
授業の目標	生管理技術)の3分	この科目は、4分野から構成されているが、これを(公衆衛生・環境衛生)、(感染症)、(衛生管理技術)の3分野に整理し、分野ごとに教科書と教材を用いて学生自ら課題に取り組み、質疑応答を通して最新の正しい知識を身に付ける。				
時間外学習 (予習・復習)		回)、(7~11 回)、 欄に記述したテー [・]			∵の都度授業計画の ≅す。	
	教科書	衛生管理(2017)、日本理容美容教	 ෭育センター		
#1 *.1 = 	教材	配布プリント(教科書と国家試験に	に基づくまとめ)		
教科書・教材 ・ ・ ・	使用設備・備品					
	参考文献					
評価方法	試験(80%)、平常点(10%)、レポート(10%)					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	授業中の居眠り、おしゃべり、内職等の行為者には退室を命ずる事がある。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				
		· · ·	· ·			

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	・公衆衛生とは ・公衆衛生の歩み ・公衆衛生と WHO の役割を学 ぶ	公衆衛生は、人々の生命と生活 を守ることを目標にしている ことが理解できる。	・病気にならない生活の仕方を考えてみよう(45分)。・公衆衛生の発展に寄与した人々を調べてみよう(45分)。
第2回	・公衆衛生水準の評価法 ・先進国の疾病構造(生活習 慣 病)と対策を学ぶ	国民の健康水準を明らかにして、我が国の死亡率の半数以上 を占める生活習慣病予防の重要性が理解できる	我が国の死亡原因は、100 年前、50 年前と比較してどのように変化し たかをまとめてみよう(100 分)。
第3回	・母子保健、介護保険、精神 保健、医療保険などの社会保 障制度について学ぶ	社会保障とは国民が相互に支 えあい、国が必要な扶助を行う	寝たきりや認知症にならないで、生涯現役社会を実現するには、日常生活の中でどうすればよいかまとめてみる(100分)
第4回	・栄養と食生活 栄養とその働き、栄養摂取 状況、食生活指針などを学ぶ	国民の栄養は良好だが、食生活 は、生活習慣病との関連が深く	体を構成している成分と食品に含まれている成分の関係についてまとめ、肉食中心の食生活の問題点をまとめる(100分)
第5回	・空気、水、日光と健康につ いて学ぶ	空気、水、日光は自然環境要因であり、人の生命と生活に深い 関連があることが理解できる。	健康は様々な環境要因によって左右される。空気、水、日光が人の健康にどのような影響を与えるかまとめてみる(90分)
第6回	・生活環境衛生 衣と住居と健康 上下水道と廃棄物と健康を 学ぶ	な環境を与える衣服や住居、し	衣服下気候と体温調節について、人間の健康に影響する住居条件や、ごみの中の資源の大切さをまとめてみよう(90分)
第7回	・感染症の原因となる微生物とはどんな生物かを学ぶ	大きさ、形、構造、生活現象、 増殖と環境の影響などが理解 できる。	細菌は細胞構造をとり自ら分裂する。ウイルスは細胞構造をとらないのに子孫を残す仕組みをまとめてみよう(100分)
第8回	・感染症成立のための3大要 因と感染のなりゆきについて 学ぶ	①病原体の存在②病気になり やすい人の存在③病原体を運 搬する動物や物の存在が理解 できる。	感染症は、3大要因の1つを欠くと 成立しないことを調べて理解しよ う (90分)。
第9回	・感染症法で規定している感 染症の種類を学ぶ	応・措置などについて理解でき	この中に発病すると美容業務に従事してはならない感染症名とその特徴をまとめてみよう(100分)。
第10回	・空気、飛まつを介する感染 症を学ぶ	結核、ジフテリア。インフルエンザ(含むトリ、新型)、麻しん、百日咳。風しんについて理解できる。	空気感染と飛まつ感染の違いをま
第11回	・飲食物を介する感染症 ・血液を介する感染症 ・動物、節足動物を介する感 染症を学ぶ	B型肝炎、C型肝炎、エイズ、	病原体が飲食物を介して感染した場合に食中毒と感染症に区分されるが、どう違うのかまとめてみよう(100分)。
第12回	・消毒とは ・消毒の意義(重要さ) ・滅菌と消毒の区別を学ぶ	・感染症の発症には3大要因がある。消毒は、感染源と感染経路に対する防止対策であることが理解できる	主炎关目 T-2 大型
第13回	・美容の分野における消毒を学ぶ	・消毒に関連のある美容師法令 が理解できる。	血液が付着した容器具や疑いのある器具類は特別な方法で消毒する。 血液を介する感染症を調べてまとめてみる(90分)。
第14回	・消毒法各論 理学的消毒法 化学的消毒法を学ぶ	・理学的・化学的消毒法に関する正確な知識が得られる。	理学的消毒法と化学的消毒法にどのようなものがあるか調べてまとめてみよう(100分)。
第15回	・消毒薬の調整を学ぶ		212P(教科書)のエタノール水溶液の調整法を予習・復習する(100分)。

된 다 <i>모</i>	/D /7+ T					
科目名	保健Ⅱ		教員名	柏戸 奈苗		
Subject	Public Health I					
開講年次	2	開講時期	後期 ————	単位	1	
必修/選択 —————	必修	授業形態	講義	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	Δ	Δ	Δ	
科目の概要	身体各部の構造(美容保健 II は身体の構造(解剖学)と機能(生理学)を総合的に学ぶ科目です。 身体各部の構造(つくり)と機能(働き・役割り)を理解し、ヘアケア・ネイル・メイクの 医学的基礎知識を確立してください美容保健 II は美容保健 I (皮膚科学)の基礎となる科目 です。				
授業の目標	的に身体のつくり		美容の施術、お客様	美へのアドバイスに	·理解できる③総合 ·活かすことができ	
時間外学習 (予習・復習)		を配布しますので、 記布しますので、授			こきてください。復 してください。	
	教科書	理容・美容保健				
	教材	毎回、プリントを配布いたします。				
教科書・教材	使用設備・備品					
	参考文献	ぜんぶわかる人体	解剖図(成美堂出版	版)		
評価方法	①予習プリントと復習プリントの提出状況 ②授業への取り組み ③定期試験の結果から総合的に評価致します。					
	なお、出席数か不	足の場合は評価対	豕とはしません。			
履修上の注意	れた場合には退出	程定された席に着席しない場合は、欠席と見なします。授業妨害と見なされる行為が確認された場合には退出して抱くことがあります。授業中の携帯操作は禁止させていただきます携 時のスイッチは切っていただきます。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容師国家試験	筆記試験科目			

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ポリエンテーション 第 1 章 美容保健	身体各部と顔部の名称と役割 を説明できる。	『復習』課題プリント― 1 『予習』予習プリント-1
第2回	第2章 細胞と体液	細胞・組織・器官・系の関係が 理解できる。体液と血液の役割 と特徴を理解し、説明できる	
第3回	第3章 骨格器系	骨格の役割と構造を理解できる。主な骨の名称と特徴を説明 できる	7夏75
第4回	第4章 筋系	筋の役割と分類・それぞれの特徴を理解できる。主な筋の名称と特徴を説明できる	10 22 ====== 1
第5回	第5章 神経系	神経の役割・分類を理解し、説明できる。中枢神経の構造と役割を理解し、説明できる	『復習』課題プリント-5 習』予習プリント-5
第6回	第5章 神経系	2 つの末梢神経の分類を理解 し、説明できる。体性神経と自 律神経を理解し説明できる	
第7回	第6章 感覚器系	身体のセッサーとしての感覚の種類と役割を理解できる。また、 特殊感覚器の構造と役割を理解できる	『復習』課題プリントー7 『予
第8回	第7章 循環器系	循環系の役割と構造を理解し、 説明できる	『復習』課題プリント-8 『予習』予習プリント-8
第9回	第8章 呼吸器系	呼吸器系呼吸の役割と種類、呼吸器系の構造と働きを理解し、 説明できる	『復習』課題プリント―9 『予習』予習プリント―9
第10回	第9章 消化器系	消化器系の構造と役割を理解 し説明できる。また、美容との 関連を説明できる	70 25 = 4 76 / 11 / 15 - 10 17
第11回	第 10 章 泌尿器系	泌尿器の役割と種類を理解し 美しさとの関連を説明できる	
第12回	第 11 章 内分泌系	内分泌系の構成と役割・外分泌 との相違、内分泌の中枢を理解 し、説明できる	70 25 = 2 76 / 1 / - / - / - /
第13回	第 12 章 環境と生体	「ホメオスタシス」の役割を理解する。 免疫の仕組みと役割を説明で きる。	<i>(</i>
第14回	1~12章 重要事項の再確認	系ごとの臓器の役割・並び順を 確実に覚える。	『復習』課題プリント-14 『予習』予習プリント-14
第15回	1~12章 国家試験頻出問題	国家試験頻出問題を 50%正解 できる	『復習』課題プリントー15 (試験対策用)

科目名	香粧品研究		教員名	橋 友理香	
Subject	Study of Cosmeti	cs	教 貝石	橋 友理香	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	講義	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	Δ	Δ
科目の概要	香粧品は、美容技術・美容の業務を行う上で欠くことができないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものである。香粧品を安全かつ効果的に選択するには、香粧品の正確な科学的知識と適正な取り扱い方法を熟知しておく必要がある。 本科目では、香粧品に関する正確な知識と適正な技術を身につけるために、美容において使用される主な香粧品の種類、使用目的、成分、作用原理、使用上の注意を学ぶ。また、香粧品に関わる調査学習とディスカッションを主としたグループワークを実施する。これにより、香粧品に関する知識を深め、課題解決のための思考力・表現力を養う。				
授業の目標	・美容技術、美容の業務を行う上で必要な香粧品の基礎知識と取り扱い方法を熟知し、問いに正しく回答することが出来る。・香粧品に関する課題を発見し解決するために、様々な媒体から信頼できる情報を収集し、自身の考えをまとめて他者と議論することが出来る。				
時間外学習 (予習・復習)	・小テストの問題	配布資料を用いて打 は全問正解できる。 ネットを用いて調3	ようになるまで反復		
	教科書	(書籍名) 香粧品 (著者・発行) 公	·- •	容美容教育センタ-	一、(2018 年)
教科書・教材	教材	ipad にデータ配信	またはプリントを	配布	
7/11 6 7/17	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	定期試験の得点で評価する(100点)。 その他、発表とレポートの課題について、以下の3項目を満たしたものに最大10点を加算する。●課題の背景を述べている●正しく情報収拾ができる●他者の意見等を考慮した上で自身の考えを明確に表現できている。ただし、総合評価の最高点は100点とする。 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	 ipad (充電済) と教科書を必ず持参してください。 クラス全体への連絡は ipad (classroom) に配信します。 担当教員への連絡方法 E-mail: yurika. hashi@yamano. ac. jp 				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	オリエンテーション 香粧品の社会的意義と品質特 性	本科目の概要と学び方を知り 実現できる。香粧品の社会的意 義と品質特性を説明できる。			
第2回	香粧品の規制と取り扱い	香粧品を安全かつ合理的に取 り扱うことができる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第3回	香粧品の原料(1) 水性原料と油性原料、界面活 性剤	水性原料、油性原料、界面活性 剤について説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第4回	香粧品の原料(2) 高分子化合物、色材、香料、 その他の配合成分	高分子化合物、色材、香料、そ の他の配合成分について説明 できる。			
第5回	基礎香粧品(1) 皮膚洗浄用香粧品、化粧水	皮膚洗浄用香粧品、化粧水の種 類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第6回	基礎香粧品(2) クリーム、乳液、その他	クリーム、乳液の種類、機能、 性質を説明できる。	教科書の通読 (15 分) 小テストの復習 (15 分) 調査学習・資料作成 (30 分)		
第7回	前半のまとめと解説	1~6回講義の重要事項を記憶し、問いに正しく解答できる。	配布資料の復習 (30分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第8回	メイクアップ用香粧品	各種メイクアップ用香粧品の 種類、機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第9回	頭皮・毛髪用香粧品(1) 頭皮や毛髪の性状、シャンプ 一剤、スタイリング剤	シャンプ一剤、スタイリング剤 (油状、液状)の種類、機能、 性質を説明できる。			
第10回	頭皮・毛髪用香粧品(2) スタイリング剤、パーマ剤	シャンプー剤、スタイリング剤 (高分子基剤) の種類、機能、 性質を説明できる。			
第11回	頭皮・毛髪用香粧品(3) ヘアカラー、育毛剤	ヘアカラー、育毛剤の種類、機 能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第12回	芳香製品と特殊香粧品	芳香製品と特殊香粧品の種類、 機能、性質を説明できる。	教科書の通読 (15分) 小テストの復習 (15分) 調査学習・資料作成 (30分)		
第13回	香粧品と美齢学を考える	香粧品と美齢学を関連づけて 考えを発表し議論することが できる。	レポート作成 (30 分) 小テストの復習 (60 分)		
第14回	まとめと解説	全講義の重要事項を再度確認 し、具体的に説明できる。	レポート作成 (60分)		
第15回	課題発見・解決に関する演習	香粧品における課題を発見し、 習得した知識を適用して問い に対する回答を導ける。	課題設定と解決の宿題(60分)		

	_		1	T	大石ノナインサス
科目名	美容芸術演習		教員名	富田 知子	
Subject	Art of Beauty Wo	rk	教 具有	田山 刈丁	
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	0	0	Δ
科目の概要	美容には、日常の美容施術とは別に、作者の表現活動としての作品がる。この作品活動は時にして日常に新しい技術を提供することもある。この授業では日常の社会性からは離れ、美容芸術という自身の表現活動を目指す。しかし美容の表現であることが原則とされ、人体を中心においたものとする。人がおかれる環境をコンセプトの枠組みとしえ、作品表現を行う。				
授業の目標	自身が思い描く世界観を、いかに美容技術を超えるあらゆる手段を用いて表現できるかを経験することで、美容表現に新しい気づきをもたらすことを目標とする。				
時間外学習 (予習・復習)	作品制作に関する準備を行い、授業内の作業を計画通り進めるように心がける。				
	教科書	資料を配布			
	教材	ミニウイッグ			
教科書・教材	使用設備・備品	エアブラシ等画材			
	参考文献	図書館の資料			
評価方法	自身の思い描く世界観が表現された作品の提出				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	制作に必要な準備をしっかりと行うこと				
本科目履修と 関連する資格	資格名	特にありません			
	1				

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	授業内容に関するガイダンス	授業の流れを理解るす	自身の表現したい世界感について 考えてくる		
第2回	時代の美意識	時代の美意識を知る	最終目標であるミニウィッグ作品 のイメージソースを取集しておく		
第3回	頭部のバランスの自由度を知 るイラストレーション	パターンアートを使用し、偶然 性を利用しヘアスタイルを構 成する			
第4回	コンセプトコラージュ	イメージソースのコラージュ を行い構想を固める	ヘアスタイルの構想を初める		
第5回	リンクブックの完成	リンクブックにヘアスタイル のデッサインを行う	ヘアスタイルの色を決定しておく		
第6回	デザイン構成と手順計画	制作に必要な美容材料の選定	ヘアアクセサリーを検討する		
第7回	展示用土台の完成	ミニウィッグの作品背景とな る土台の制作	アクセサリーに使用する材料の取 集		
第8回	使用素材の加工	収集した材料の加工	加工を完成させておく		
第9回	毛髪の下準備	ヘアカラー施術	ヘアスタイルに必要な材料を収集		
第10回	毛髪の下準備	毛髪の加工	メイクの下絵を完成させて来る		
第11回	メイクの下準備	ミニウイッグの肌色の加工	ヘアスタイルのパーツを完成さえ せておく		
第12回	髪型を完成させる	髪型を作る	ヘアクセサリーを完成させておく		
第13回	メイクを完成させる	ミニウイッグにメイクをする	展示用土台を完成させる		
第14回	作品を完成させる	ウィッグ完成と土台への設置	プレゼンテーション原稿準備		
第15回	展示とプレゼンテーション	プレゼンテーションを行う	作品の写真をにポートフォリオに 収める		

科目名 カット&カラーⅡ		# = <i>5</i>	A 77 1		
Subject	Haircutting & Ha	ir ColoringII	教員名	ヘアチーム	
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	0	0	0
科目の概要	美容技術プログラム・ピボットポイントシステムにおける、ヘアスカルプチャー・ヘアカラーリングの基礎理論を理解し、テクニックを習得していく。また創造力を刺激し、洗練されたデザインの基盤を作り上げる。				
授業の目標	4つのベーシックフォームへアスタイルを再確認し、2 つ以上を組み合わせた応用へアスタイル・ヘアスカルプチャープロセスを実践し習得する。また、カラーデザインでは、基礎知識と化学作用の知識を再確認し、更に加齢などによって起こる白髪(グレイヘア)の応用理論やテクニック、また高齢者がどのように美容を意識しているかなどの現状把握を行い、より求められるカラーデザインを行うための塗布テクニックを習得する。その理論と技術を駆使して、モデルまたはウイッグにカラーデザインを施すことができる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・毎回の課題についてテキストを熟読しておく。30分 予習・テキスト内の「デザインの決定」(展開図などを記入)を予測記入しておく。20分 復習・テキスト内の評価表を記入し、点数化しておくこと。20分 復習・課題の展開図などの黒板を板書し、次回に向けて内容を見返し理解を行う。30分 ※指定時間は平均的な時間を記載している。人によって時間が掛かる学生もいるだろう。時間にとらわれ過ぎず次回授業までに知識・技術が漏れないようにすることが重要です。				
		HAIR SCULPTURE			
	教材	なし			
教科書・教材 	使用設備・備品	3 1 0 教室・シャ	ンプ一室		
	参考文献	美容技術理論Ⅰ・	『COLOR DESIGN』 F	PIVOT POINT	
評価方法	提出物10%、毎回の作品評価40%、期末試験50%				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻・欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退出等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	ピボットポイント ピボットポイント	・ヘア・スカルプ ・カラーデザイン	チャー	

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第 1 回	レイヤー (1) 基礎理論を再確認し、トレン ド・全体のヘアバランスを学 ぶ	レイヤーヘアスタイルの種類 と全体バランス・展開図を述べ ることができる。	予習:レイヤー理論 (P110~117) の 再熟読。30 分 復習:授業の振り返りを行う・黒板 板書の見直し。30 分
第2回	レイヤー(2) 課題4-W6を実践し、スタ イル評価(A~Z まで)を受け る	レイヤースタイル(縦ライン) を行うことができるようにな る。	予習:課題4-W6 (P115~122)の
第3回	レイヤー(3) 課題4-W7の説明を聞き、 デモンストレーションを見る	レイヤースタイル (斜め前下がり)の展開図と手順を説明できる。	予習:課題4-W7 (P126~130) の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第4回	レイヤー (4) 課題4-W7を実践し、スタ イル評価 (A~Zまで)を受け る	レイヤースタイル (斜め前下が り) を行うことができるように なる。	田梨湯・予測に入り 分(日谷・1巻
第5回	レイヤー(5) 課題4ーW8の説明を聞き、 デモンストレーションを見る	レイヤースタイル(水平ライン)の展開図と手順を説明できる。	予習:課題4-W8 (P134~139) の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第6回	レイヤー(6) 課題4-W8を実践し、スタ イル評価(A~Zまで)を受け る	レイヤースタイル (水平ライン)を行うことができるようになる。	予習:課題4-W8 (P134~139) の 再熟読・予測記入。50分 復習:授 業の振り返りを行う・板書見直し。 30分
第7回		color design 基礎理論(ゾーン・スライシング)を説明することができる。	予習:アルカリカラ―の既染毛塗布 理論を調べまとめる。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第8回	ヘアカラーリング(2) 課題1(ゾーン・スライシン グ)を実践する	ゾーンパターン・スライシング の施術が行えるようになる。	予習: アルカリカラーの塗布テクニックを調べる。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第9回	ブロー (1) 基礎理論を再確認し、デンマ ンブラシ・ロールブラシの施 術を実践する	を使用したブローテクニック	予習:ウイッグでのブロー練習を行っておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第10回	ブロー(2) スケルトンブラシを実践し、 その後、相モデルでのブロー の練習を行う	ブローテクニックを行うこと	予習: 人頭モデルでのブロー練習を しておく。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第11回	セイムレイヤー (1) 基礎理論を再確認し、トレン ド・全体のヘアバランスを学 ぶ	の種類と全体バランス・展開図	予習: セイムレイヤー理論 (P142~147) の再熟読。30分 復習: 授業の振り返りを行う。30分
第12回	セイムレイヤー(2) 課題4-W9を実践し、スタ イル評価(A~Zまで)を受ける	セイムレイヤースタイル (横と 縦ライン) を行うことができる ようになる。	予習:課題4-W9 (P115~122)の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第13回	アドバンス(1) 基礎理論と課題ウイッグの観 察方法を学ぶ	できる。また、展開図・手順図	予習:アドバンス理論(P164~172) の再熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第14回	アドバンス(2) 課題ウイッグと同じになるよ うにカットできるかを学ぶ	美容の逆算思考を実施するこ とができる	予習:展開図の書く練習をしておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第15回	メンズカット(1) 基礎理論とトレンド・全体の ヘアバランスを学ぶ	全体バランス・展開図を説明す	予習: メンズカット理論 (P234〜 240) の熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	メンズカット(2) 課題4-W6を実践し、スタ イル評価(A~Zまで)を受け る	レイヤースタイル(縦ライン) を行うことができるようにな る。	予習:課題4-W6 (P115~122)の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第17回	ヘアカラーリング(3) color design 理論(ゼロテク ニック)を学ぶ		予習:白髪染めカラーリングの社会 思潮を調べまとめる。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第18回	ヘアカラーリング(4) 課題 1 (ゼロテクニック)を 実践する	グレイヘア用のヘアマニキュ ア塗布テクニック(ゼロテクニ ック)を行えるようになる。	予習:ゼロテクニックの手つきを練習しておく。30分 復習:作成したウイッグを考察する。30分
第19回	アドバンス (1) 基礎理論とトレンド・全体の ヘアバランスを学ぶ	種類と全体バランス・展開図を	予習:アドバンス理論 (P110~117) の再熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第20回		アドバンススタイル(ワンレン グス・オン・レイヤー: スライ ドカット・ノッチング) を行え る。	予習:課題3-A1(P186~191)の 熟読。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第21回	サロンの知識・実践(1) シャンプー剤の理論を学ぶ	シャンプー剤の内容成分を説 明することができる。	予習:使用してみたいシャンプー剤 を3つ探しておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第22回	サロンの知識・実践(2) ヘアカラーの予行練習を実際 のモデルで実践する	る際の注意事項を説明するこ	予習:カラーリングの施術方法、手順を把握しておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第23回	サロンの知識・実践(3) シャンプー&ブローを相モデ ルで実践する	一連の流れを行えるようにな	予習:シャンプー手順の再確認と手 つきの練習を行う。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第24回	サロンの知識・実践(4) シャンプー&ブローを相モデ ルで実践する	シャンプーからブローまでの 一連の流れを行えるようにな る。2 回目担当者	予習:シャンプー手順の再確認と手 つきの練習を行う。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第25回	サロンの知識・実践(5) ヘアカラーをモデルに塗布し 時間を置く	ヘアカラーを人頭に塗布でき るようになる。	予習:モデルの髪質やダメージ状態 を確認し資料に記入する。30分復習:授業の振り返りを行う。30分
第26回	サロンの知識・実践(6) カラーの発色を確認し、シャ ンプー&ブローを行う	ヘアカラーの発色状態を確認 することができる。	予習:モデルが希望する髪色をカウンセリングしておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第27回	作品制作(1) hair sculpture 作品制作を行 う	自分で考えた展開図通りに作 品をカットすることができる。	予習:自分で考えた展開図を作成 し、カットの練習を行う。30 分 復 習:授業の振り返りを行う。30 分
第28回	作品制作(2) hair sculpture 作品制作を行 う	作品のブローを行い、セットす ることができるようになる。	予習:各ブローブラシの使用練習を しておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分
第29回	作品制作(3) color design 作品制作を行う	自分で考えた手順通りヘアカ ラーを行えるようになる。	予習: ヘアカラー手順を考え、イメ ージトレーニングをする。30 分復 習:授業の振り返りを行う。30分
第30回	作品制作(4) color design 作品制作を行う	フィニッシュワークを使用し 作品を仕上げることができる。	予習:完成作品をイメージし仕上げ 練習をしておく。30分 復習:授業の振り返りを行う。30分

科目名	美容技術Ⅳ				
Subject	Hairstyling Skil	ls₩	教員名	ヘアチーム	
開講年次	2	開講時期		 単位	3
必修/選択		授業形態	実習		90
2019/ 2011		思考力・判断力			ホスピタリティ・
主な学習効果	知識・技能		表現力	主体的行動力	コミュニケーションカ
科目の概要	◎ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○				
授業の目標	国家試験合格を主眼に置き、3種類の実技課題の技術が合格レベルに達することが出来る。 また、美容用具などの衛生上の取り扱い方法も理解できる。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしながら繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分~90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないよう に定着させておくこと。				
	教科書	『美容技術理論 1.		 枚育センター編	
	 教材	美容用具一式、配	布プリント		
教科書・教材	使用設備・備品	使用設備・備品 美容実習室、プロジェクター			
	参考文献	は なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物(宿題としての技術およびノートまとめ)20%、期末試験 70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション レイヤーカットのスタイル及 び衛生に関する注意点を理解 する		ブロッキングの復習と、配布された プリントを見ながらカット手順を 予習する
第2回	ワインディングを実践する	プを図り、19 分以内に仕上げ	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第3回	全頭を規定の長さにカットす る		規定の長さにカットしたウィッグ を再度確認し、手順の復習をする
第4回	ノーパートオールウェーブ		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第5回	ヘアカッティングを実践する	手順と評価ポイントをしっか りと理解し、覚えることができ る	カット たワイックを黒厚條製
第6回	ワインディングを実践する	に注意し、19 分以内に仕上げ	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第7回	レイヤーカットの評価ポイン トを再確認し、前回より全体 を 2 cm短くカットする	トし、自分でチェックできるよ	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第8回	ノーパートオールウエーブを 実践する	プ・構成に注意し、25 分以内に	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第9回	ヘアカッティングを実践する	50 分で正確にカットができる ようになる	カットしたウィッグを再度チェッ クし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第10回	ワインディングを実践する	に注意し、19 分以内に仕上げ	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第11回	ヘアカッティングを実践する	40 分で正確にカットができる よ う になる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第12回	ノーパートオールウエーブを 実践する	以内に仕上げられるようにな	カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第13回	ヘアカッティングを実践する	40 分で正確にカットができる ようになる	カットしたウィッグを再度チェッ クし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第14回	ワインディングを実践する	に注意し、19 分以内に仕上げ	ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする
第15回	ヘアカッティングを実践する	30 分で正確にカットができる よ う になる	カットしたウィッグを再度チェッ クし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	ノーパートオールウエーブを 実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第17回	ヘアカッティングのレベルチェックを受ける (規定の長さにカット)	30 分で正確に仕上げ、自己のレベルを確認する	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第18回	ワインディングのレベルチェ ックを受ける		レベルチェックの結果を確認し、不 得意部分を重点的に反復練習をす る
第19回	ヘアカッティング (レベルチェックの結果をもと に注意点を理解する)	レベルチェック結果における 不足部分に注意を払いながら、 25 分でカットできるようにな る	カットしたワイックを再度ナェッ カレー出来でいたかった部分の切り
第20回	ノーパートオールウエーブを 実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする
第21回	ヘアカッティングを実践する	25 分以内に正確にカットでき るようになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第22回	決定した第二課題について、 出願可能なレベルであるかの 判定を行う	規定時間内でより正確に仕上 げ、自己のレベルを確認する	
第23回	ヘアカッティングの実践およ び美容用具・衛生上の取り扱 いについての理解をする		カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第24回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	ここで言う設定時間内とは、ワイン ディング 19 分、オールウエーブ 25 分。45 回まで同様
第25回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	25 分で正確にカットできるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第26回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第27回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する		カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第28回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第29回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながらヘアカッティ ングを実践し、チェックを受 ける	20 分で正確にカットできるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第30回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第31回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながらカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェッ クし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第32回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第33回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第34回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第35回	ヘアカッティング 規定の長さにカットをし、評 価ポイントに従ってチェック をする	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第36回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第37回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第38回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第39回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェッ クし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第40回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第41回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第42回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第43回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェックし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する
第44回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する		決定した第二課題を時間内に正確 に仕上げるため、反復練習を行う
第45回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第一 課題であるヘアカッティング を実践する	20 分で正確に仕上げられるよ うになる	カットしたウィッグを再度チェッ クし、出来ていなかった部分の切り 方を確認する

科目名	美容技術Ⅴ		教員名	ヘアチーム	
Subject	Hairstyling Skil	lsV		·// A	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	0	0	0
科目の概要	美容技術IVと並行して、国家試験第二課題であるノーパートオールウェーブセッティングおよびワインディングの技術力をさらに強化し、合格レベルへと押し上げていく。また美容師として必要な美容用具などの衛生上の正しい取り扱いについても、徹底して実施していく。				
授業の目標	国家試験合格を主眼に置き、第二課題の技術が合格レベルに達することが出来る。また、身容用具などの衛生上の取り扱い方法も理解できる。				
時間外学習 (予習・復習)	学んだ技術を、研究もしながら繰り返し練習をする。 また学習内容をノートに記録し、次の目標を掲げる。 なお、各回の復習には概ね60分~90分程度行い、次回の授業の際に技術が戻らないよう に定着させておくこと。				
	教科書	『美容技術理論 1.	2』日本理容美容教	枚育センター編	
***************************************	教材	美容用具一式、配	布プリント		
教科書・教材 ・ ・	使用設備・備品	大容実習室、プロジェクター			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度 10%、提出物(宿題としての技術およびノートまとめ)20%、期末試験 70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な追室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	オリエンテーション ノーパートオールウエーブを 実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする		
第2回	ワインディングを実践する		ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする		
第3回	ノーパートオールウエーブを 実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする		
第4回	ワインディングを実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする		
第5回	ノーパートオールウエーブを 実践する		ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする		
第6回	ワインディングを実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする		
第7回	ノーパートオールウエーブを 実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする		
第8回	ワインディングを実践する		ステムの角度、構成、シェープ等を 確認しながら、時間も意識して反復 練習をする		
第9回	ノーパートオールウエーブを 実践する		カールやウェーブのシェープ、構成 等を確認しながら、時間も意識して 反復練習をする		
第10回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする		
第11回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする		
第12回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識しながら正確に仕上げる練習をする		
第13回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする		
第14回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする		
第15回	美容用具・衛生上の取り扱い に注意しながら国家試験第二 課題を実践する	設定時間内で正確に仕上げら れるようになる	決定した第二課題を時間を意識し ながら正確に仕上げる練習をする		

			Ι	<u> </u>		
科目名	クリエイティブへ	ア	教員名	ヘアチーム		
Subject	Creative Hairsty	ling	70,57,11	-,, -		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	ヘアスタイリストとしての応用サロンワーク(カッティング、特殊系へア、パーマ)の技術を学ぶ。又、サロンワークの基礎(シャンプー)をより深く身に付ける。 ヘアリセッターカットなどのカッティング技術により、毛量が気になる方やボリュームが気になる方への対応技術とアプローチカを身に付ける。授業を通じて美齢学の理解を深める。					
授業の目標	サロンワークの技術を学び応用することができるようになる。 流行に敏速に対応でき、流行を創作できる感性を習得し、リーダーとして美容界に貢献できる人材になる。 応用サロンワークを学び、老若男女問わず対応できる応用力をつけ、美齢学に取り組む知識 を得る。					
時間外学習 (予習・復習)	技術・理論の修得の為、授業後に授業内容を図と文章でまとめて復習をし、自身でもプレゼンテーションができるよう理解度を高めにしておくこと。 (まとめ・復習にかかる想定時間:概ね一時間)					
	教科書	教員作成資料				
41 4 2 44 111 11	 教材	カット・パーマ・	ブロー・シャンプ-			
教科書・教材	使用設備・備品	品 美容実習室、シャンプー室使用				
	参考文献	なし				
評価方法	授業態度などの平常点・技術試験・提出課題での評価 「試験 60%平常点 30%課題 10%」					
履修上の注意	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。 2 コマ続きの授業の為、授業内容が 2 回ずつ重複しております。 美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為原則認めません。また その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の 不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし	_	_		

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	ブロー 髪の熱伝導理論、ブローの現 状を学びウィッグでの実習を 行う。	毛髪理論を取り入れ、毛髪に合わせたブロー技術の習得をする。	
第2回	ブロー 髪の熱伝導理論、ブローの現 状を学びウィッグでの実習を 行う。	毛髪理論を取り入れ、毛髪に合わせたブロー技術の習得をする。	
第3回	カット	他授業では行っていないカット技法や行ったカット技術に対する髪の動き方の違いを習得する。	
第4回	カット	他授業では行っていないカット技法や行ったカット技術に対する髪の動き方の違いを習得する。	
第5回	スライドカット ウィッグと補助的な役目をす	毛量調節の技術を習得し、スライドカットとブラントカットのシルエットの違いを理解する。	
第6回		毛量調節の技術を習得し、スライドカットとブラントカット のシルエットの違いを理解する。	
第7回	リセッター (毛髪交差) 毛髪理論をマイクロスコープ を使い学ぶ。 毛髪について研究。	毛髪交差を学ぶことにより、毛 髪の悩みを理解し、アドバイス ができるようになる。	
第8回	リセッター (毛髪交差) 毛髪理論をマイクロスコープ を使い学ぶ。 毛髪について研究。	毛髪交差を学ぶことにより、毛 髪の悩みを理解し、アドバイス ができるようになる。	
第9回	ドレッド シングルピン、ネジピンを用 いてパーマをし、ドレッドへ アを実践。	美容技術の引き出しを増やすため特殊技術であるドレッドの作成方法と種類を学ぶ。	
第10回	ドレッド シングルピン、ネジピンを用 いてパーマをし、ドレッドへ アを実践。	美容技術の引き出しを増やすため特殊技術であるドレッドの作成方法と種類を学ぶ。	
第11回	コーンロー 編み込みの理論を説明し、モ デルでの展示・実践。	コーンローの方法を学び、デザ イン性のあるスタイルをつく ることができるようになる。	
第12回	コーンロー 編み込みの理論を説明し、モ デルでの展示・実践。	コーンローの方法を学び、デザ イン性のあるスタイルをつく ることができるようになる。	
第13回	エクステンション① 三つ編み、四つ編みの技法を 展示し、各自実習していく。	需要が増えている付け毛の技 術を基礎だけでなく、実践的な 技術まで習得する。	
第14回	エクステンション① 三つ編み、四つ編みの技法を 展示し、各自実習していく。	需要が増えている付け毛の技 術を基礎だけでなく、実践的な 技術まで習得する。	
第15回	エクステンション② 器具を用いたエクステンションの付け方を展示・実習する。	エクステンションの色々な付け方を学び、幅広いへアスタイルを作る要素を身につける。	

	_	授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	エクステンション② 器具を用いたエクステンションの付け方を展示・実習する。	エクステンションの色々な付け方を学び、幅広いヘアスタイルを作る要素を身につける。	
第17回	縮毛矯正 インストラクターを招き、縮 毛矯正の現状を把握し技術の 流れを学ぶ。	縮毛矯正理論を学び、施術の流 れや施術する上での注意点を 理解する。	
第18回	縮毛矯正 インストラクターを招き、縮 毛矯正の現状を把握し技術の 流れを学ぶ。	縮毛矯正理論を学び、施術の流 れや施術する上での注意点を 理解する。	
第19回	パーマベーシック コールド、ホット、クリープ などのパーマ理論を学ぶ。	基礎理論からサロンでの理論を学び、それぞれのパーマの施術方法や仕上がりの違いを理解する。	
第20回	パーマベーシック コールド、ホット、クリープ などのパーマ理論を学ぶ。	基礎理論からサロンでの理論を学び、それぞれのパーマの施術方法や仕上がりの違いを理解する。	
第21回	マッサージ 技術のコツ、練習方法を展示 し、相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術 を習得する。	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第22回	マッサージ 技術のコツ、練習方法を展示 し、相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術 を習得する。	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第23回	バックシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示 し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習 し、バックシャンプー技術の基 礎を習得する	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第24回	バックシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示 し、相モデルで実習を行う。		復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第25回	バックシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しな がら実践的なバックシャンプ 一技術を習得する。	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第26回	バックシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なバックシャンプ 一技術を習得する。	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第27回	サイドシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示 し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習 し、サイドシャンプー技術の基 礎を習得する	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第28回	サイドシャンプー 技術のコツ、練習方法を展示 し、相モデルで実習を行う。	展示を見て、相モデルで練習 し、サイドシャンプー技術の基 礎を習得する	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第29回	サイドシャンプー 相モデルで実習を行う。	がら実践的なサイドシャンプ	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)
第30回	サイドシャンプー 相モデルで実習を行う。	速さや力加減などを研究しながら実践的なサイドシャンプ 一技術を習得する。	復習として、反復練習を 2~3 回程 度をモデルにて練習 (想定時間:概ね一時間)

科目名	テクニカルヘア I		教員名	ヘアチーム		
Subject	Techniques of Ha	ir Dressing I		· · / / — <u>A</u>		
開講年次	1	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	アップスタイルの基礎理論及び、アップスタイリングで一番重要となる基礎技術を学ぶ。					
授業の目標	アップスタイリングの基本技術ができる。 オリジナルスタイルデザインを想像し、自由に作品化することができる。					
時間外学習 (予習・復習)	予習:第5回以降、ウィッグの下準備をする。(ローラー巻き)(概ね30分) 復習:授業で習得した技術を再確認し、より完成度の高い技術が行えるよう反復練習をする。 (概ね30分)					
	教科書	美容技術理論1(ェンター)		
#L 1.1 1 - 1	教材	ヘアアクセサリー				
教科書・教材	使用設備・備品	なし				
	参考文献	なし				
評価方法	授業態度10%、スライド提出10%、コンセプトシート10%、作品制作課題70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	ま容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション アップ基礎理論	アップスタイリングの基礎知 識を理解する。	復習:道具の名前や用語を覚え、次 回からの授業で支障がないように する。			
第2回	アップ基礎技術 ブラッシング・一東・逆毛・ ピニング	アップスタイリングの基礎技 術が行えるようになる。	復習:基礎技術が確実でないと作品 の完成に影響する為、一つ一つの技 術を繰り返し練習すること。			
第3回	ヘアアイロン技術	ヘアアイロン技術が行えるよ うになる。				
第4回	ローラーの巻き方		復習:下準備は作品の出来上がりに 影響する為、正確・丁寧に行えるよ うにする。			
第5回	ブレイド技術 ・三つ編み・編み込み・ロー プ編み		復習:手つきが自己流にならないように、反復練習して正しい手つきに 慣れること。			
第6回	ブレイド技術の応用 ・四つ編み・編みの崩し	応用のブレイド技術が行える よ う になる。	復習:手つきが自己流にならないよ うに、反復練習して正しい手つきに 慣れること。			
第7回	すき毛の使い方	すき毛の必要性を理解し、扱う ことができるようになる。	復習:次回から必要な時にはすぐに すき毛を使えるように用意をして おくこと。			
第8回	ブレイドを使ったスタイル		復習:授業で行ったスタイルを、完成度を上げられるよう反復練習を する。			
第9回	ツイスト技術	ツイスト技術が行えるように なる。	復習:授業で行った技術を、完成度 を上げられるよう反復練習をする。			
第10回	ツイストを使ったスタイル		復習:授業で行ったスタイルを1か 所以上アレンジして、作品を作って みる。			
第11回	オリジナルスタイル考察		予習:作りたいスタイルを考えてく る。必要に応じて、切り抜きや画像 を用意してくる。			
第12回	オリジナルスタイル練習	前回考えたスタイルをモデル ウィッグで表現することがで きる。	1/8 22 · 1/101/11/12 E E11/12 1611 E / 400			
第13回	オリジナルスタイル制作	クオリティーの高いオリジナ ルスタイルを完成に近づける ことができる。				
第14回	オリジナルスタイル制作 コンセプトシート制作	オリジナルスタイルを完成させ、コンセプトシートも完成させることができる。				
第15回	グループワーク		復習:他の作品から得たヒントを活 かし、新しいオリジナルスタイルを 作ってみる。			

科目名	テクニカルヘアⅡ		教員名	ヘアチーム		
Subject	Techniques of Ha	ir DressingⅡ	投 負石	Α,,, Δ		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	2	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	テクニカルヘア I (1 年前期)で学んだ基本理論・基本技術を活かし、アップスタイルパターンを学ぶ。 独自の感性を活かしデザインを考え、作品化していく。				'ップスタイルパタ	
授業の目標		アップスタイリングの基礎技術の向上及び、応用技術ができる。 独自の発想力を活かし、クォリティーの高い作品を作成することができる。				
時間外学習 (予習・復習)	予習・ウィッグの下準備をする。(ローラー巻き)(概ね20分) 復習・授業で習得した技術を再確認し、より完成度の高い技術が行えるよう反復練習をする。 (概ね40分)					
	教科書	なし				
#1 *.1 == #1 I	教材	ヘアアクセサリー				
教科書・教材	使用設備・備品	なし				
	参考文献	なし				
評価方法	授業態度10%、スライド提出10%、ノート提出10%、各課題(作品制作)70% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	オリエンテーション アップスタイリングの基礎理 論(復習)	アップスタイリングの基礎理 論を復習し、完璧に習得する。			
第2回	基本技術(復習) (ピニング・逆毛等)	アップスタイリングの基礎技 術を復習し、完璧に習得する。			
第3回	夜会巻き (重ね夜会) デモンストレーションと実践	重ね夜会を作ることができる。	復習:反復練習を行い、重ね夜会の 技術のレベルを上げる。		
第4回	夜会巻き (本夜会) デモンストレーションと実践	本夜会を作ることができる。	復習:反復練習を行い、本夜会の技 術のレベルを上げる。		
第5回	夜会巻き (合わせ夜会) デモンストレーションと実践	合わせ夜会を作ることができ る。	復習:反復練習を行い、合わせ夜会 の技術のレベルを上げる。		
第6回	夜会巻きを使ったスタイル 実践	夜会巻きを使ったスタイルを 完成させることができる。	復習:授業で行ったスタイルをアレ ンジして、オリジナルの夜会スタイ ルを作る。		
第7回	ポンパドール (すき毛なし) デモンストレーションと実践	ポンパドールを作ることがで きる。	復習:反復練習を行い、ポンパドー ルの技術のレベルを上げる。		
第8回	ポンパドール (すき毛あり) デモンストレーションと実践	すき毛を使い、ポンパドールを 作ることができる。(フロント を3つに分けて上げる)	復習:反復練習を行い、ポンパドー ルの技術のレベルを上げる。		
第9回	ポンパドール (すき毛あり) デモンストレーションと実践		復習:反復練習を行い、ポンパドー ルの技術のレベルを上げる。		
第10回	バインドポンパドール デモンストレーションと実践		復習: 反復練習を行い、バインドポンパドールの技術のレベルを上げる。		
第11回	ワンロール (平行止め) デモンストレーションと実践	平行止めを使った方法で、ネー プにワンロールを作ることが できる。	復習:反復練習を行い、ワンロール の技術のレベルを上げる。		
第12回	ワンロール (根あり) デモンストレーションと実践		復習:反復練習を行い、ワンロール の技術のレベルを上げる。		
第13回	ワンロール (トップ~ネープ) デモンストレーションと実践		復習:反復練習を行い、ワンロール の技術のレベルを上げる。		
第14回	ワンロール (ブレイド) デモンストレーションと実践	ブレイド技術を使ってポンパ ドールを作ることが出来る。	復習:反復練習を行い、ワンロール の技術のレベルを上げる。		
第15回	作品チェック	夜会巻き、ポンパドール、ワンロールのうち、選んだ一つの課題を50分以内に完成させることができる。	予習:チェックに向けて、これまで		

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第16回	夜会巻き・ポンパドール・ワンロール 作品の見直しと練習	作品チェックを通し、改善点を 理解してより完成度の高い作 品を作ることができる。	1復名・壬二/12. ムを口吸じさん [1
第17回	ブライダルヘア 洋装	洋装ブライダルでのスタイル を知り、完成させることができ る。	
第18回	ブライダルヘア 和装	和装ブライダルでのスタイル を知り、完成させることができ る。	
第19回	年代別アップスタイル (理論)	それぞれの年代に合ったスタ イルを作る際に必要なポイン トや知識を理解する。	予習・復習:様々な年代の方の髪型 (アップスタイル)を日頃から気か けて見てみる。(街中、本、インター ネット)
第20回	年代別アップスタイル デモンストレーションと実践	それぞれの年代に合ったスタ イルを作ることができる。	
第21回	新日本髪 (ブロッキング・髱) デモンストレーションと実践	新日本髪のブロッキングと髱 を結い上げることができる。	
第22回	新日本髪 (ブロッキング・髱) 実践と技術チェック	ブロッキングと髱を反復練習 し、バランスよく結い上げるこ とができる。	復習:ブロッキングと髷を反復練習 する。
第23回	新日本髪 (鬢) デモンストレーションと実践	新日本髪の鬢を結い上げることができる。	
第24回	新日本髪 (鬢) 実践と技術チェック	鬢を反復練習し、左右対称に結 い上げることができる。	復習:ブロッキング〜鬢を反復練習する。(左右均等にあげられるようにする)
第25回	新日本髪 (前髪・髷) デモンストレーションと実践	新日本髪の前髪と髷を結い上 げることができる。	鹿の子貸し出し
第26回	新日本髪 (前髪・髷) 実践と技術チェック	前髪と髷を反復練習し、新日本 髪を完成させることができる。	
第27回	オリジナルスタイルの考察	オリジナルスタイルを想像し、 まとめることができる。	予習:オリジナルスタイルを考えてくる。必要に応じて、切り抜きや画像を用意する。 ・ヘアアクセサリー持参
第28回	オリジナルスタイルの練習	想像したスタイルを、ウィッグ で表現することができる。	
第29回	オリジナルスタイル制作	の調和がとれた作品を完成さ せることができる。	・ヘアアクセサリー持参
第30回	作品チェック グループワーク	作品をプレゼンテーションす ることができる。	復習:他の作品から得たヒントを活かし、新しいオリジナルスタイルを 作ってみる。

科目名	着装技術Ⅱ		## E 5			
Subject	Techniques of Ki	mono DressingI	教員名	着装チーム		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2	
必修/選択	必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
工艺工艺	0	0	0	0	0	
科目の概要	着装技術 I で学んだ技術と知識をベースに、プロの技術者=「山野流着装奥伝講師・美容着付師」の資格取得を目的とし、老若男女、健常者、障害者を問わない技術・技能を修得します。実習では七五三、成人式振袖、婚礼列席者の装い等、美容サロンで需要の大きい実践技術を徹底して学ぶ他、ヘアメイクを含むトータルビューティの表現力を磨くことで、"人に着付ける"というプロの立場と"教えさせていただく"という指導者の立場を深く理解していきます。この職業実践専門課程の実施を通じ、美齢学を踏まえ社会に役立つ技術者として就職1年目から現場で貢献できる総合力が確実に習得できます。					
授業の目標	本科目の履修を通して、 ①就職一年目から美容技術の現場で評価される「美容着付師」の資格を取得する。 ②サロンワークをイメージした実践学習を重ね技術者とお客様の双方の立場を理解し、技術 見識共に美容着付けのプロを意識したトータルビューティを表現できる出来るようになる。 ③学内外の国際的なイベントやボランティアに積極的に参加し、日本人として自国の文化や 着物の知識を伝えたり授業で学んだ技術を実践することで、社会で活かせる経験を積み技術 力を磨く。					
時間外学習 (予習・復習)	プロの着付師をイメージし技術のスキルアップと経験を積むための予習、復習を個人の学習課題とする。●技術者として社会の情報収集を欠かさず行い、自分の技術をリンクさせ見る目を養いながら、伝統文化の基本と時代に即した表現力を研究する。さらに SNS を常識的な範囲内で有効に使用し個人のアピールをする●美容着付師技能審査合格のために課題の練習を随時欠かさず行う。(30 - 40 時間以上を要する)					
	教科書	山野流着装教伝				
*/L T.J === */L L L	教材	着装技術Ⅰの教材	を使用。新たに必要	要な教材を課題ごと	とに配布	
教科書・教材 	使用設備・備品	授業に必要な教材は国際美容協会からレンタル(保管は短大内)				
	参考文献	(一財) 国際美容協会貯蔵				
評価方法	実技試験、筆記試験、評価シート、授業態度、小テスト なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	①個人持参物/筆記用具、半紙、白ソックス、白タオル5本、女子は前後の衿が大きく開いたシャツ(キャミソール)、7分丈までのレギンス、男子はVかU字型シャツ、短パン ②マナー/実習時は髪をひとつに束ねる事、素足入室は厳禁 ③美容着付師申請は別途手続き有り					
本科目履修と 関連する資格	資格名	美容着付師				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション サロン技術の実践① 体型補 正 帯結び:末広太鼓	冠婚葬祭の装いを理解し、年代 に対応する技術力を高める	通過儀礼の事前学習を要する(自分と着物の関わりを記録してくる)			
第2回	助手の心得 喪服・夏の礼装	様々なシーンでの着物の常識 を知り、サロンワークのシチュ エーションでの技術を学ぶ	テキストを事前に一読してくる			
第3回	サロン技術の実践② 七五三の女児・男児	七五三の意味を理解し、子供の 着つけの特徴を学び実践する	テキストを事前に一読してくる			
第4回	付き添いの装い 色無地・訪問着	付き添いの母や祖母の装いと しての着つけと帯結びを知る	テキストを事前に一読してくる			
第5回	サロン技術の実践③ 振袖のきつけ①	サロン営業の主流となる振袖 の着つけを通し着付師の心得 を学ぶ	帯型のプロセスを理解するため、配 布したプリントを復習する			
第6回	振袖帯結び:花の舞		帯型のプロセスを理解するため、配 布したプリントを復習する			
第7回	サロン技術の実践④ 振袖のきつけ②		帯型のプロセスを理解するため、配 布したプリントを復習する			
第8回	振袖帯結び:ファンタジー		帯型のプロセスを理解するため、配 布したプリントを復習する			
第9回	サロン技術の実践⑤ 振袖のきつけ③		復習として帯型の模範と自分の作 品との違いを確認する			
第10回	振袖帯結び:花の舞・ファン タジー 評価シート		評価シート判定に向けて技術予習 が必要			
第11回	サロン技術の実践⑥ 振袖のきつけ④	着付師を意識し、スムーズな動きで着つけができるようになる				
第12回	振袖帯結び:花の舞・ファン タジー		技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)			
第13回	サロン技術の実践⑦ 振袖のきつけ⑤	着付師を意識し、着つけと帯結 びが出来るようになる				
第14回	振袖帯結び:花の舞・ファン タジー		技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)			
第15回	サロン技術の実践® 振袖のきつけ⑥	着付師を意識し、決められた時間での着つけと帯結びが出来 るようになる				

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第16回	振袖帯結び:花の舞・ファン タジー	着つけのトータルバランスを 意識するようになる	技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)		
第17回	サロン技術の実践⑨ 振袖のきつけ⑦	決められた時間に着つけと帯 結びが出来るようになる			
第18回	振袖帯結び:花の舞・ファン タジー 評価シート	評価を通し、振袖と帯結びの技 術が着付師のレベルにた事を 確認する	1. 放射日子学学(肝墨梅南门 90 分积		
第19回	振袖帯結び:花の舞・ファン タジー	技能審査に向けて、プロのレベ ルに達する事が出来るように なる	技術自主学習(所要時間は 90 分程 度)		
第20回	技術試験 振袖のきつけと帯結び	決められた時間に着つけと帯 結びが出来るようになる	課題を時間内にクリアできない場 合は再試験の予習が必要		
第21回	海外研修	海外研修旅行で短時間での着 つけが出来るようになる	海外で着用する着物と帯の事前準 備のため、着物が入るバックを持参 する		
第22回	自装・他装 アイコー枕使用	早着せ、早着替えの工夫として アイコー枕での帯結びができ るようになる	テキストを見て事前学習をする		
第23回	サロン技術の実践① 卒業式の装い	卒業式で装う女子の袴の着つ けが出来るようになる	社会情報の収集を事前に行う		
第24回	女子の袴	袴のための着つけの特徴を知る、袴の扱い方とたたみ方を学ぶ			
第25回	サロン技術の実践① 卒業式の装い	成人式、婚礼の男子の袴の着つけが出来るよう②なる	社会情報の収集を事前に行う		
第26回	男子の袴	女子袴との違い、着つけの特徴 を知り、袴のたたみ方ができる ようになる			
第27回	サロン技術の実践③ 振袖の着つけ	振袖の着つけと帯のバリエー ションを増やす	社会情報の収集を事前に行う		
第28回	帯のバリエーション 振袖帯結び:二枚扇	アイコー枕を使用し、振袖の着 つけの自装ができるようにな る			
第29回	筆記試験	日本人として老若男女を問わず美しい着つけと着物の知識 を理解出来るよう②なる	十分 判職の姿/5か用来にかった		
第30回	式典での装い 礼装 振袖・男袴	資格取得の認定証授与式にむ けて着つけの技術を確認する	自分の装いのコーディネイトを事 前に準備し、場合によっては持参す る		

科目名	シャンプーイング		教員名	ヘアチーム	
Subject	Shampooing Pract	ice	教 員石	. ()) —Д	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
	0	0	Δ	0	0
科目の概要	ヘアスタイリストとしてのサロンワークの基礎(シャンプー)をより深く身に付ける。 プロとして通用するレベルのシャンプー技術を学ぶ。 様々な年齢の頭皮や毛髪の状態を知り、より深い技術を身に付けて一人一人に合わせたシャ ンプーができるよう対応力をつける。授業を通じて美齢学の理解を深める。				
授業の目標	髪や頭皮の理論、シャンプー成分などのケミカルについて学び、サロンワークの基礎技術であるシャンプーができる。 プロとして通用するシャンプー技術を習得する。 応用技術を学び、老若男女問わず対応できる応用力をつけ、美齢学に取り組む知識を得る。				
時間外学習 (予習・復習)	美容の最新技術・知識を把握する。 本授業は、実技が主となる為、技術の修得のため日々の復習が非常に重要なものとなる。毎 授業ごとに一時間程度の反復練習を行い、次回に臨む事。				
	教科書	美容技術理論Ⅰ・	—————————————————————————————————————		
+/L 1 === 1/1 1 1	 教材	シャンプークロス・タオル・ブラシ・ドライヤー			
教科書・教材 ・ ・ ・	使用設備・備品	美容実習室・シャンプー室使用			
	参考文献	なし			
評価方法	授業態度などの平常点・技術試験・提出課題での評価 「平常点 60%試験 30%課題 10%」				
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	美容技術を学ぶにあたり、遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為原則認めません。また、その為に再度デモンストレーション等の時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為を行った場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			
<u> </u>	1	<u> </u>			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第 1 回	毛髪、頭皮理論について学ぶ。	より深い毛髪や頭皮の理論や 知識を習得する。	授業内容を図なども加えてノート に分かりやすくまとめプレゼンで きるようにする。 (想定時間:概ね一時間)			
第2回	ケミカル理論について学ぶ。	より深いケミカルの知識を習 得する。	授業内容を図なども加えてノート に分かりやすくまとめプレゼンで きるようにする。 (想定時間:概ね一時間)			
第3回	シャンプー成分などについて 学ぶ。	より深いシャンプー成分など の知識を習得する。	授業内容を図なども加えてノート に分かりやすくまとめプレゼンで きるようにする。 (想定時間:概ね一時間)			
第4回	ーンリンスについて学ぶ。展	速さや力加減などを研究しながら実践的なプレーンリンス 技術を習得する。				
第5回	サイドシャンプー 1 シャンプーについて学ぶ。 展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な 1 シャンプー技術を習得する。				
第6回	サイドシャンプー 2 シャンプーについて学ぶ。 展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な2シャンプー技術を習得する。				
第7回		速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術 を習得する。				
第8回		速さや力加減などを研究しながら実践的なヘッドスパ技術 を習得する。				
第9回	サイドシャンプー 技術チェックテスト	プロとして通用するシャンプ 一ができるか技術の修得レベ ルを測る。				
第10回	ーンリンスについて学ぶ。展	速さや力加減などを研究しながら実践的なプレーンリンス 技術を習得する。				
第11回	バックシャンプー プレ ーンリンスについて学ぶ。展 示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な 1 シャンプー技術を習得する。				
第12回	バックシャンプー 2シャンプーについて学ぶ。 展示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的な2シャンプー技術を習得する。				
第13回	バックシャンプー マッサージについて学ぶ。展 示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なマッサージ技術 を習得する。				
第14回	バックシャンプー ヘッドスパについて学ぶ。展 示・相モデル実習	速さや力加減などを研究しながら実践的なヘッドスパ技術 を習得する。				
第15回	サイドシャンプー 技術チェックテスト	プロとして通用するシャンプ 一ができるか技術の修得レベ ルを測る。				

					· · ·
科目名	グローバルスタイリスト演習		教員名	英語チーム	
Subject	Global Stylist A	Practice	322.1)	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	1
必修/選択	選択必修	授業形態	演習	時間	30
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
± 0. 1 H 333K	0	0	0	0	0
科目の概要	インバウンドが増加傾向にある中、それに伴い外国のお客様と接する機会も増えつつある。また将来的に海外で働くことも視野に入れて考えると、英語力は必須である。本授業においては、2年次前期までに習得した英語力を活かしながら、美容技術を通して英語が学べる授業を展開する。				
授業の目標	美容技術を施しながら英語を話すという動きのある環境の中で、活きた英語を身に付ける。 外国のお客様の要望を聞いて理解し、それに英語で応えることのできるコミュニケーショ ン力が備わる。				
時間外学習 (予習・復習)	学習した英語の美容専門用語や接客する上で必要なコミュニケーション英語を、毎回授業終了後に復唱し、身体に沁み込ませる。そして次回学習する内容に目を通し、会話の内容を理解できるようにしておく。 なお、1回の予習復習に対し、合計60分~90分程度を想定している。				
	教科書	ヘアスタイリス (Canada Styles	トのための HAIR SAL s Ltd.)	ON ENGLISH/Bret	t Yamashita著
人 教科書・教材	教材				
2011 3011	使用設備・備品				
	参考文献				
評価方法	授業態度 50%、期末試験 50% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
履修上の注意	遅刻、欠席はスキルアップに支障が出る為、原則認めません。また、そのために再度説明する時間は設けません。授業中の私語、勝手な退室等の不適切と思われる行為があった場合は、欠席と同等の扱いとします。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第 1 回	オリエンテーション グローバルスタイリストとし てどうあるべきかを話し合う	グローバルスタイリストを目 指す為の自覚を持つことがで きる			
第2回	日本と海外の美容師の違いを 検証する(システム、技術、 勉強会)	日本と海外の違いを認識する ことができる	Lesson1 (お客様を迎える)		
第3回	美容室で必要な英会話や道 具、器具の英語表現を学ぶ (ネイティブ講師を交えて)	普段自分達が使っている英語 表現とのズレを理解し、正しい 表現を身に付ける	Lesson1 (お客様を迎える)		
第4回		実際に声に出すことで、英語に 慣れ親しむことができる	Lesson2 (予約を受ける)		
第5回	ブロードライの実習(ボブス タイル)を行う	海外で重要視されているブロ ードライのスキルが向上する			
第6回	ブロードライの実習(レイヤ ースタイル)を行う	ロールブラシの使い方のスキ ルが向上する	Lesson3 (待ち時間の対応)		
第7回	ウィービングの実習(ホイル ワークトレーニング)を行う	海外で需要の高いハイライト のホイルワークのスキルが向 上する	Lesson4 (お見送り)		
第8回	ショートスタイルの為のキャ ップハイライトを学ぶ	実際に薬剤を使用してバラン スを確認し理解することが出 来る	Lesson5 (カウンセリング)		
第9回		シャンプー時に必要な英会話 が習得出来る	Lesson6 (シャンプー)		
第10回	ネイティブスピーカーを交え てのディスカッションを実施 する	実際のコミュニケーションを 想定し、実践することが出来る			
第11回	海外経験者を招いて、技術の デモンストレーションを行う	体験談等を聞きながら海外に おける現場の実際を知ること が出来る	Lesson7 (カット)		
第12回	(11)の質疑応答、ディスカ ッションを行う	ディスカッションをすること で、海外における現場の実際を 理解することが出来る	Lesson7 (カット)		
第13回	デジタルパーマ、コールドパ ーマ、クリープパーマ等の違 いを検証する	よりグローバルな知識を身に 付けることが出来る	Lesson8 (カラーパーマ)		
第14回	ーマ、クリープパーマ等の違	グローバルな知識を身に付け た上で技術を実践することが 出来る	Lesson8 (カラーパーマ)		
第15回	全ての技術の復習をする(用 語の確認等)	習得したことを改めて確認す ることで、内容が定着する			

科目名	メイクアップⅡ				
Subject	Make-up II		教員名	ティミー 西村	他
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	60
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
工艺了日初末	0	0	0	0	0
科目の概要	「メイクアップ I」で学んだベーシックな知識を発展させたメイクアップの応用を学ぶ。施術を行う対象者の個性に合わせ、どのような技術を施せば似合うのかを、学生自らが考え実践する。美しくメイクアップを仕上げる技術者の育成のみならず、化粧品の紹介や販売にも必要な知識を学ぶ。また写真撮影、動画撮影、舞台、ファッションショー、婚礼、高齢者へのメイクアップ等、の日常とは異なる現場でのメイクアップ技術・知識も学ぶ。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。				
授業の目標	様々な顔立ち、肌色にあわせたメイクアップができるようになる。 一つの表現をするのにはさまざま方法があることを理解し、何種類かの方法の中から学生が主体的に手法を選択し、臨機応変に対応できるようになる。施術される側の 顔の立体感、陰影、各パーツの特徴、性格や好み、ライフスタイルを理解し、似合うメイクアップを提供できる知識、技術、経験を身につけ、メイクアップを通じて施術を受ける側の満足感を提供できるようになる。				
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、 意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タ ブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の 講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作 品制作準備に必要な時間数は合計で約30時間である。				
	教科書	教員作成資料			
±4.1√ = +/∟↓↓	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。			
教科書・教材 ・ ・	使用設備・備品	なし			
	参考文献	なし			
評価方法	作品制作25%、筆記試験25%、小課題25%、授業参加意欲25%				
	なお、出席数が不	足の場合は評価対象	象とはしません。		
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。				
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	顔型や年齢によるメイクアッ プ応用の知識を学ぶ。	顔の形の違いや、美齢学に基づいた年齢による顔の違いを理解する。				
第2回	顔型や年齢によるメイクアップ応用の技術を学ぶ。	顔の違いによって提供する技 術が違うことを理解する。	講義内容を自宅で復習。			
第3回	肌色によるメイクアップ応用 の知識を学ぶ。	肌の色になぜ違いが生まれる か理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第4回	肌色によるメイクアップ応用 の技術を学ぶ。	肌の色によって提供する技術 が違うことを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第5回	立体分析の意味を学ぶ。	顔の立体的な構造を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第6回	自身の顔の立体を学ぶ。	自身の顔の立体感を正しく理 解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第7回	立体分析の個人差を学ぶ。	顔の立体感に個人差があるこ とを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第8回	他者の顔の立体を学ぶ。	個人差のある顔の立体感に適 切なベースメイクアップが表 現できる。	11 「「ちもや」数(及業表内のなり)			
第9回	骨格分析の意味を学ぶ。	頭蓋骨の基本的な構造を理解 する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第10回	自身の顔の骨格を学ぶ。	自身の骨格をメイクアップで 表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を誤題として提出。			
第11回	演劇ステージメイクアップの 知識を学ぶ。	日常のメイクアップとの違い を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第12回	演劇ステージメイクアップの 技術を学ぶ。	演劇ステージメイクアップが 表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第13回	老化による顔の変化を学ぶ。	老化による顔の筋肉や肌色の 変化を理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第14回	老化による顔の変化をメイク アップで表現する。	老化した顔をメイクアップで 表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第15回	1930年代のメイクアップ トレンドを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第16回	1930年代のメイクアップ を表現する。	が表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第17回	1950年代のメイクアップ トレンドを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第18回	1950年代のメイクアップ を表現する。	が表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第19回	1960年代のメイクアップ トレンドを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第20回	1960年代のメイクアップを表現する。	が表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第21回	洋装のブライダルシーンの知 識を学ぶ。	ブライダルの現場で求められ る知識や振る舞いを理解する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第22回	洋装のブライダルメイクアッ プの技術を学ぶ。	プが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第23回	和装のブライダルシーンの知 識を学ぶ。	洋装ブライダルメイクアップ との違いが理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第24回	和装のブライダルメイクアッ プの技術を学ぶ。	現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第25回	海外の秋冬メイクアップトレ ンドを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第26回	海外のファッションショーで トレンドになった秋冬メイク アップスタイルを模写する。	で必要な技術を習得する。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第27回	写真撮影のメイクアップに関 する知識を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に必要 な知識が理解できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。			
第28回	写真撮影のメイクアップに関 する技術を学ぶ。	スタジオでの写真撮影に求め られる技術を表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第29回	作品制作のリハーサルを行 う。		チーム内で作品の方向性を話し合い、共同作業が円滑に進むよう調整する。			
第30回	作品コンセプトの発表を行 う。	チームごとに作品のコンセプ トを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行う。			

科目名	メイクアップⅢ				天在7 7 1 2 寻久	
			教員名	ティミー 西村	他	
Subject	Make-upⅢ					
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	専門的なプロのメイクアップ技術・知識を学ぶ。ファッションショー、映像撮影、化粧品販売、等の現場で使えるテクニックを各専門分野の教員が指導し、常に新しい技術と情報を取り入れた授業内容を展開する。デモンストレーションによる展示または資料写真を参考に相モデルでメイクアップ作品を制作する。					
授業の目標	知識を身につける	。全ての年代の女情 メイクアップで表 ፤	生を美しく見せる <i>></i> 現できる。その人 <i>0</i>	イクアップが表現 D性格や好み、生活	れるテクニックと むできる。目指すイ を理解し、その人	
時間外学習 (予習・復習)	タブレットに教員作成の資料が事前に送られる。各回の授業前にそれらを読み授業の内容、 意味を理解しておく。授業終了後には課題が出されることがあるため自宅でデッサンや、タ ブレットで撮影した顔写真を指定された様式に添付し作品課題として提出する。また各回の 講義内容を自宅で復習し、次回の授業に向けた準備とする。予習と復習、課題制作、撮影作 品制作準備に必要な時間数は合計で約15時間である。					
	教科書	教員作成資料				
	教材	洗顔料、タオル、ティッシュ、コットン、綿棒。				
教科書・教材 	使用設備・備品	なし				
	参考文献	なし				
評価方法	作品制作35%、小課題35%、授業参加意欲30%					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	提出課題は作品のデッサンと写真を提出してもらいます。やむを得ず欠席した場合は各自で作品制作を行い提出してください。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	動画撮影のメイクアップに関 する知識を学ぶ。	写真撮影との手法の違いを理 解できる。	講義内容を自宅で復習。			
第2回	動画撮影のメイクアップに関 する技術を学ぶ。	プロモーションビデオ用のメ イクアップを表現できる。	講義内容を自宅で復習。			
第3回	ライブステージ用メイクアッ プの知識を学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。			
第4回	ライブステージ用メイクアッ プの技術を学ぶ。	コンサート、ミュージカルのメ イクアップが表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第5回	海外の春夏メイクアップトレ ンドを学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。			
第6回	海外のファッションショーで トレンドになった春夏メイク アップスタイルを模写する。	海外でのファッションショー で必要な技術を習得できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第7回	モンスターの特殊メイクアッ プの手法を学ぶ。	映画撮影などで求められるメ イクアップ知識を理解する。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。			
第8回	ゾンビの特殊メイクアップの 手法を学ぶ。	ゾンビの特殊メイクアップを 表現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第9回	あざ、傷の特殊メイクアップ の手法を学ぶ。	特殊メイクに必要な道具を理 解する。	事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。			
第10回	火傷の特殊メイクアップの手 法を学ぶ。	様々な特殊メイクアップが表 現できる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第11回	化粧品業界について学ぶ。		事前にタブレットに送られた資料 による予習。終了後講義内容を自宅 で復習。			
第12回	化粧品のトレンドについて学 ぶ。	最新の化粧品を使いこなすことが出来るようになる。	事前にタブレットに送られた資料による予習。終了後講義内容を自宅で復習。授業内で撮影した写真を課題として提出。			
第13回	作品制作のリハーサルを行 う。	作品制作に向けチーム内で意見を出し合い、メイクアップに 反映できる。				
第14回	作品コンセプトの発表を行 う。	チームごとに作品のコンセプ トを発表できる。	作品制作本番に向け最終調整を行 う。			
第15回	作品制作を行う。	学内のスタジオで撮影できる 高度な作品制作の技術を表現 できる。	振念 に与目をエンタルホート /			

		1				
科目名	応用ネイル技術		教員名	加藤 宏美 他		
Subject	Applied Nail Tec	hn i ques	30 P. H	- AX 15		
開講年次	1	開講時期	後期	単位	2	
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	60	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	基礎ネイルで習得した技術を踏まえ、ネイル技術のレベルアップ、及び作品としてのネイルアート制作を行う。美容室でも扱うことのできる時間短縮のためのソークオフタイプのジェル技術についても学ぶ。関連科目として接客力を養うための接客・接遇法、トータル的な美を追求するためにメイクアップ II を学ぶことが望ましい。					
授業の目標	ネイルの器具、用具を正しく扱うことができ、技術理論に基づいた作業を行うことができるようになる。コンテストでの入賞を目指す。年齢を問わずお客様に合わせたネイル技術を提供できるようになることを目標とする。爪を健やかに保つために、加齢による爪の病気などを見極め、お客さまに適切なアドバイスを行うことができる。					
時間外学習 (予習・復習)	ネイルの資格取得にあたり、授業以外においても各自で反復練習を行うこと。技術においては1回につき60分~90分程度の復習を行なうことが望ましい。					
	教科書	JNA テクニカルシス	ステム BASIC 発行	· NPO 法人日本ネ	イリスト協会	
	教材	配布教材は別紙参照 *授業初回で配布します				
教科書・教材	使用設備・備品	・備品 美容実習室・水道				
	参考文献	ネイル・プロッフ	ェッショナル 第4	4版 発行 株)イ	′ンターメディカル	
評価方法	授業内の参加意欲、ネイルに関するコンテストへの参加や受賞は評価に反映します。筆記試験内容は、主に授業で配付するテキストより出題し、実技試験は授業内での作品制作を含めて評価します。授業態度 20%、筆記 40%・実技試験 40% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	授業の実習について開講期間中はナチュラルネイルとし、カラーリング、人工爪などは全て除去してきてください。授業内で迷惑行為にあたる言動は慎むこと。 *基礎ネイル技術単位取得が履修条件です。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	ネイリスト技能検	定試験 2級			

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第1回	オリエンテーション 道具、器具の説明 テーブルセッティング	道具、器具、マニキュア化粧品 の成分を理解する				
第2回	ネイルケア・カラーリング チップラップを自分の爪で練 習する	前期の技術を手順どおりに施 術することができる。チップラ ップ技術の手順を覚える。				
第3回	チップラップを相モデルで練習する	材料の特長、使用方法を理解す ることができる				
第4回	シェラック① ハイブリッドネイルケアシス テムを学ぶ	材料の特長、使用方法を理解す ることができる	次週までにアートのデザインを考 えてくる			
第5回	シェラック② 自分の爪で練 習する		検定受験者グループはタイム計測 を実施する			
第6回	シェラック③作品制作	_ :	次週のアートのデッサンを考えて くる。その他、必要に応じて装飾品 を持参する。			
第7回	ハロウィンアート制作	色彩と共にテーマに沿ったア ートを描くことができる。	検定受験者グループはタイム計測 を実施する			
第8回	ハロウィンアート制作	装飾品を使用して作品を作る ことができる	検定受験者グループはタイム計測 を実施する			
第9回	スカルプチュアネイル① 理論 筆の扱い方 フォームの装着	人工爪の理論、製品の特長を理解することができる				
第10回	スカルプチュアネイル② 材料の特長と技法を学ぶ	自分の爪に施術することができ技法を理解することができ る				
第11回	スカルプチュアネイル③ 実技	全ての技術工程において手順 通りに施術することができる。				
第12回	スカルプチュアネイル② 材料の特長と技法を学ぶ	全ての技術工程においての時間を意識して施術することができる。				
第13回	チップオーバーレイ	技術の理論と製品の特長を理 解することができる				
第14回	チップオーバーレイ	正しく製品を扱い、自分の爪に 施術することができる				
第15回	3 D、エンボスアート技術	材料の特長を理解することが できる				

	授業計画					
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考			
第16回	3 D、エンボスアート② アート制作の練習	指定されたテーマを考えて作 ることができる	次週のアートのデッサンを考えて くる。その他、必要に応じて装飾品 を持参する。			
第17回	「クリスマス」又は「和」を テーマにした作品制作	色彩と共にテーマに沿ったア ートを描くことができる。				
第18回	「クリスマス」又は「和」を テーマにした作品制作	装飾品を使用して作品を作る ことができる				
第19回	ジェルネイル① 理論	材料の理論と使用法を理解す ることができる				
第20回	ジェルネイル② フローター オフの方法	材料の使用法を理解し、自分の 爪に施術することができる				
第21回	ジェルスカルプチュア①	材料の理論と使用法を理解す ることができる				
第22回	ジェルスカルプチュア② 実技	相モデルで実践し、手順どおり に施術することができる				
第23回	ジェルネイル③ 相モデルに施術する	爪の形状を10指揃えて、手順通りに施術することができる				
第24回	ジェルネイル④ 相モデルを交替して行う	爪の形状を含め、相手の要望ど おりにデザインすることがで きる。				
第25回	人工爪とアート①	スカルプチュアネイルとエン ボスアートを行なうことがで きる				
第26回	人工爪とアート② 技術の復習	スカルプチュアネイルとエン ボスアートを時間内に行なう ことができる				
第27回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカルプチュア・3Dを取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。				
第28回	ネイル技術のまとめ 理論と技術	チップラップ・スカルプチュア・3D を取り入れ独創的なネイルアートの作品を制作することができる。				
第29回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がり までの時間を意識して施術す ることができる。				
第30回	ソークオフジェル	実技の手順を習得し、仕上がりまでの時間を意識して施術することができる。				

科目名	スキンケア技術		数 吕 <i>夕</i>	鈴木 ひろ子		
Subject	Skincare Techniq	ues	教員名	野小 ひつナ		
開講年次	2	開講時期	前期	単位	1	
必修/選択	選択必修	授業形態	実習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	フェイシャルトリートメントの中のクレンジングとフェイシャルマッサージで基本となる 6 種類の手技(軽擦法・強擦法・揉燃法・打法・振動法・圧迫法)の目的と効果を学ぶ。					
授業の目標	本科目を履修することにより、皮膚科学の基礎、エステティックの基礎であるクレンジング から肌分析、マッサージ、パック、整肌ができ、高齢者への対応も学ぶびできるようになる。					
時間外学習 (予習・復習)	授業で学んだことを復習し、次の授業の内容を実技教科書で予習するよう心掛けてください。					
	教科書	配布資料				
	教材	フェイシャル用タオル、コットン				
教科書・教材	使用設備・備品	フェイシャル室				
	参考文献					
評価方法	平常点 20% (小テスト、身だしなみチェック、提出物等含む) 試験 80% なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	授業中の居眠りや私語など他の学生に迷惑がかかる様な行為が目立つ場合は、欠席扱い又は 実習室を退出させる場合もある。 ※受験料、問題集は各自購入するものとする。学内での実技試験に合格後、外部にて筆記試 験を実施。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	なし				

	授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考	
第1回	オリエンテーション 授業説明 ベットセッティング / 準備	エステティックの授業で学ぶ ことを理解し、今後の授業で必 要な「準備」を習得する。	ポイントクレンジングの手順を予 習しておく	
第2回	ポイントメイク クレンジング コットン拭取り /整肌	目元、口もとのメイクを落とす 手順と目的を理解する。	ポイントクレンジングの手順を復 習しておく 	
第3回	ポイントメイククレンジン グ・スキンアップ	メイクを落とすことと化粧水 を塗布する手順と目的を理解 する。	1882全体(ハクー・ラン・ラン) イビサス(ハロ	
第4回	ポイントメイククレンジン グ・スキンアップ	メイクを落とすことと化粧水 を塗布する手順と目的を理解 する。	顔全体のクレンジング、化粧水の目 的、手順を理解する。	
第5回	クレンジング ホットタオル拭取り マッサージ① /整肌	クレンジングを確実に行える ようになる。マッサージの手つ き、手順を学ぶ。	ポイント、顔全体クレンジング、化 粧水塗布の手順を復習しておく。	
第6回	クレンジング ホットタオル拭取り マッサージ② /整肌		ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、化粧水塗布の手順を復習 しておく。	
第7回	エステティク概論 皮膚科学 カルテ記入法	エステティックの概論と高齢 者への対応、皮膚科学の基礎知 識を学ぶ。	事前に配布した資料を予習する	
第8回	クレンジング スキンチェック マッサージ③ / 整肌	マシンを使ったスキンチェックを行うことにより、肉眼では確認できないモデルの肌状態を知る。	ツサー・シー化料水添布(八土間を復名	
第9回	クレンジング スキンチェック マッサージ④ /整肌	マシンを使ったスキンチェックを行うことにより、肉眼では確認できないモデルの肌状態を知る。	1元 オープト 「日午14.77 しょういょうり) ・フ	
第10回	クレンジング ウッドランプ /カルテ記入 マッサージ /パック /整 肌		パックの(肌別対応)目的、効果、 塗布の手順を復習をしておく	
第11回	クレンジング /ウッドラン プ カルテ記入 /マッサージ パック /整肌	肌状態を確認し、肌に合ったパックを選ぶ。	パックの(肌別対応)目的、効果、 塗布の手順を復習をしておく	
第12回	クレンジング ディープクレンジング(酵素) マッサージ /パック /整 肌	エステティックのベーシック なメニューを通して行う。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、パック、化粧水塗布の手順を復習しておく。	
第13回	クレンジング ディープクレンジング(酵素) マッサージ /パック /整 肌	エステティックのベーシック なメニューを通して行う。	ポイント、顔全体クレンジング、マッサージ、パック、化粧水塗布の手順を復習しておく。	
第14回	技術のまとめ	フェイシャルエステの知識(目 的・効果・手順)を正しく理解 できているかを確認する。	フェイ・シャルエステの判職(日的	
第15回	技術のまとめ		フェイシャルエステの知識、技術を 正しく理解し実践出来るよう確認 する	

된 교 요	* 热带 冲型					
科目名	美齢学演習		教員名	大西 典子		
Subject	Bireigaku Practi					
開講年次 ————————————————————————————————————	2	開講時期	後期	単位	1	
必修/選択 ————	必修	授業形態	演習	時間	30	
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ	
	0	0	0	0	0	
科目の概要	人間の発展や加齢の研究と応用がなされている学際的な学問がジェロントロジーである。 このジェロントロジーをさらに、人々が年齢や障害に関係なくおしゃれを通してより豊かな 生活を送るための(支援の)概念や手段の一つである美容に特化した形が美容福祉である。 この美容福祉をより、人間のライフサイクルの様々な局面(加齢、老化、障害・病気・死) に人が美しく生きることを提唱する言葉を美齢ケアとし、これらを含んだ概念を美齢学とし た。この美齢学の基礎的な概念を構成する対象となる人を学ぶことで、美齢ケアを実践でき る能力を養う。					
授業の目標	1 現代社会における美齢学を学ぶことの意義と目的を説明できる。 2 美齢ケアの対象となる人間のライフサイクルにおける様々な課題(高齢者・障害者・がんサバイバー・認知症・終末期)と美容を関係づけることができる。 3 様々なライフサイクルでの課題(高齢者・障害者・がんサバイバー・認知症・終末期)に応じた美齢ケアが実践できる。					
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。(60分)また、各回ごとの自己の知見を/-トにまとめておく。(60分)					
	教科書	四訂美容福祉概論	学校法人山野学			
	 教材	ハッピーシャンプー、すいコ~ム				
教科書・教材	 使用設備・備品	使用設備・備品 美容実習室、介護実習室他				
	参考文献					
評価方法	平常点 (20%)、小テスト (20)、試験 (60%)					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
履修上の注意	介護実習室は、お客様の居宅と考えて行動してください。内容によって教室が変更したり、 持参するものがある場合、事前の授業の終了時にお知らせしますので確認してください。 授業で認知症サポーター講習を受けます。					
本科目履修と 関連する資格	資格名	福祉美容師、初任	者研修修了者は美名	容福祉師 2 級		
-	•					

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回	オリエンテーション 美齢学とは何かを学ぶ	 美齢学を学ぶことの意義と目 的が述べられる。	終了後に知見の/-ト整理(60分)		
第2回	対象の理解(1) 高齢者のこころとからだの変 化を学ぶ	高齢者のこころとからだの特 徴と美容のヘルスケア効果の 関連が説明できる。	事前の教科書の精読 (60 分) 終了後の知見のノート整理 (60分)		
第3回	対象の理解 (2) 高齢者疑似体験を行い、美容 室での配慮を学ぶ	高齢者のからだの変化に伴う 配慮が実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第4回		車いす利用者への配慮が実施 できる	事前の教科書の精読(60分) 終 了後の知見のノート整理(60分)		
第5回	対象の理解 (4) 認知症サポーター養成講座を 受講する	認知症者の理解と認知症サポーターとしての役割が説明で きる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第6回	美容福祉現場の実際をビデオ と同行訪問の報告から学ぶ	美容福祉現場の対象への配慮と流れをケアの原則に結び付けることができる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第7回	美齢ケア (1) 高齢者の皮膚の留意点を学 び、スキンケアとメイクを相 モデルで実施する	高齢者の個々の状況に合わせ たスキンケアとメイクが実施 できる。			
第8回	美齢ケア(2) ベッド上の人へのハッピーシャンプーを使ったシャンプー を実施する	ベッド上の人へのシャンプー が実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第9回	美齢ケア(3) ベッド上の人のすいコ〜ムを使ったヘアカットを実施する	ベッド上の人へのヘアカット が実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第10回	美齢ケア (4) ベッド上の人への五感のリラクゼーション法とハンドケアを 実施する	五感のリラクゼーション法と ハンドケアが実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第11回	美齢ケア(5) 高齢者・障がい者の装いの意 義と展開を学ぶ	高齢者・障碍者の装いと生活の 活性を関係づけられる	事前の教科書の精読 (60 分) 終了後の知見のノート整理 (60 分)		
第12回	美齢ケア(6) 車いす利用者に対する着物の 着付けをロールプレイする	車いす利用者の着付けを行う 上での配慮が工夫できる	事前の教科書の精読 (60 分) 終了後の知見のノート整理 (60 分)		
第13回	美齢ケア(7) がんサバイバーとアピアラン スケアについて学ぶ	がんサバイバーの心理とアピ アランスケアの必要性が関係 づけられる	がんに関連するニュースなどを調べておく(60分)		
第14回	美齢ケア(8) 終末期に関わる美容の意義や グリーフケアとの関連を学ぶ	終末期の苦痛とグリーフケア に美容を関係づけられる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第15回	まとめ	美しく生きることの意義が、説 明できる	事前の学習内容の復習(60分)		

		教員名	佐藤 美奈子	
General Study of	Bridal Ceremony			T
2	開講時期	前期	単位	1
選択必修	授業形態	講義	時間	30
知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
0	0	0	0	0
日本の婚礼は伝統的、民族的背景を持ち、地方の風習や影響を受けながら形成されてきました。ここでは、多様化する現代のブライダルの状況をふまえ、基礎知識と時代のニーズに則したブライダルのスタイルを幅広く総合的に学びます。欧米やアジアとの婚礼の違い、人生の中で最も輝く日の演出、現代の流行を意識した花嫁姿など婚礼の成り立ちや美容との関連性を理解することで、健常者・高齢者を問わないブライダルの非日常的要素の高い場面を具体的にイメージできる力を養います。				
婚礼(ウエディング、ブライダル)への漠然としたイメージを業務内容や形式を通し細分化して学ぶことで、ウエディング、ブライダルをより明確に把握し、婚礼の意義や美容との関わりを理解することができる。また将来婚礼業務に関わることを想定し、接客のマナーやホスピタリティを自然に身に付け、適齢期から高齢化した婚礼においても美容の視点でお客様のための建設的な企画提案ができるようになる。				
予習・復習/テキストの黙読・SNS 等の予備知識収集など合わせて 15 時間程度の予習復習補習/アシスタントブライダルコーディネーター検定のための事前勉強1回、検定1回				
教科書	テキスト有			
 教材	テキストおよび、他プリントなど必要に応じて配布			
使用設備・備品 筆記用具、ipad、総合ブライダル学専用のノートを用意すること				
参考文献				
筆記試験 60% レポート 30% 授業態度 10%				
- 40、山市教が小	たい勿口は計画別:	かにはしみせん。		
課外「ブライダルビューティアカデミー」の受講者は本科目を必ず選択、履修してください。 また ABC 検定を受験することが前提です。(試験料別途)				
①アシスタントブライダルコーディネーター (任意) 資格名 ②ブライダルアーティスト (課外授業とリンク) ③パーソナルカラーアドバイザー (課外授業とリンク)				
	2選知識①日たしの性体婚しわスの予補教 校 度本。た中を的礼でイもすメががっているをののとででいるをのののではないでである。でいるをのののでは、いくこうででである。でいるをのののでは、いくこうである。でいるをののののである。でいるをのののである。でいるをののののである。でいるをののののである。でいるをののののである。でいるをののののである。でいるとででいるとででいるとででいるとででいるとででいるとででいるとのである。でいるとでののののである。でいるとでののののである。でいるとでののののである。でいるとでののののである。でいるとでのののである。でいるとでのののである。でいるとでのののである。でいるとでのののである。でいるとでのののである。でいるとでののである。で	### Remain Study of Bridal Ceremony 2 開講時期 選択必修 授業形態	### Table 1	### 2

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第1回		結婚式の歴史を確認。 婚礼に関わる業務のチームワークを知る			
第2回	ウエディングのスタイル① 日本の婚礼形式とその装い	神前式の形式とその意味を知り、その装いを理解する	テキストを一読してくる		
第3回	ウエディングのスタイル② 欧米の婚礼形式とその装い	キリスト教婚礼の形式を知り、 その装いを理解する	テキストを一読してくる		
第4回	ブライダルのトレンド	ブライダルのトレンドについ て、ホテルブライダルの美容を 軸に考える	雑誌などで自分の好きなトレンド を探して写メしてくる		
第5回	パーソナルカラーベーシック 1 (色彩の基本)	色の組み合わせを学び、似合う 色を理解できるようになる			
第6回	パーソナルカラーベーシック 2 (パーソナルカラーシステム)	お客様に似合う色を選べるよ うになる	自分の似合う色を意識したメイク や服装をした画像を撮る		
第7回	ブライダルのキャリア	就職に向けたブライダル業界 の最新情報を知る	ブライダル業界の会社を数社ピッ クアップしておく		
第8回	フォーマルファッション ブライドとグルームの装い	ファッションを軸に、ウエディ ングドレスやメンズのコーディネイトを理解する	洋装、和装の新婦の画像をみつけて くる		
第9回	アジアブライダルサミット	アジアの婚礼を通して、伝統文 化と婚礼のつながりを考える	自国の婚礼とアジアの関連をレポ ートする		
第10回	結納とプランニング	挙式のプランニングができる ようになる			
第11回	レセプションの企画	コーディネイターになってレ セプションを企画してみる	前回の授業を活かし、自分なりのウェディングスタイルをイメージしてく		
第12回	ブライダルの専門用語	ブライダルに関わる知識を学 び専門用語を理解する	接客用語で会話をしてみる		
第13回		ABC 検定受験によりのための 練習問題を通しブライダルに 関する知識力をつける	配布されたプリント問題を解き、理 解してない箇所は復習する		
第14回	テキスト総まとめ	知識として理論的に全体を確 認する	テキストを熟読してくる		
第15回	まとめ	婚礼を知識として理解できた かどうかを総合的に確認する。	テキストだけでは無く、授業内で出 たワードについても復習して臨む こと		

科目名	基礎介護演習				
Subject	Basic Care Work	Practice	教員名	大西 典子 大	野淑子
開講年次	1	開講時期	後期	 単位	4
必修/選択	選択	授業形態	演習	時間	130
主な学習効果	知識・技能	思考力・判断力	表現力	主体的行動力	ホスピタリティ・ コミュニケーションカ
工な子自効末	0	0	0	0	0
科目の概要	本学では、「美しく生きる」社会をめざす美容福祉の推進のために日本美容福祉学会の規定する美容福祉師の認定資格要件として、介護を学ぶことを進めてきました。平成 25 年から介護職員初任者研修の導入により美齢学の重要な学びの一端として継続しています。介護の知識や技能と態度の育成方法は単に高齢社会の理解につながるだけではなく、美容に携わる人たちにとって重要な適用能力の育成にもつながります。				
授業の目標	1 現代社会における介護の目的が述べられる。 2 介護福祉サービスと多職種連携の形が述べられる。 3 介護におけるコミュニケーションが実践できる。 4 介護の必要な対象が説明できる。 5 生活支援技術が実践できる。				
時間外学習 (予習・復習)	毎回の授業内容に関わる教科書や関連する情報などを調べ、授業がより深く理解できるようにする。(60分)また、各回ごとの自己の知見を/-トにまとめておく。(60分)また、演習については繰り返し終了後に練習する(60分)ことで習得できる。				
	教科書	介護職員初任者研	 修テキスト全 2 巻	中央法規	
	教材				
教科書・教材 	使用設備・備品	介護実習室など			
	参考文献				
評価方法	実技試験・修了試験 なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。				
	505、四师纵//	~~^~ 切口 10 日	~ LIG O G E /Vo		
履修上の注意	介護実習室の使用上の注意を介護実習開始前に行います。なお全行程は 130 時間を要します				30 時間を要します
本科目履修と 関連する資格	資格名	介護職員初任者研	修修了		

		授業計画	
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	オリエンテーション 介護の職務の理解 1 (1) 多様なサービスの理解	介護の職務が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第2回	介護の職務の理解 1 (2) 介護職の仕事内容や働く現場 の理解	介護の職務が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第3回	介護における尊厳の保持2 (1)人権と尊厳を支える介護	人権と尊厳が述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第4回	介護における尊厳の保持2 (2)自立に向けた介護	自立に向けた介護が説明でき る	事前の教科書の精読(60分)
第5回	介護の基本3 (1) 介護職の役割、専門性と多職 種との連携	介護職の専門性が述べられる	事前の教科書の精読 (60 分)
第6回	介護の基本3 (2) 介護職の職業倫理	介護職の職業倫理が述べられ る	事前の教科書の精読(60分)
第7回	介護の基本3(3) 介護における安全の確保とリ スクマネージメント	介護のリスクマネージメント が説明できる	事前の教科書の精読(60分)
第8回	介護の基本3 (4) 介護職の安全	感染予防について述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第9回	介護福祉サービスの理解と医療との連携4(1) 介護保険制度	介護保険制度について述べら れる	事前の教科書の精読 (60分)
第10回	介護福祉サービスの理解と医療との連携4(2) 医療との連携とリハビリテーション	リハビリテーションが説明で きる	事前の教科書の精読(60分)
第11回	介護福祉サービスの理解と医療との連携4(3) 障害者自立支援制度及びその他の制度	障害者自立支援制度が説明で きる	事前の教科書の精読(60分)
第12回	介護におけるコミュニケーション技術5(1) 介護におけるコミュニケーション	介護におけるコミュニケーション意義が述べられる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のレポート(60分)
第13回	介護におけるコミュニケーション技術5(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	介護記録の意味が説明できる	事前の教科書の精読(60分) 終了後の知見のレポート(60分)
第14回	老化の理解6(1) 老年期の発達と老化に伴う心 身の変化の特徴	老年期の心身の変化の特徴が 述べられる	事前の教科書の精読(60分)
第15回	老化の理解 6 (2) 高齢者と健康	高齢者に多い病気や症状が説 明できる	事前の教科書の精読(60分)

授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考	
第16回	認知症の理解7(1) 認知症をとりまく環境	認知症ケアの概念が理解できる	事前の教科書の精読(60分)	
第17回	認知症の理解 7 (2) 医学的側面からみた認知症の 基礎と健康管理	認知症の概念が述べられる	事前の教科書の精読(60分)	
第18回	認知症の理解7(3) 認知症に伴うこころとからだ の変化と日常生活	認知症の人の生活障害が説明 できる	事前の教科書の精読(60分)	
第19回	認知症の理解7 (4) 家族への支援	認知症の家族への支援が述べ られる	事前の教科書の精読(60分)	
第20回	障害の理解8(1) 障害の基礎的理解	障害の概念が述べられる	事前の教科書の精読(60分)	
第21回	障害の理解8 (2) 障害の医学的側面、生活障害 などの基礎知識	身体障害・知的障害・精神障害・ 発達障害・難病について述べら れる	事前の教科書の精読(60分)	
第22回	障害の理解8(3) 家族の心理、かかわり支援の 理解	家族心理が説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)	
第23回	介護に関する基礎的理解 9 (1)介護の基本的な考え方	介護の理論が述べられる	終了後の知見のノート整理(60分)	
第24回	介護に関する基礎的理解 9 (2)介護に関するこころの しくみの基礎的理解	記憶・自己概念・生きがいにつ いて説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)	
第25回	介護に関する基礎的理解9 (3)介護に関するからだの しくみの基礎知識	人体各部の名称・ボディメカニ クスが説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)	
第26回	生活と家事 1 (1)生活と家事の理解	生活行動と家事の関連につい て説明できる	事前の教科書の精読(60分)	
第27回	生活と家事 1 (2)家事援助に関する基礎 的知識	家事援助の意義が説明できる	終了後の知見のノート整理(60分)	
第28回	生活と家事 1 (3)家事援助に関する生活 支援	生活支援が実践できる	終了後練習する (60分)	
第29回	快適な居住環境と介護 2 (1)快適な居住環境に関す る基礎知識	快適な居住環境の意義が説明 できる	事前の教科書の精読(60分)	
第30回	快適な居住環境と介護 2 (2)高齢者・障害者特有の 居住環境整備	高齢者・障害者特有の居住環境 に整備できる	終了後練習する(60分)	

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第31回	快適な居住環境と介護 2 (3) 高齢者・障害者特有の 福祉用具の活用	福祉用具の活用ができる	終了後練習する (60分)		
第32回	整容に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護3 (1)整容に関する基礎 知識	整容に関する意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)		
第33回	整容に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護3(2)整容の支援	整容の技術が実践できる	終了後練習する(60分)		
第34回	整容に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護3(3)社会参加①	社会参加が計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第35回	護3 (4) 社会参加②	社会参加の言葉かけができる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第36回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護4(1)移動・移乗に関する基礎知識	移動・移乗の意義が説明できる	事前の教科書の精読(60分)		
第37回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護4(2)移動・移乗に関する福祉用具	移動・移乗に関する福祉用具が 活用できる	終了後練習する(60分)		
第38回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護4(3)移動支援方法	移動が支援できる	終了後練習する(60分)		
第39回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護4(4)移乗支援方法	移乗が支援できる	終了後練習する(60分)		
第40回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護4(5)社会参加①	社会参加が計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第41回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護4(6)社会参加②	社会参加の言葉かけができる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第42回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護5(1)基礎知識	口から食べることの意義が説 明できる	事前の教科書の精読(60分)		
第43回	食事に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護5(2)食事環境整備	食事環境が整備できる	終了後練習する(60分)		
第44回	食事に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護5(3)食事の支援方法	食事の支援が実施できる	終了後練習する(60分)		
第45回	食事に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護5(4)社会参加①	社会参加に結び付けて計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)		

	授業計画				
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考		
第46回	食事に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護5(5)社会参加②	社会参加に結び付けた言葉か けができる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第47回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護6(1)基礎知識	入浴・清潔保持の意義が説明で きる	事前の教科書の精読(60分)		
第48回		入浴・清潔保持に関連する用具 が活用できる	終了後練習する(60分)		
第49回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護6(3)支援方法	入浴・清潔保持に関わる支援が 実施できる	終了後練習する(60分)		
第50回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護6(4)社会参加①	社会参加に向けて計画できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第51回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護6(5)社会参加②	社会参加に結び付けた言葉か けができる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第52回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護7(1)基礎知識	排泄とプライバシー保持の関 連が説明できる	事前の教科書の精読(60分)		
第53回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護7(2)環境整備	排泄環境が整備できる	終了後の練習(60分)		
第54回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護7(3)用具の活用	排泄に関連する用具が活用で きる	終了後の練習(60分)		
第55回	排泄に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護7(4)支援方法	排泄の支援が実施できる	終了後の練習(60分)		
第56回	排泄に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護7(5)社会参加	排泄と社会参加が関連させら れる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第57回	睡眠に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護8(1)基礎知識	睡眠と睡眠環境の整備の意義 が説明できる	事前の教科書の精読(60分)		
第58回	睡眠に関連したこころとから だのしくみと自立に向けた介 護8(2)支援方法	睡眠環境が整備できる	終了後の知見のノート整理(60分)		
第59回	死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護 9(1)終末期の基礎知識	終末期の過程が説明できる	事前の教科書の精読(60分)		
第60回	死にゆく人に関したこころとからだのしくみと終末期介護 9 (1)終末期の支援	外見のケアが実施できる	終了後の知見のノート整理(60分)		